Mercedes-Benz

G-class
取扱説明書

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。
本書は車の取り扱いや手入れ、万一のときの処置などの必要事項を説明しています。
特に警告、注意、知識など、車を取り扱う上で重要なことが記載されています。
ご使用前に必ずお読みください。

⚠警　告

●事故や命にかかわる重大なけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいこと。

注　意！

◆車を取り扱う上でけがや車の損傷を未然に防ぐために必ず守っていただきたいこと。

知　識

◇知っておいていただきたいことや知っていると便利なこと。

◇オプション装備や仕様により異なる装備には＊印が付いています。
◇車の仕様変更などにより、取扱説明書の内容が車と一致しない場合がございますのでご了承ください。
◇点検整備については、別冊の「整備手帳」をお読みください。
◇オーディオについては、別冊の取扱説明書をお読みください。
◇「取扱説明書」「整備手帳」は車の中に保管してください。
◇車をお譲りになるときは、次のオーナーのために「取扱説明書」「整備手帳」を車に付けてお渡しください。
◇ご不明な点は、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

ダイムラー・クライスラー社は、資源を有効利用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

ダイムラー・クライスラー日本株式会社

目　次

目 次

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
2
1
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
12
11

1
2
3
1
4
5
6
7
8
9
4
SRS
AIRBAG
10
11
12

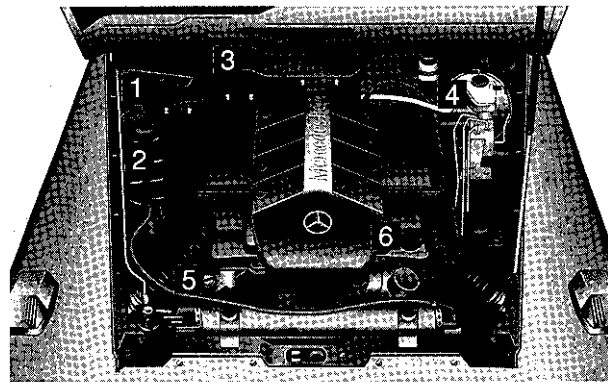
＊仕様などにより装備が異なります

G320

G320L / G500L / G55L AMG

イラスト目次（エンジンルーム）

G320 / G320L

1 ウォッシャー液リザーブタンク・・246ページ
2 冷却水リザーブタンク ・・・・・・・240ページ
3 ダストフィルター ・・・・・・・・・・194ページ
4 ブレーキ液リザーブタンク・・・・・244ページ
5 エンジンオイルレベルゲージ ・・・242ページ
6 エンジンオイルフィラーキャップ 242ページ

G500L

1 ウォッシャー液リザーブタンク・・246ページ
2 冷却水リザーブタンク ・・・・・・・240ページ
3 ダストフィルター ・・・・・・・・・・194ページ
4 ブレーキ液リザーブタンク・・・・・244ページ
5 エンジンオイルレベルゲージ ・・・242ページ
6 エンジンオイルフィラーキャップ 242ページ

安全ドライブのために

車を安全にお使いいただき、思わぬ事故を招かないために、必ず以下の注意事項を守ってください。

出かける前には

点検整備を忘れずに

◇日常点検や定期点検はお客様の責任で実施していただくことが法律で義務づけられています。点検項目については別冊の「整備手帳」をご覧ください。

普段と違うときは

◇普段と違う音や臭いがするときや、車を停めていた場所に水やオイルの跡が残っているときなどは、指定サービス工場で早めに点検を受けてください。

タイヤの空気圧を点検する

◇タイヤの空気圧が適正であることを点検してください。空気圧が低いまま走行すると、タイヤがバースト(破裂)するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。また、タイヤに損傷がないことを確認してください。

シートベルトは必ず着用

◇シートベルトは必ず着用してください。シートベルトの正しい着用方法については32ページをご覧ください。

運転席の足元に注意

◇運転席の足元には、ものを置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に入り、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

車庫内では

◇車庫などの換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。排気ガスに含まれている一酸化炭素を吸い込むと、中毒や死に至るおそれがあります。

燃料を給油するとき

◇燃料は必ず無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリンを使用すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。

◇燃料は、目的地まで余裕をもって走行できる量が入っていることを確認してください。

荷物を積むときは

◇荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。

◇車内に荷物を積むときは正しく積んで固定してください。不用意に荷物を積むと、荷物が放り出され乗員にけがをさせるおそれがあります。

可燃物は積まないで

◇燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるときは

シートベルトを必ず着用
◇シートやヘッドレストが正しい位置に調整してあり、シートベルトを正しく着用していることを確認してください。
◇走行中は、幼児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せないでください。子供が大人と車の間に挟まれてけがをするおそれがあります。

子供にはチャイルドセーフティシートを
◇シートベルトが正しく着用できない子供には、必ず純正のチャイルドセーフティシートを使用してください。詳しくは37ページをご覧ください。
◇6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシートを着用させることが法律で義務づけられています。6歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できないときは、チャイルドセーフティシートを着用させてください。
◇チャイルドセーフティシートはリアシートに取り付けてください。やむをえず助手席シートに取り付けるときは前向きに取り付けシートを最後部にしてください。

子供はリアシートに座らせる
◇子供はリアシートに乗せる方が安全です。助手席では子供の動作が気になったり、子供が運転装置などにさわり運転の妨げになることがあります。
◇子供がインストルメントパネルに手をついたり、正しい姿勢で座っていないと、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。

子供には操作させないで
◇ドアやウインドウの開閉は大人が行なってください。手や頭などを挟むおそれがあります。

窓やルーフから顔や手を出さない
◇パワーウインドウのセーフティスイッチ(57ページ)や、リアドア＊のチャイルドプルーフロック(56ページ)を使用してください。
◇ウインドウから手や頭を出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時にけがをするおそれがあります。

車から離れるときは
◇子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤って装置を作動させたりして、けがをするおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、火傷や脱水症状を起こすおそれがあります。

＊仕様などにより装備が異なります

走行するときは

◇車間距離を十分に取り、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いときは

◇横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、速度を下げて進路を保ってください。

トンネルに進入するとき

◇トンネルに進入するときは、ライトを点灯し、速度を下げてください。照明の悪いトンネルでは、進入直後、急に視界が悪くなることがあります。トンネルを出た後はライトの消し忘れに注意してください。

エンジンブレーキの適時使用

◇長い下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏みつづけると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。

自動車電話や携帯電話

◇走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。ハンズフリー機能を使用しても、一瞬の注意力のゆるみが事故につながるおそれがあります。安全な場所に停車して使用してください。

滑りやすい路面

◇滑りやすい路面では、シフトダウンによる急激なエンジンブレーキを使用しないでください。車がコントロールを失うおそれがあります。

水たまり走行後は

◇洗車後や水たまり走行後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、ブレーキペダルを数回軽く踏んでブレーキを乾かしてください。

スタック(立ち往生)したとき

◇スタックから脱出するときは周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動きだし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

◇タイヤを高速で回転させないでください。タイヤが破裂したり、異常過熱による火災などの事故につながるおそれがあります。

◇アクセルを過度に空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。

◇スタックからの脱出には、デファレンシャルロック(158ページ)を使用してください。

きびしい条件下での運転

◇発進や停止が多い市街地、山間部や路面状態の悪い道路、トレーラーけん引など、きびしい条件下で運転するときは、タイヤ、エアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を、お客様の判断で行なうことも必要です。
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

走行中異常に気づいたら

警告灯が点灯したとき

◇ただちに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。点灯したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。

ボディ底部に強い衝撃を受けたとき

◇ただちに安全な場所に停車して下回りを点検してください。そのまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかったときは運転を中止し、指定サービス工場に連絡してください。

駐停車するときは

◇排気管は非常に高温になりますので、周囲に枯れ草や紙、油などの燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
◇急な坂道で駐車するときは、駐車ブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P の位置にしてください。さらにタイヤに木片、石などを利用して輪止めをしてください。
◇同乗者がドアを開けるときは、危険がないことを運転者が確認してください。

換気の悪い場所ではエンジンをかけない

◇換気が悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。排気ガスが車内に入り一酸化中毒になるおそれがあります。

仮眠するときは

◇車内で仮眠するときは、必ずエンジンを停止してください。無意識にセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込み車が不意に発進したり、エンジンや排気管の異常過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

後退するときは

◇後退するときに、後方視界が十分得られないときは、車から降りて後方の安全確認をしてください。

こんな点にも注意を

◇摂取後の運転が禁止されている薬や、酒などを飲んだときは絶対に運転をしないでください。
◇ナビゲーションシステムの操作は、できるだけ運転中を避け、安全な場所に停車してから行なってください。走行中に画面を見るときは、必要最小限(約1秒以内)にしてください。
◇違法改造は絶対にしないでください。
◇運転席のフロアマットは、必ず純正品を正しく敷いてください。車に合わない製品を使用するとブレーキペダルやアクセルペダルにひっかかり、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。
◇ゴム製のフロアマットを使用するときは、必ず標準のフロアマットを取り外してください。
◇ライターを車内に置かないでください。炎天下の車内は大変高温になるためライターが爆発するおそれがあります。
◇ペダル操作の妨げになるような靴(厚底靴など)を履いて運転しないでください。
◇砂浜や自然林での走行など、自然の体系を乱すような行為はルール違反です。規制地域への乗り入れ違反は6ヶ月以下の懲役または30万円以下の罰金になります。

オートマチックトランスミッション車の取扱い

運転する前にオートマチックトランスミッションの以下の特性を理解し、正しい操作をしてください。155ページもあわせてご覧ください。

オートマチックトランスミッション車の特性

■クリープ現象

エンジンが回転しているときに、セレクターレバーを P 、 N の位置以外に入れてブレーキペダルから足を放すと、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。これをクリープ現象といいます。

■キックダウン

走行中にアクセルペダルを一気に踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がります。これを利用すると、車を素早く加速させることができます。これをキックダウンといいます。

始動する前に

◇ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。不慣れな左足で操作すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

◇事前に必ずブレーキペダルを踏み、ブレーキの踏みしろや踏みごたえが適正であることを確認してください。

始動するとき

◇エンジンは、セレクターレバーが N の位置に入っているときも始動できますが、安全のため、必ず P の位置に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

発進するとき

◇エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。

◇セレクターレバーを走行位置に入れるときは、必ずブレーキペダルを踏んでください。車が急発進するおそれがあります。

◇急な上り坂で発進するときは、駐車ブレーキを効かせたままアクセルペダルをゆっくりと踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してから駐車ブレーキを解除し、発進してください。

走行しているとき

◇走行中はセレクターレバーを N の位置に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、思わぬ事故につながったり、トランスミッションの不具合の原因になることがあります。

◇急激なエンジンブレーキ(一気に1速ギアにシフトダウンしたりする)を効かせないでください。車がスリップしてコントロールを失うおそれがあります。

■エンジンブレーキ

走行中にアクセルペダルを戻すと、車にブレーキ力が働きます。これをエンジンブレーキといいます。エンジンブレーキは、低速ギアほど効きが強くなります。

停車するとき

◇停車中は空吹かしをしないでください。万一セレクターレバーが P 、 N 以外の位置に入っていると車が急発進して人やものに衝突するおそれがあります。

◇急な上り坂では、アクセルペダルの踏み加減で停止状態を保たないでください。トランスミッション損傷の原因になります。

◇停止中は、クリープ現象で車が前に進まないように、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

◇車が完全に停止しないうちにセレクターレバーを P の位置に入れないでください。トランスミッション損傷の原因になります。

駐車するとき

◇車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P の位置に入れてください。
特に坂道に停車したときは、セレクターレバーが P 以外の位置に入っていると、車が動き出すおそれがあります。

◇後退した後は、ただちにセレクターレバーを R の位置から P 、 N の位置に戻すよう心がけてください。 R の位置に入っていることを忘れてアクセルを踏み、思わぬ事故につながることがあります。

4輪駆動車(4WD)の取扱い

4輪駆動走行は、滑りやすい路面などで本来の優れた走行性能を発揮しますが、どこでも走れる万能車ではありません。路面の状況や斜面に注意して安全運転を心がけてください。
165ページのオフロードでの走行もあわせて参照してください。

オフロード走行は慎重に
急加速や急ブレーキ、急ハンドルを避けてください。横滑りや横転などの原因になります。また、車をジャンプさせないでください。車体や駆動装置を損傷するおそれがあります。

積雪路や凍結路を走行するときは
できるだけ低速で走行し、急加速や急ブレーキ、急ハンドルを避けてください。

砂地やぬかるみを走行するときは
車から降り、砂地やぬかるみの状態を確認してから、できるだけ低速で走行してください。

急な坂道を上るときは
土手や斜面では、傾斜に対してまっすぐに走行してください。斜めに走行すると、車が横転するおそれがあります。

乾燥した舗装路、高速道路を走行するときは
◇トランスファーケースを"LOW"(162ページ)に入れないでください。エンジンが高回転になり、エンジンを損傷するおそれがあります。
◇デファレンシャルロック(158ページ)を作動させないでください。ハンドルが切れにくくなるため、車が直進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。駆動装置を損傷するおそれがあります。

オフロード走行後
損傷した箇所がないか入念に点検してください。損傷があるときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

慣らし運転

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」を行なうことをお勧めします。
新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

慣らし運転の方法：
最初の1500kmまでは以下の注意事項を守ってください。

1 エンジン回転数が、許容限度の2/3（許容限度が6000回転のときは約4000回転）を超えないように運転してください。
2 重いもののけん引など、エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
3 いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
4 キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
5 ティップシフト位置 3 、 2 、 1 は山道など低速で走行するときだけに使用してください。

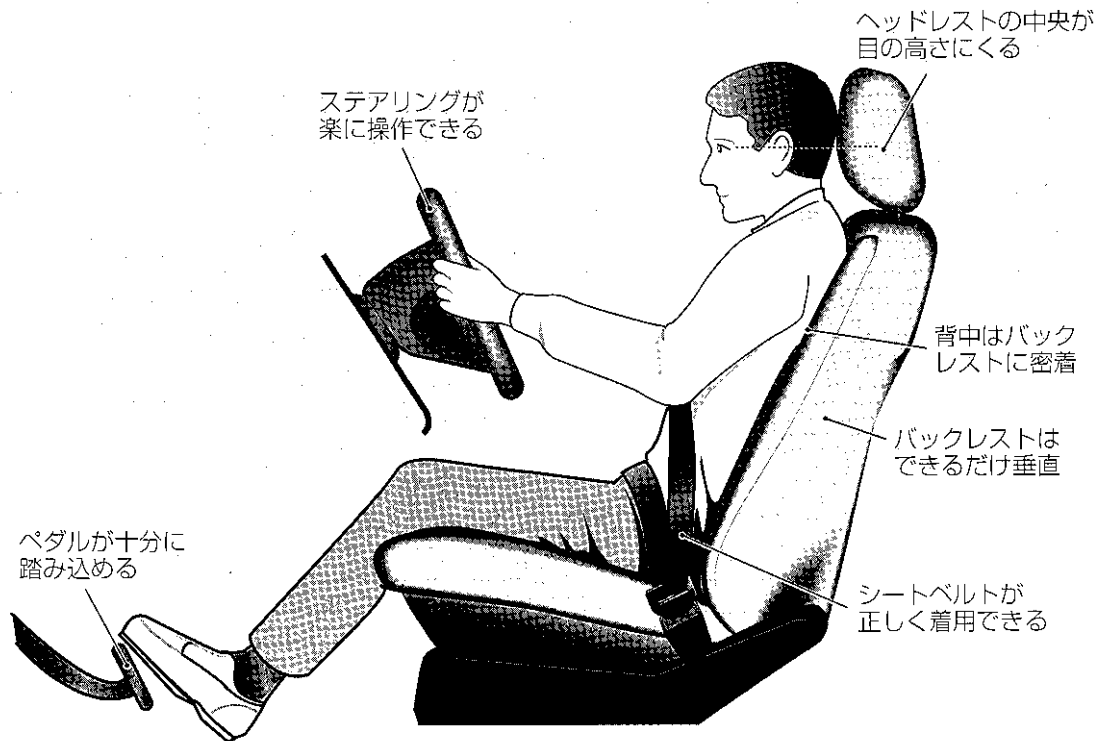
走行距離が1500kmを超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転域まで上げてください。

知　識

◇新車時には、高速走行の後などにエンジンルームからわずかの白煙や臭いが出ることがあります。これはエンジンルーム内の防錆ワックスが過熱されて発生したもので、心配はありません。

安全装備

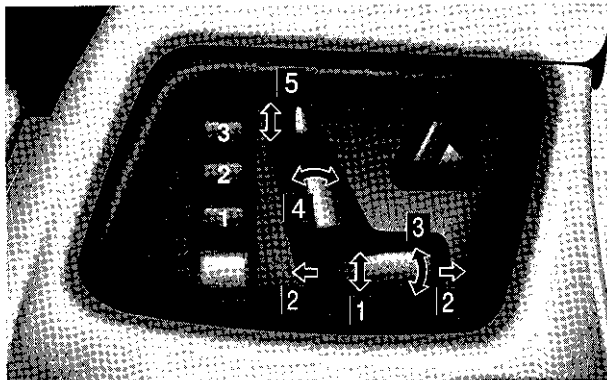
正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、以下の点に注意してシートを調整してください。

⚠警　告

●必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整すると、車のコントロールを失うおそれがあります。
●バックレストと背中の間にものを挟まないでください。事故のとき、思わぬけがをするおそれがあります。
●シートのバックレストを大きく傾けた状態で走行しないでください。事故のとき、体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

注　意！

◆シートを調整しているときは、シートの下に手や足を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
◆シートの一部が人やものに当たったときは、それ以上操作しないでください。
◆ドアを開いたままにしないでください。ドアが開いているとドアのスイッチでシートを動かすことができるため、誤ってシートを動かし、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

フロントシート

左側ドア

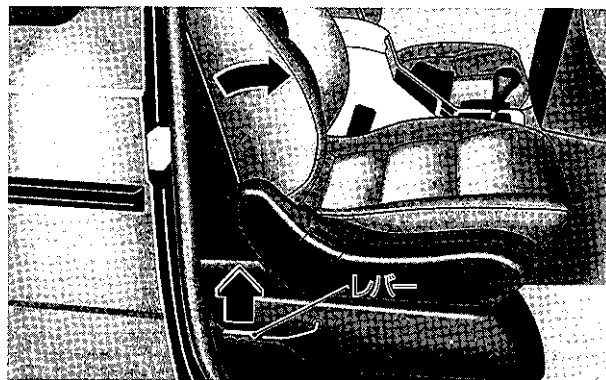
フロントシートの調整
エンジンスイッチが1か2の位置のとき、またはフロントドアが開いているときスイッチを操作して調整します。

◇シートの高さ
1の矢印の方向に操作します。
◇シートの前後
2の矢印の方向に操作します。
ヘッドレストの高さも連動して上下します。
◇クッションの傾き
3の矢印の方向に操作します。
◇バックレストの傾き
4の矢印の方向に操作します。
◇ヘッドレストの調整
5の矢印の方向に操作して上下位置を調整します。
傾きは手で調整します。

注　意！

◆シートの前後の調整をするときは他の乗員の手などが挟まれてけがをしないように注意してください。
◆シートの前後を調整したときは、ヘッドレストの中央が目の高さになっているか確認してください。必要に応じて再調整してください。

知　識

◇バッテリーの交換などで一時的にバッテリーとの接続が断たれると、ヘッドレストがシートの前後調整に連動しなくなります。このときは、ヘッドレストスイッチでヘッドレストを一番低い位置にし、シートスイッチでシートを最前位置にしてから、そのままスイッチを約4秒間押しつづけます。ヘッドレストも連動して動くようになります。

リアシートへの乗降（G320）

レバーを引き上げフロントシートを前方に倒します。元に戻すときは、シートをロックするまで後方に起こします。

知　識

◇シートを前に倒すとヘッドレストが下がり、シートを戻すと、ヘッドレストも元の位置に戻ります。

注　意！

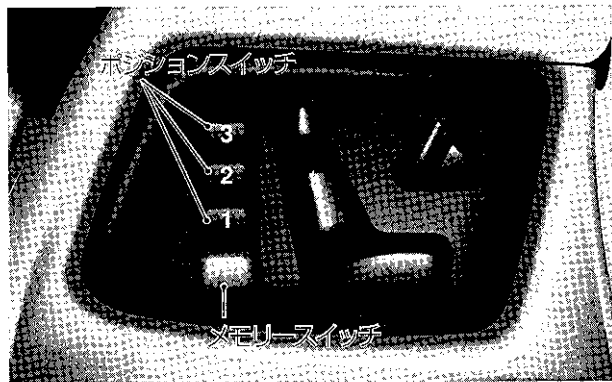
◆シートを元に戻すときは、確実にロックされたか確認してください。

ヘッドレストの脱着

取り外すときはヘッドレストスイッチでヘッドレストをいっぱいに上げてから、ヘッドレストの支柱を持ち引き上げます。

取り付けるときはヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込みます。

⚠警　告

●人が乗車しているときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

シート位置の記憶

フロントシートは、シート位置を記憶させることができます。さらにキーごとにそれぞれに違うシート位置を記憶させることができます。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、またはフロントドアが開いているときに記憶させることができます。

1 記憶させたい位置にシートを調整します。

2 メモリースイッチを押し、その後3秒以内にポジションスイッチ(**1**～**3**)のいずれかを押します。押したポジションスイッチにシート位置が記憶されます。

他のポジションスイッチにも同様の方法でシート位置を記憶させることができます。何人かで運転をするときに使い分けると便利です。

記憶させたシート位置を呼び出すには：

呼び出したいシート位置を記憶させたポジションスイッチを押しつづけるとシートが動きはじめ、記憶させた位置になると停止します。

知　識

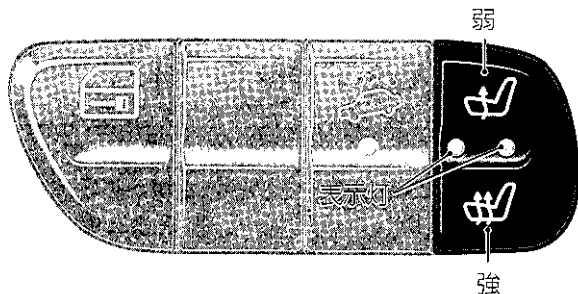
◇安全のため、ポジションスイッチから手を放すと、ただちにシートの動きが停止します。

◇運転席は、シート位置とともに、ステアリングの位置と左右のドアミラーの角度も記憶されます。

◇キーごとに違うシート位置を記憶させたいときは、各種設定(133ページ)をご覧ください。

◇エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときは、キーごとに違うシート位置を記憶させることはできません。

注　意！

◆バックレストを大きく後ろに傾けているときは、先にバックレストを起こしてから記憶位置を呼び出してください。

シートヒーター

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき使用できます。
強、弱、オフを切り替えることができます。

弱：上側を押すと約30分間作動し表示灯が1つ点灯します。
強：下側を押すと表示灯が2つ点灯し約5分間作動します。その後弱に切り替わり約30分間作動します。

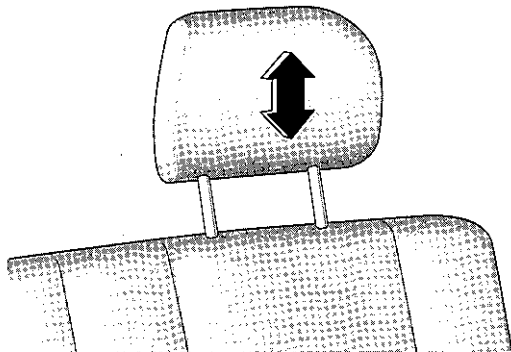
弱のときはスイッチの上側を、強のときはスイッチの下側を押すと作動を停止します。

知　識

◇バッテリーの電圧が低くなると、バッテリー上がりを防ぐため一時的に作動を停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると作動を再開します。

注　意！

◆シートに凸部のある重量物を置かないでください。ヒーターを損傷することがあります。
◆シートヒーターを連続して使用したり、毛布やクッションなど保温性の高いものを掛けたりすると、異常過熱や故障のおそれがあります。また、以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷(紅斑、水ぶくれ)をするおそれがありますので、十分注意してください。
- 乳幼児、お年寄り、病人、体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気をさそう薬を使用された方
- 飲酒した方

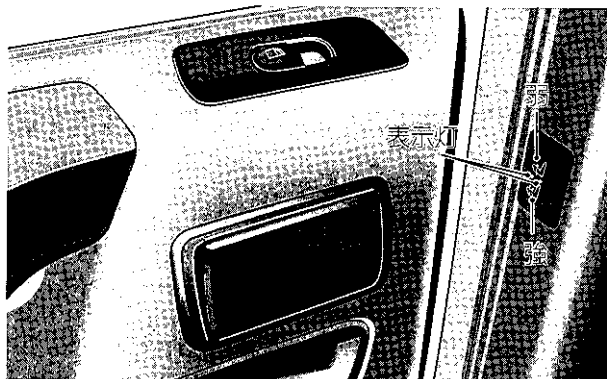
リアシート

ヘッドレストの調整

上下の調整：
矢印の方向に手で上下させます。

ヘッドレストの取り外し

ヘッドレストを引き上げて取り外します。
取り付けるときは、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込み、押し込みます。

⚠警　告

- **リアシートに人が乗っているときは、必ずヘッドレストを装着してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。**
- **フロントシートとリアシートのヘッドレストを逆に取り付けないように注意してください。**

リアシートヒーター＊
エンジンスイッチが**2**の位置のとき使用できます。
強、弱、オフを切り替えることができます。

弱：上側を押すと約30分間作動し表示灯が1つ点灯します。
強：下側を押すと表示灯が2つ点灯し約5分間作動します。その後弱に切り替わり約30分間作動します。

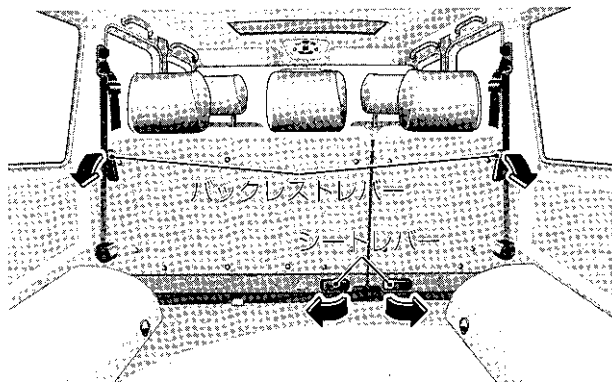
弱のときはスイッチの上側を、強のときはスイッチの下側を押すと作動を停止します。

知　識

◇バッテリーの電圧が低くなると、バッテリー上がりを防ぐため一時的に作動を停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると作動を再開します。

注　意！

◆シートに凸部のある重量物を置かないでください。ヒーターを損傷することがあります。
◆安全のため、リアシートヒーターは、過熱すると(リアシートが折りたたまれている場合など)作動を停止します。
◆シートヒーターを連続して使用したり、毛布やクッションなど保温性の高いものを掛けたりすると、異常過熱や故障のおそれがあります。また、以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷(紅斑、水ぶくれ)をするおそれがありますので、十分注意してください。
- 乳幼児、お年寄り、病人、体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気をさそう薬を使用された方
- 飲酒した方

＊仕様などにより装備が異なります

G320L / G500L / G55L AMG

分割可倒式リアシート

バックレストの左右いずれか一方、または両方を倒したとき、またリアシートを折りたたんだ状態のときにラゲッジスペースを拡大することができます。

バックレストの倒しかた：

1 ヘッドレストを一番下まで下げます。

2 バックレストレバーを矢印方向に引き、バックレストを前方に倒します。

バックレストを元の位置に戻すとき：

バックレストレバーを引き上げてロックを外し、バックレストを引き起こします。

リアシートを折りたたむとき：

1 バックレストを前方に倒します。

2 シートレバーを引いてリアシートの後部に手を掛けて引き起こし、前方に折りたたみます。

リアシートを元に戻すとき：

シート後部をロックするまで下げます。

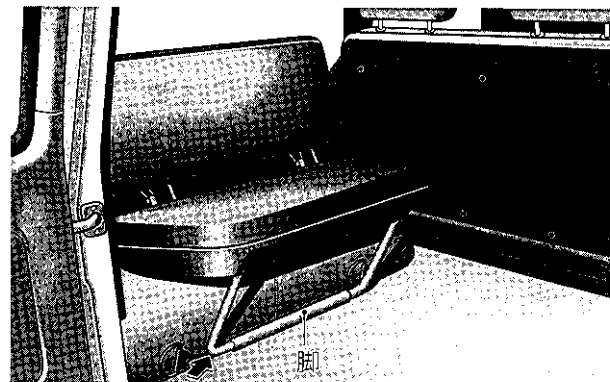
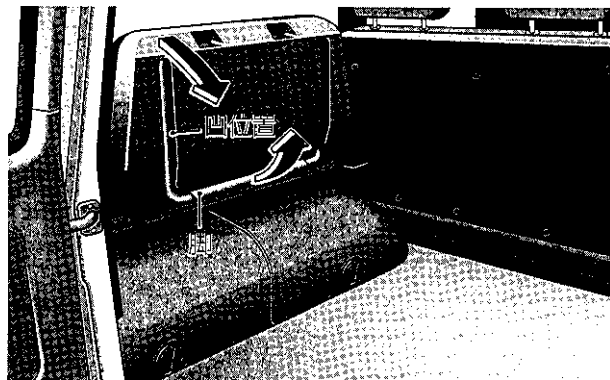
⚠警　告

●走行中にシートを折りたたまないでください。

●リアシートを折りたたんで、荷物を積むときは、必ず荷物を固定してください。荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

注　意！

◆リアシートを折りたたむときは、手や荷物などを挟まないように注意してください。

荷物の固定については66ページをご覧ください。

サードシート*

シートを格納するとき

シートを持ち上げ、シートの脚を折りたたみ凹の位置に収納します。

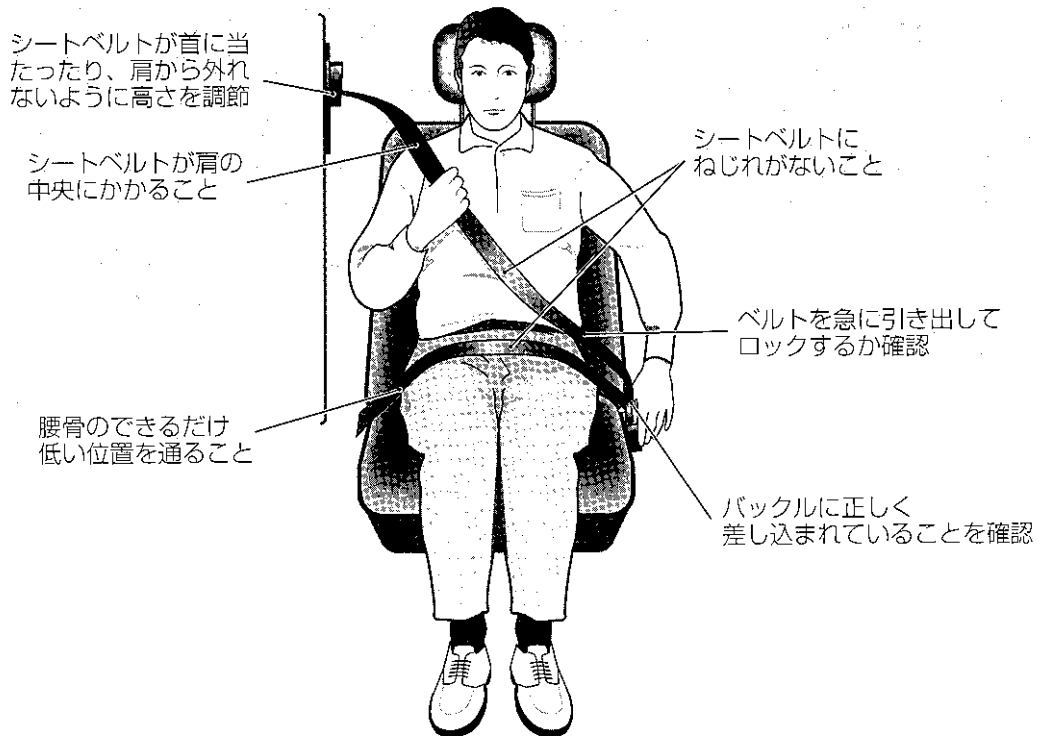
シートを使用するとき

1 シートの脚を引き出します。
2 シートを下げ、脚が矢印部分(右上図)で固定されるようにします。

> ⚠警 告
>
> ●サードシートに人を乗せているときは、必ずリアシートを使用状態(着席位置)にしてください。

*仕様などにより装備が異なります

シートベルト

シートベルトには、事故によるけがを最小限におさえる働きがあります。
シートベルトは､強い衝撃などで体が前方に移動して急激に引き出されたとき、自動的にロックします。
走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。正しく着用しないとシートベルトの働きが半減したり、けがをするおそれがあります。
以下の点に注意して正しく着用してください。

⚠警　告

●シートベルトは必ず着用してください。緊急ブレーキや事故のとき、体を車内に打ちつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。

●シートベルトは正しく着用してください。
緊急ブレーキや事故のとき、十分な効果が発揮されず、けがをするおそれがあります。以下の事項を厳守してください。

◇脇の下に通さないでください。体が前方に飛び出して頭部や首、肋骨や腹部に衝撃を受けます。

◇腹部にかけないでください。腹部を強く圧迫されます。

◇ねじれた状態で着用しないでください。部分的に衝撃が集中します。

◇1本のシートベルトを2人以上の乗員で共用したり、シートベルトと体の間にものを挟まないでください。

◇クリップや市販のアクセサリーなどを使ってシートベルトにたるみをつけないでください。

◇妊娠中の女性も、医師と相談のうえ、シートベルトを着用してください。

注　意！

◆鋭い角のあるものなどがシートベルトに当たらないようにしてください。胸のポケットにペンや眼鏡などを入れておくと、破損してけがをしたり、シートベルトを損傷するおそれがあります。

◆たばこの火や熱いものをシートベルトに近づけないでください。シートベルトは熱に弱いので、損傷するおそれがあります。

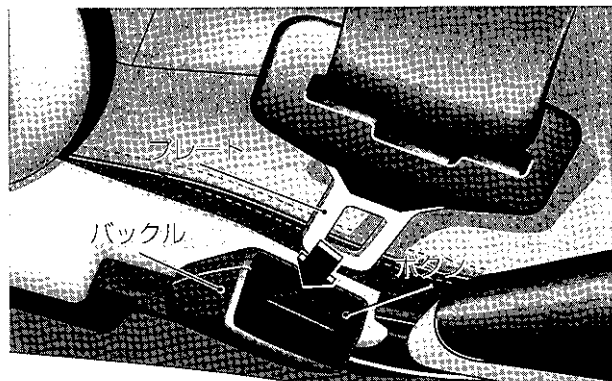
◆事故などでシートベルトに傷が付いたり、強い圧力を受けたときは、シートベルトを交換するとともに、取り付け部も点検してください。
点検や交換は必ず指定サービス工場で行なってください。

◆シートベルトは必ず純正品を使用してください。

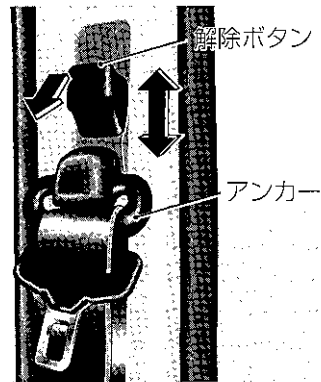
シートベルト警告灯

エンジンスイッチが**2**の位置のとき点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)数秒後に消灯します。

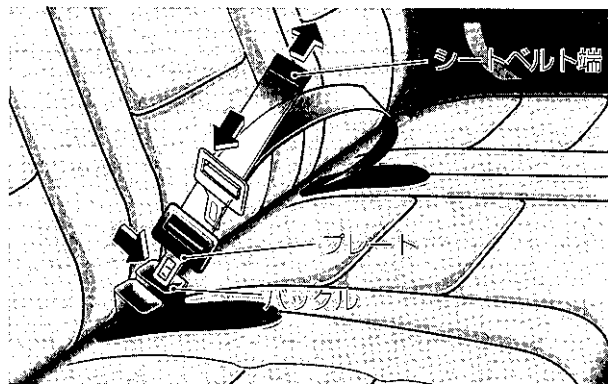
シートベルト警告アラーム

エンジンスイッチを**2**の位置にしたとき運転者がシートベルトを着用していないと、数秒間警告アラームが鳴りシートベルトの着用を促します。
シートベルトを着用するとアラームは鳴りやみます。

シートベルトの着用(フロント / リア左右)

1 プレートを持ってシートベルトをゆっくり引き出します。
シートベルトを引き出せないときは一度ベルトを戻し､再度ゆっくりと引き出します。
2 ベルトにねじれがないか確認をしてプレートをカチッと音がするまでバックルに差し込みます。
3 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。
4 肩ベルトは必ず肩にかかるようにします。
このとき、ベルトが肩から外れたり首にかかるときはベルトの高さを調整します。

外すときはプレートを持ち、バックルのボタンを押し、シートベルトをゆっくりと巻き取らせます。

高さ調整(フロント / リア左右＊)

シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。
高さは5段階に調整できます。
上げるときはアンカーを持ちそのまま押し上げます。
下げるときは解除ボタンを押したまま下げます。
調整後は確実にロックしていることを確認してください。

＊仕様などにより装備が異なります

シートベルトの着用(リア中央＊)

リアシート中央には2点式のシートベルトを装備しています。

2点式シートベルトの着用

1 腰骨のできるだけ低い位置を通るようにしてプレートを持ち、カチッという音がするまでバックルに差し込みます。
2 ベルトにねじれがないこと、正しい位置にベルトがかかっていることを確認します。
3 ベルトが長いときは、プレートを持ちシートベルトの端を引きます。
短すぎるときは、プレートをシートベルトに対して直角に持ち、シートベルトを送って調整します。

外すときはプレートを持ち、バックルのボタンを押し、シートベルトを外します。

知　識

◇バックルは、シートの切り欠き部に収納することができます。

＊仕様などにより装備が異なります

フロントとリア左右のシートベルトはシートベルトテンショナーとベルトフォースリミッター機構が装備されています。

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは車両の前方や後方から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにベルトを引き込みシートベルトの効果を高める装置です。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは車両の前方や後方から強い衝撃を受け、ベルトに一定以上の荷重がかかったときに、それ以上の荷重がかからなくする装置で、エアバッグの作動とあわせて乗員の胸に加わる力を減少します。

シートベルトテンショナーや車を廃棄するときは、指定サービス工場に相談してください。

注　意！

◆シートベルトテンショナーが作動したときは、指定サービス工場で交換してください。
◆助手席に重い荷物を積んだ場合は、事故のとき、助手席のシートベルテンショナーが作動することがあります。
◆シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。
◆シートベルトテンショナーの作動後にシートベルトを外すときは、シートベルトプレートをしっかり握ってからバックルのロック解除ボタンを押してください。シートベルトを外したときにプレートがはね返り、身体に当たってけがをするおそれがあります。

知　識

◇シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、車両は自動的に解錠し非常点滅灯が作動します。作動した非常点滅灯は非常点滅灯スイッチを押すと停止します。

チャイルドセーフティシート

チャイルドセーフティシートを取り付けるときはセーフティシートに付属している取扱説明書に従って取り付けてください。

⚠警　告

●チャイルドセーフティシートの着用は6歳未満の子供に法律で義務づけられています。

注　意！

◆6歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できないときは、チャイルドセーフティシートを着用させてください。

純正のチャイルドセーフティシートには助手席に装着したときに、助手席のエアバッグの作動を停止するためのセンサーが付いたものがあります。やむをえず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときはセンサー付きチャイルドセーフティシートを装着してください。

メルセデス・ベンツ純正のチャイルドセーフティシートには以下の種類があります。子供の体重や年齢に合わせて使い分けてください。体重、年齢は選択の目安です。

	体　重	年　齢
ベビーセーフ＊(乳児用)	10kg以下	生後9ヶ月位まで
プリンス(幼児用)	9～18kg	生後8ヶ月～4歳位
ズーム(子供用)	15～36kg	およそ3歳～12歳位

＊ベビーセーフにはセンサー付きのものがあります。助手席に装着すると、助手席のエアバッグが作動しなくなります。

注　意！

◆センサー付きシートを助手席に取り付けてもエアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグがオフになっていません。この場合はチャイルドセーフティシートをリアシートに取り付けてください。また、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

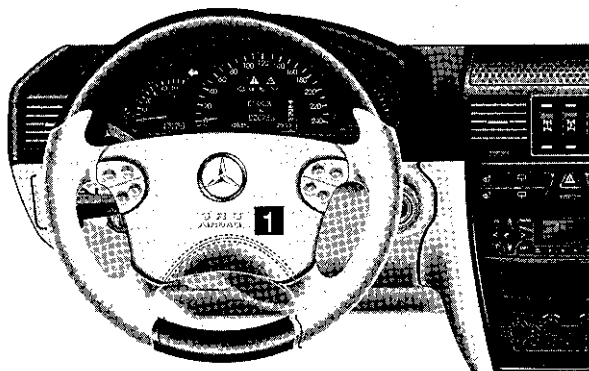
AIRBAG OFF エアバッグオフ表示灯

センサー付きチャイルドセーフティシートを助手席に装着すると表示灯が点灯し助手席のフロントエアバッグが作動しません。

⚠警　告

緊急ブレーキや事故から子供を守るために、以下の項目を必ず守ってください。

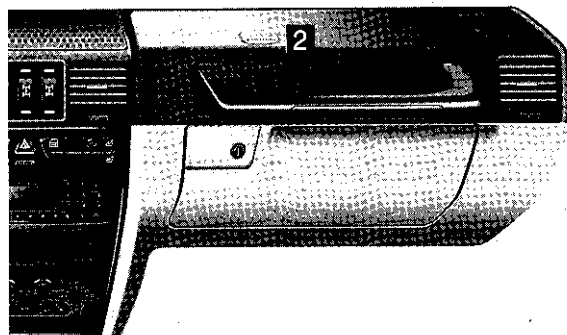
- 12歳以下または身長150cm以下の子供は、必ず純正のチャイルドセーフティシートを使用して、体を確実に固定させてください。チャイルドセーフティシートを使用しないと、体を車内に打ちつけたり、シートベルトに首などを圧迫されるおそれがあります。
- センサー付きチャイルドセーフティシート以外はリアシートで使用してください。やむを得ず助手席で使用するときは、前向きで使用し、シートの位置を最後部にしてください。事故のとき、フロントエアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。
- 助手席に後ろ向きのチャイルドセーフティシートを使用するときは、必ずセンサー付きチャイルドセーフティシートを使用してください。事故のとき、フロントエアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。
- センサー付きチャイルドセーフティシートを助手席で使用するときは、必ずエアバッグオフ表示灯が点灯していることを確認してください。
- センサー付きチャイルドセーフティシートを助手席で使用するときは、シートとチャイルドセーフティシートの間にものを置かないでください。事故のとき、助手席のフロントエアバッグが作動するおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず子供の身長・体重や年齢に合ったものを使用しシートベルトを正しく着用させてください。シートベルトが腹部にかかり、強く圧迫されてしまいます。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは車から取り外すか、シートに確実に固定してください。チャイルドセーフティシートが放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

SRSエアバッグ

車が強い衝撃を受けたときに瞬時にふくらみ、乗員の身体を拘束するシートベルトとともに、身体への衝撃を軽減する装置です。

1 運転席エアバッグ
ステアリングのパッド部に収納されています。

2 助手席エアバッグ
助手席のダッシュパネル部に収納されています。

知　識

◇SRSはSupplemental Restraint System(乗員保護補助装置)の略で、シートベルトの補助装置です。

エアバッグの作動

車に前方からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトの働きとあわせて乗員の頭部や胸部への衝撃を分散し軽減します。

SRS エアバッグシステム警告灯

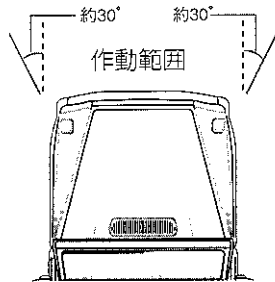
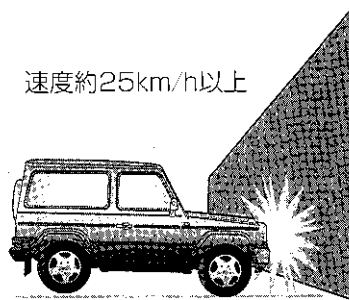
エンジンスイッチが1か2の位置のとき点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)数秒後、あるいはエンジン始動後に消灯します。消灯しなかったり、走行中に点灯したときはエアバッグシステムが故障しています。指定サービス工場でただちに修理してください。

⚠警　告

- エアバッグは、前方からの衝撃が軽度のとき、また、側面や後方からの衝突のときは作動しません。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、頭部や腕をステアリングやダッシュパネルにのせないでください。
- シートは正しい位置に調整し(22ページ)、フロントエアバッグとシートとの間に適切な間隔をとってください。間隔が近すぎると、フロントエアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。助手席はできるだけ後方の位置にしてください。
- 走行中はインストルメントパネルのアシストグリップにハンガーなどの固いものを掛けないでください。エアバッグが作動したときにそれらが飛散し、けがをするおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、パッド部の上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。また、エアバッグカバーの上やエアバッグと乗員の間にものを置いたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けないでください。エアバッグの作動を妨げたり、エアバッグが作動したときにそれらが飛散し、けがをするおそれがあります。

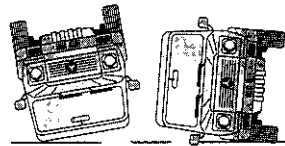
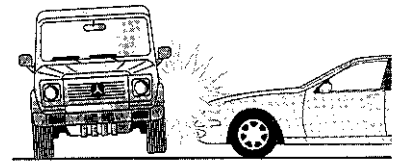
運転席、助手席エアバッグが作動するとき

●次のような場合作動します。

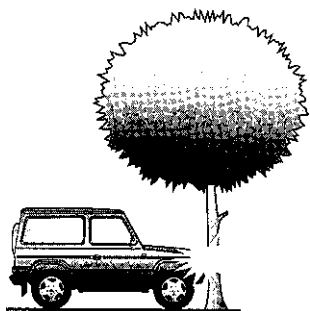
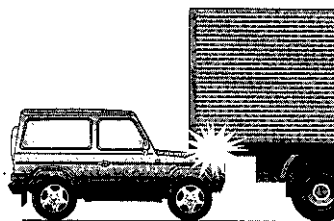
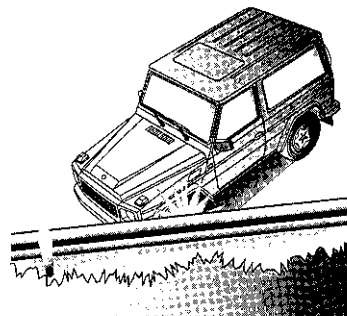
- 正面衝突など車の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

- かたいコンクリートの壁などに正面衝突したとき

運転席、助手席エアバッグが作動しないとき

●次のような場合作動しません。

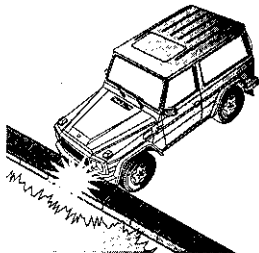
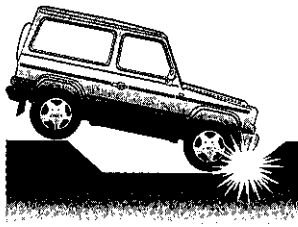
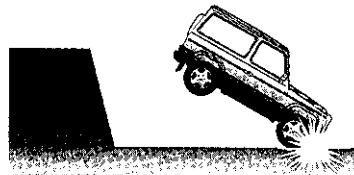
- 後ろから衝突されたとき

- 横転または転覆したとき

- 横方向から衝突されたとき

運転席、助手席エアバッグが作動しないことがあります

●次のような場合作動しないことがあります。

- 立木や電柱への衝突のとき

- トラックの下に潜り込んだとき

- 斜め前方への衝突のとき

運転席、助手席エアバッグが作動することがあります

●次のような場合作動することがあります。

- 中央分離帯や縁石などに衝突したとき

- 深い穴や溝に落ちたとき

- 地面に強い衝撃でぶつかったとき

注　意！

◆エアバッグが作動したときは、内部の部品に手を触れないでください。部品が熱くなっていて火傷をするおそれがあります。
◆エアバッグが作動したときは、必ず指定サービス工場で交換してください。
◆エアバッグの取り外しや取り付けを行なったり、部品や配線の改造をしないでください。誤作動でけがをしたり、エアバッグに悪影響をおよぼすおそれがあります。

知　識

◇衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、エアバッグは作動しないことがあります。
◇エアバッグは作動時に若干の煙り状のものを発生することがありますが、火災の心配はありません。
◇シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠します。
◇エアバッグを廃棄したり、車を廃車にするときは、指定サービス工場に相談してください。

運転するまえに

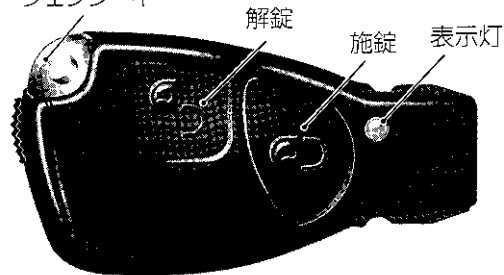
メインキー

エンジンの始動および車の解錠/施錠に使用します。
リモートコントロールスイッチ付きです。
エマージェンシーキーを収納しています。

解錠するとき

を押すと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠されます。このとき非常点滅灯が1回点滅します。
運転席ドアハンドルに向けてを押しつづけると、すべてのウインドウとスライディングルーフが開きます。から手を放すと、その位置で作動が停止します。

知　識

◇を押したときに運転席ドアと燃料給油フラップだけが解錠するようにすることができます。この場合は、を押して運転席ドアを解錠してから約40秒以内にを再度押すと、残りのドア、テールゲートも解錠することができます。
とを同時に約6秒間押すと表示灯が2回点滅し設定が切り替わります。

施錠するとき

を押すと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠されます。このとき非常点滅灯が3回点滅します。
運転席ドアハンドルに向けてを押しつづけると、すべてのウインドウとスライディングルーフが閉じます。から手を放すと、その位置で作動が停止します。

ロケイターライティング機能

周囲が暗いとき、リモートコントロールで車を解錠すると、ヘッドランプの車幅灯、テールランプ、ライセンスランプ、フォグランプが点灯します。
点灯したランプは、運転席ドアを開けたとき、または約40秒後に消灯します。

この機能が作動しないようにすることもできます。設定方法については126ページをご覧ください。

⚠警　告

●メインキーには重いアクセサリーやキーホルダーをつけないでください。走行中に重みでキーが動きエンジンが停止し、事故につながるおそれがあります。

注　意！

◆リモートコントロールでウインドウとスライディングルーフを開閉するときは、必ず運転席ドアハンドルに向けて操作してください。車の前方または後方から操作すると作動しません。

◆ウインドウとスライディングルーフを閉じているときに手や首などが挟まれそうになったときは、ただちに🔒を放し、🔓を押しつづけてください。すべてのウインドウとスライディングルーフを開くことができます。

◆リモートコントロールで施錠したときは、非常点滅灯が点滅することと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが確実に施錠され、すべてのウインドウとスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

◆キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。

◆メインキーを強い電磁波にさらすと、リモートコントロールに障害が発生するおそれがあります。

◆キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

◆キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。

◆メインキーの電池が消耗するとリモートコントロールが使えなくなりますが、エンジンを始動することはできます。

◆メインキーに重いキーホルダーをつけると、キーが破損したり、エマージェンシーキーが外れるおそれがあります。

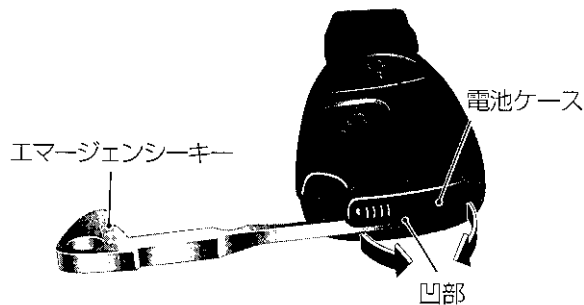
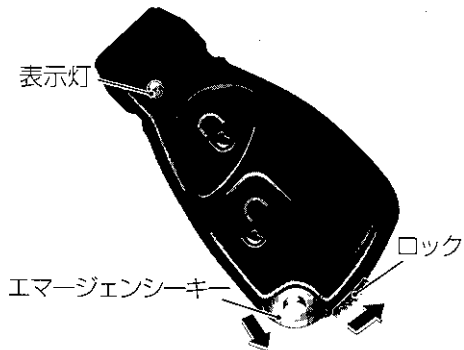
知　識

◇リモートコントロールで解錠したあと、約40秒以内に以下のいずれかの操作をしないと、自動的に施錠されます。
- ドアを開く
- テールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチの解錠(下側)を押す

◇エンジンスイッチにキーが差し込んであるときは、リモートコントロールは作動しません。
◇キーを紛失したときは指定サービス工場におたずねください。

エマージェンシーキー

メインキーに収納されています。
ドア、テールゲート、グローブボックスを解錠 / 施錠するときに取り外して使用します(51、59、202ページ)。

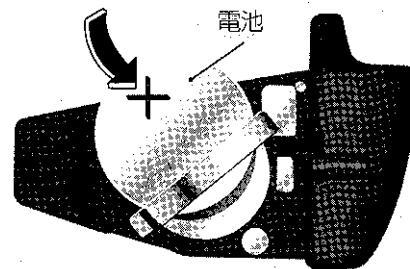
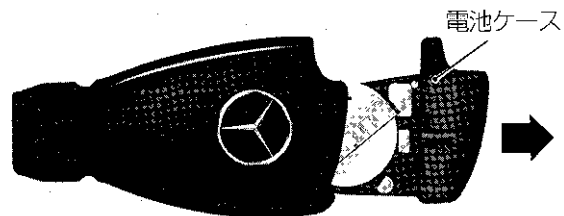
エマージェンシーキーの外しかた
ロックを矢印1の方向に押しながら、エマージェンシーキーを矢印**2**の方向に抜き取ります。
収納するときは元の位置に戻します。

電池の交換

リモートコントロールの作動可能距離が短くなったり、スイッチを押しても作動しない場合は電池の消耗が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識
◇リモートコントロールスイッチのいずれかを1秒以上押しつづけたときに表示灯が一度点滅すれば電池は正常です。

電池の交換手順：

1　ロックを矢印の方向に押して、エマージェンシーキーを抜き取ります。

2　エマージェンシーキーでロックの凹部を押しながら、電池ケースを矢印の方向に引いてロックを外します。

3 電池ケースを矢印の方向へゆっくり取り出します。
4 電池を外し、新しい電池と交換します。電池は2個とも⊕を上にして、電極板の間に取り付けます。
5 電池ケースを本体の溝に合わせ、ロックするまで押し込みます。
6 エマージェンシーキーをメインキーに収納します。

電池の交換は指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

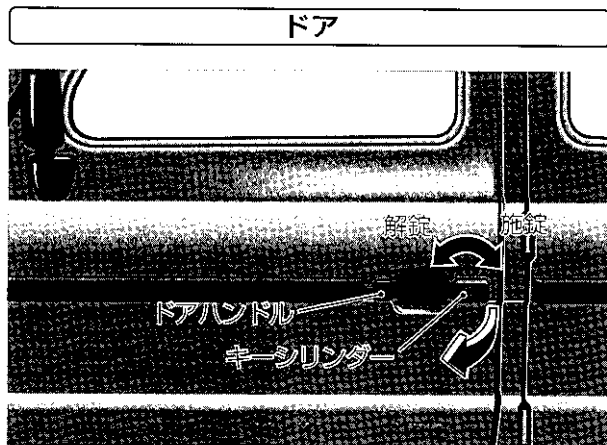
⚠警　告

●電池は子供の手の届かないところに保管してください。誤って電池を飲み込むおそれがあります。もし電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

知　識

◇リチウム電池(CR2025)を2個使用します。

環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、新しい電池をお買い求めになった販売店で処分をお願いしてください。

ドア

エマージェンシーキーでのドア解錠 / 施錠

リモートコントロールで解錠しないときは、運転席のドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、解錠 / 施錠することができます。

解錠：反時計回りにまわします。
施錠：時計回りにまわします。

知　識

◇助手席のドアにはキーシリンダーはありません。

注　意！

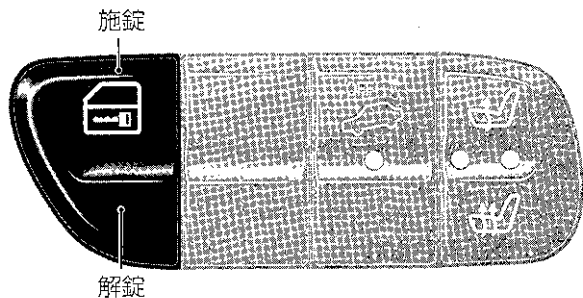
◆車から離れるときは、エンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。
◆エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠操作をしても他のドア、テールゲート、燃料給油フラップは連動しません。

車外から開けるとき

キーシリンダーを押しドアハンドルを持ってドアを開けます。

ドアロックスイッチ
すべてのドアとテールゲートを解錠 / 施錠することができます。
スイッチの上側を押すと施錠、下側を押すと解錠します。

注　意！

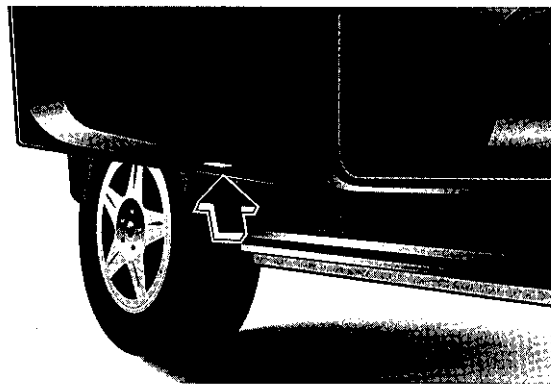
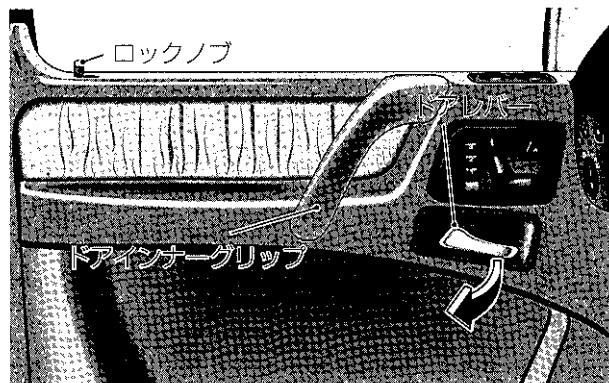
◆ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せたときは注意してください。
◆ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップは施錠されません。

次のような場合、ドアロックスイッチで解錠 / 施錠することはできません。
◇リモートコントロールで施錠し、エンジンスイッチにキーが差し込まれていないとき
◇フロントドアが開いているとき

知　識

◇ドアロックスイッチで施錠してあるとき、車内からフロントドアを開くと、他のドア、テールゲートも解錠されます。

車速感応ドアロック
速度が約15km/hになると、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能です。
この機能をマルチファンクションステアリングで解除することができます(130ページ)。

注　意！

◆車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。タイヤが回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
◆車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを内側から開くかエンジンをかけ直すまで、車速感応ドアロックは作動しません。

乗降用ランプ
周囲が暗いとき、ルームランプスイッチを「ドア連動位置」にすると、ドアの開閉に応じて点灯／消灯します。

左側ドア

車内からの解錠 / 施錠

解錠：ドアレバーを矢印の方向に引きます。
施錠：ロックノブを押し込みます。

車内からの開閉

開くとき　：ドアレバーを矢印の方向に引きます。
閉じるとき：ドアインナーグリップを持って確実に閉めます。

注　意！

◆施錠後は、すべてのロックが確実に施錠されていることを確認してください。ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

⚠警　告

●ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全(半ドア)な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
●ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。

注　意！

◆ドアを閉じるときは、手やものを挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

知　識

◇助手席のドアとリアドア＊は、ドアを開いてロックノブを押し込んでからドアを閉じると施錠されたままになります。

エントランスヘルプ機能

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をするとステアリングが上方に動きます。

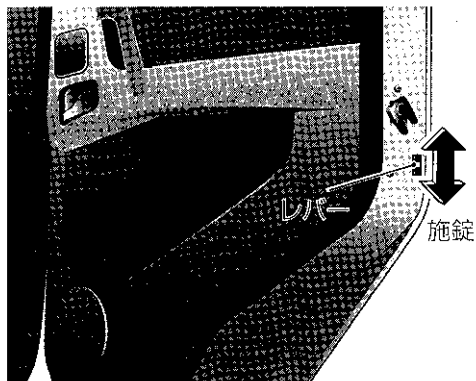
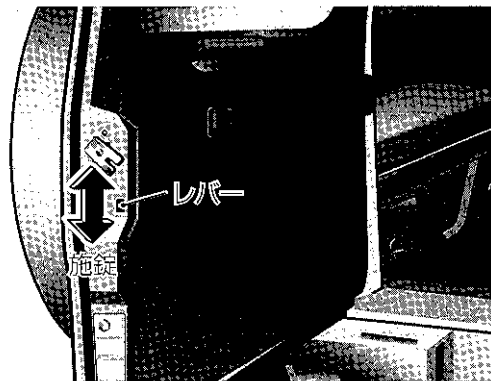
◇エンジンスイッチからキーを抜く。

◇エンジンスイッチが0か1の位置のときに運転席ドアを開く。

運転席ドアを閉じ、エンジンスイッチにキーを差し込むと、元の位置に戻ります。

この機能が作動しないようにすることもできます。設定方法については132ページをご覧ください。

＊仕様などにより装備が異なります

チャイルドプルーフロック

リアドア＊

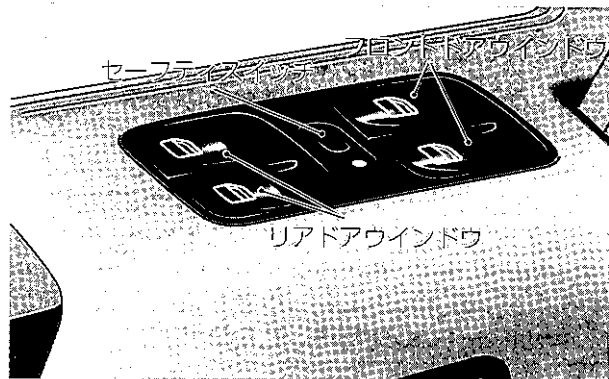
テールゲート

車内のドアレバーを引いてもドアが開かないようにする装備です。
リアドア＊とテールゲートに装備されています。
リアドアとテールゲートにあるレバーをキーの先端やドライバーなどで下側の位置にしてリアドア、テールゲートを閉じると施錠されます。
子供を乗せたときに使用してください。

注　意！

◆ロックノブが下がっているときは車外からもリアドアまたはテールゲートを開くことができません。リモートコントロールでドアを解錠してから車外のドアハンドルで開いてください。

＊仕様などにより装備が異なります

パワーウインドウ

G320L / G500L / G55L AMG

パワーウインドウスイッチでの開閉

エンジンスイッチが1か**2**の位置のときに開閉できます。

スイッチを押すと開き、スイッチを引くと閉じます。
スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

スイッチを強く押すと自動で開きます。途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。

セーフティスイッチ*を[図]の見える位置(右にスライド)にすると、リアのドアスイッチ*でドアウインドウを開閉することができなくなります。子供をリアシートに乗せるときに使用してください。

注　意！

◆ウインドウを閉じるときは、手や首などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。

*仕様などにより装備が異なります

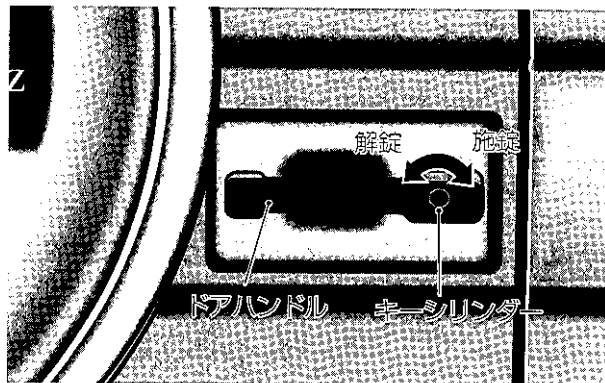
リモートコントロールでの開閉

キーのリモートコントロールで開閉することができます。

運転席ドアハンドルに向けてメインキーのを押しつづけると、すべてのウインドウとスライディングルーフが開きます。
を押しつづけるとすべてのウインドウとスライディングルーフが閉じます。手を放すと、その位置で作動が停止します。

注　意！

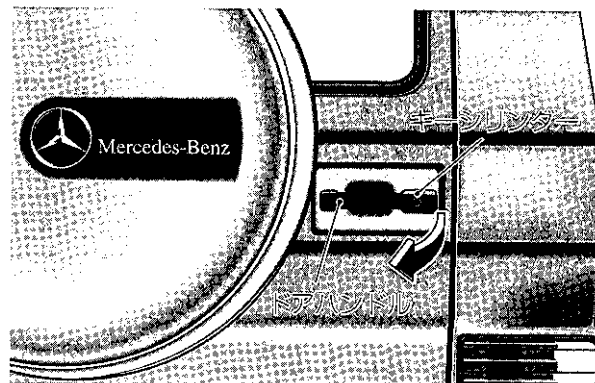
◆ウインドウとスライディングルーフを閉じているときに手や首などが挟まれそうになったときは、ただちにメインキーのを放し、を押しつづけてください。すべてのウインドウとスライディングルーフを開くことができます。
◆リモートコントロールでウインドウとスライディングルーフを開閉するときは、必ず運転席ドアハンドルに向けて操作してください。車の前方または後方から操作すると作動しません。
◆エンジンスイッチにキーが差し込んであるときは、リモートコントロールでの開閉はできません。

テールゲート

エマージェンシーキーでのテールゲート解錠 / 施錠

リモートコントロールが機能しないときは、テールゲートのドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、解錠/施錠することができます。

> **注　意！**
>
> ◆車から離れるときは、エンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。
>
> ◆エマージェンシーキーでテールゲートを解錠 / 施錠しても、ドア、燃料給油フラップは解錠 / 施錠されません。

解錠：反時計回りにまわします

施錠：時計回りにまわします。

車外から開けるとき

キーシリンダーを押してロックを外し、ハンドルを持ってテールゲートを開けます。

> **⚠警　告**
>
> **●エンジンが回転しているときは、テールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。**

車内からの解錠／施錠

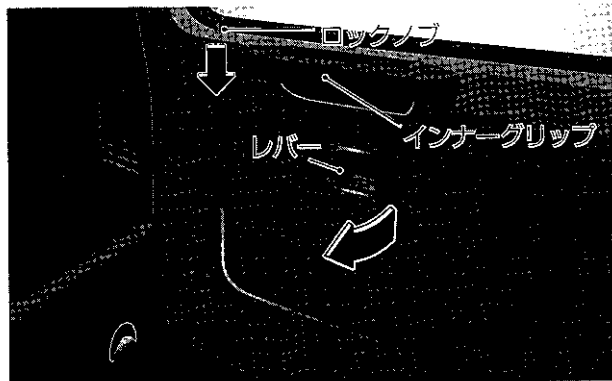
解錠：レバーを矢印の方向に引きます。

施錠：ロックノブを矢印の方向に押し込みます。

注　意！

◆テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。

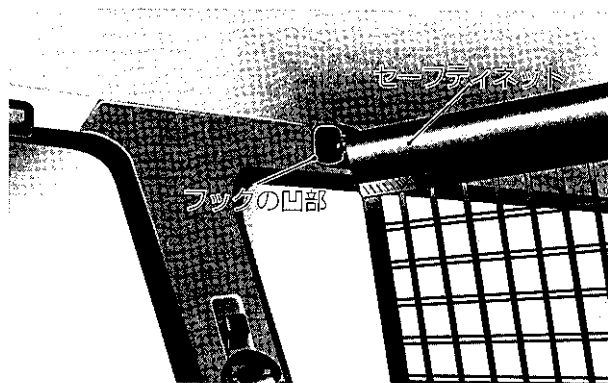
◆テールゲートを開くときは、後方に十分な空間があることを確認してください。

◆テールゲートを閉じるときは、手やものを挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、とくに注意してください。

車内からの開閉

開くとき　：レバーを矢印の方向に引きます。

閉じるとき：インナーグリップを持って確実に閉じます。

⚠警　告

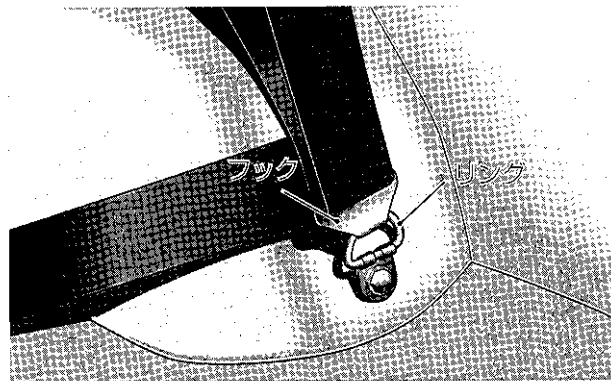
●エンジンが回転しているときは、テールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

セーフティネット

荷物を積むときに荷物が前方に放り出されるのを防ぐために使用します。
リアシートを起こした状態、折りたたんだ状態のどちらでも使用できます。

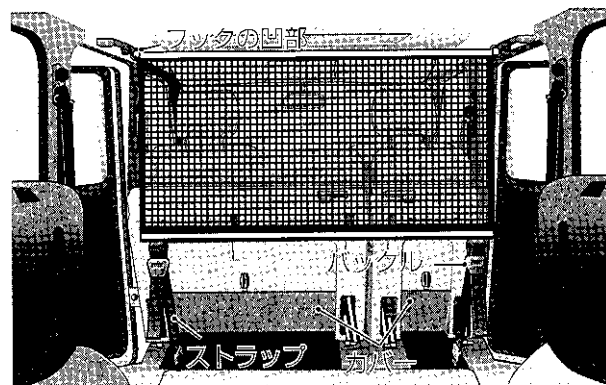
⚠警　告

- 荷物を積むときは、荷物が前方に放り出され、乗員がけがをしないよう、必ずセーフティネットを使用してください。
- セーフティネットでは、急ブレーキや事故などのときに、重い荷物を固定することはできません。重い荷物を積むときは、ロープやストラップで正しく固定してください（67ページ）。
- セーフティネットを使用するときは、リアシートとサードシートには人を乗せないでください。

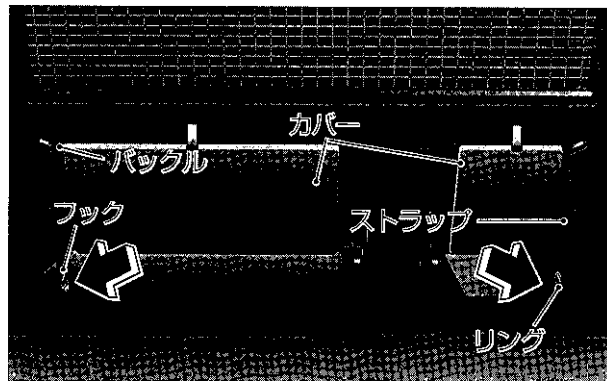
リアシートを起こした状態での使いかた

1 バックレストを起こしたまま、リアシートを前方に倒します(30ページ)。
2 ストラップのバックルが前方に向くようにして、セーフティネットをフックの凹部にかけます。

3 バックルでストラップの長さを調整し、フックをリングにかけます。フックをリングにかけたら、ストラップの先端を引き、セーフティネットが軽く張る程度に調節します。
4 リアシートを元の位置に戻し、ロックさせます。

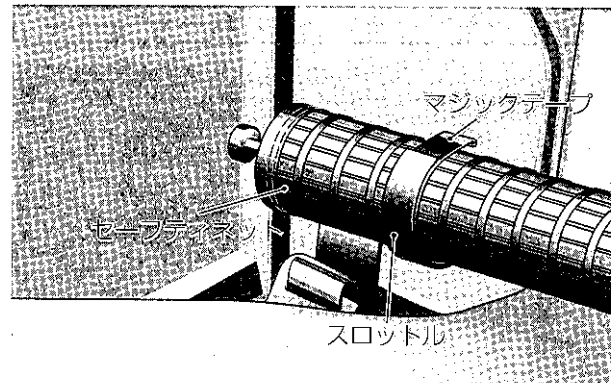
注　意！

◆セーフティネットのストラップは強く締めてください。
◆少し走行した後に、セーフティネットの張り具合を点検してください。必要があれば締めなおしてください。

リアシートを折りたたんだ状態での使いかた

1 リアドア＊を開けます。
2 リアシートを折りたたみます（30ページ）。
3 ストラップのバックルが後方を向くようにセーフティネットをフックの凹部にかけます。
4 バックルでストラップの長さを調節し、フックをカバー内のリングにかけます。ストラップの先端を引き、セーフティネットがぴったりと張るように調節します。

＊仕様などにより装備が異なります

G320

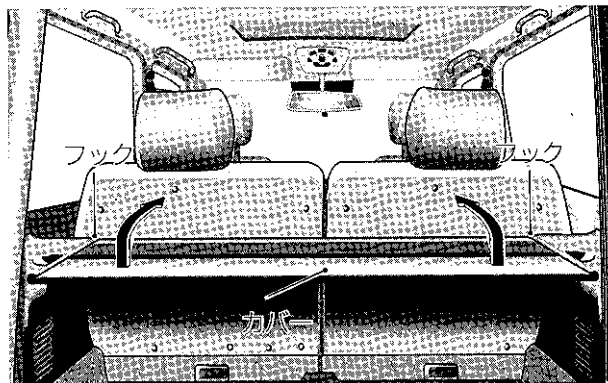
セーフティネットを取り外すとき：

1 バックルを水平にしてストラップをゆるめ、フックをリングから外します。
2 セーフティネットをフックの凹部から外します。

セーフティネットを収納するとき
G320：

1 セーフティネットを巻きます。
2 マジックテープをスロットルに通してから、セーフティネットをマジックテープで固定します。

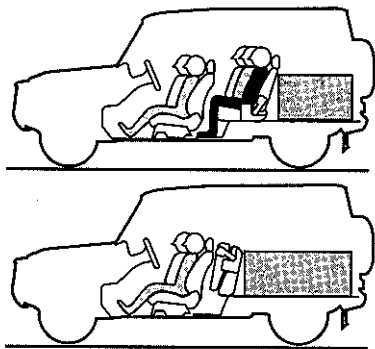
G320L / G500L / G55L AMG：

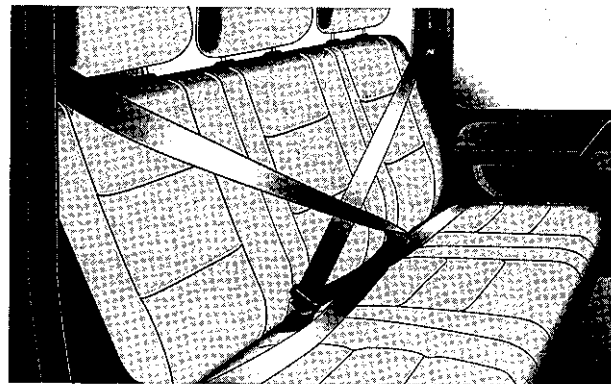
セーフティネットを巻き、リアシートの後側に収納します。

ラゲッジルームカバー＊

使用するときは、カバーを広げて、カバーの両側をマジックテープで止めます。取り外すときは、リアシートのバックレストを前に倒し、カバーをフックから外します。

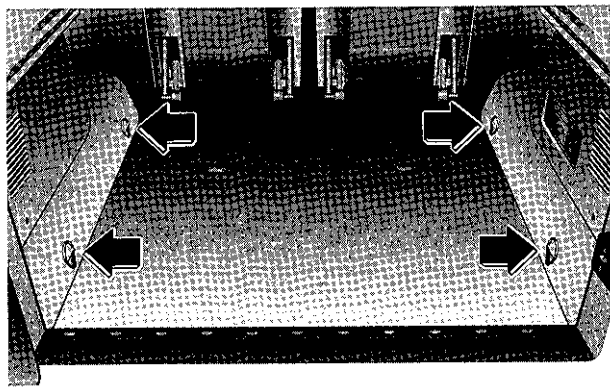
⚠警　告

- ラゲッジルームカバーは、リアシートを起こした状態で使用してください。
- ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

＊仕様などにより装備が異なります

荷物を積むときは

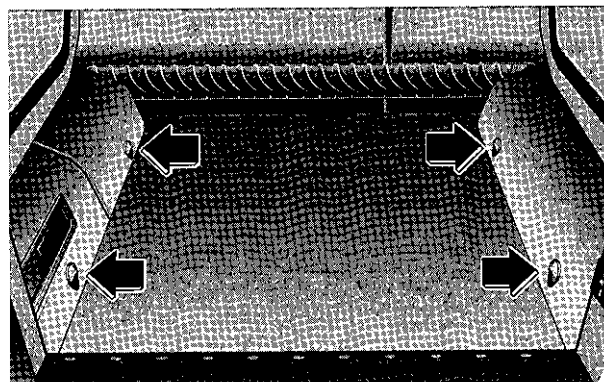
◇荷物はできるだけシートの背面に接するように積んでください。そして重い荷物をシート背面近くに配置してください。荷物の積みかたは走行安定性に大きく影響します。
◇荷物はできるだけ人が座っていないシートの後方に積んでください。
◇荷物をバックレストより高く積み上げないでください。
◇ウインドウに荷物が当たらないように注意してください。ウインドウガラスを破損したり、リアデフォガーの熱線を損傷するおそれがあります。
◇荷物を積むときは、必ずセーフティネットを使用してください。

◇大きな荷物を積まないときは、リアシートのバックレストを起こし、ヘッドレストを装着してください。
◇リアシートに人を乗せないときは、図のように左右のシートベルトプレートを反対側のバックルに差し込んで、シートベルトが交差するようにしてください。
◇燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

G320

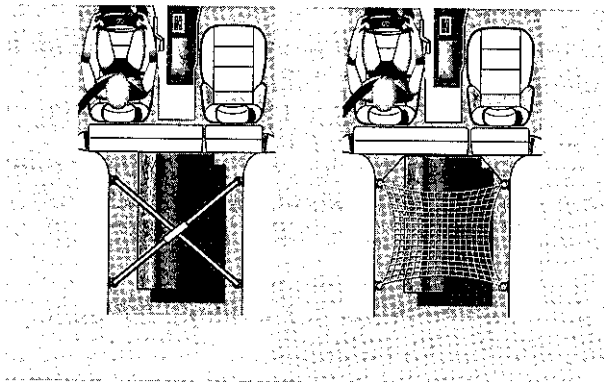
G320L / G500L / G55L AMG

荷物を固定するときは：

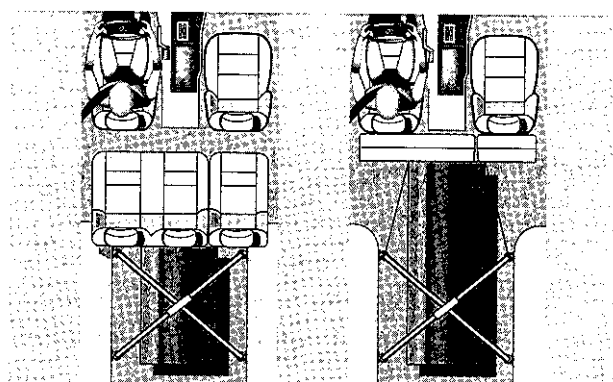
◇荷物はきちんと梱包して確実に固定してください。荷物の積みかたが悪かったり、荷物を固定していないと、荷物が前方に放り出され、乗員にけがをさせるおそれがあります。

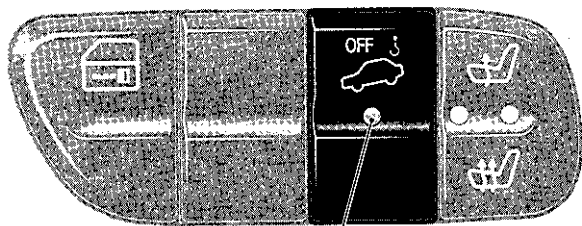
◇荷物の積みかたの注意を守っていても、荷物が多くなるほど、事故の際にけがをする危険度は増します。

◇荷物の固定には擦れに強く丈夫なロープを使用し、ラゲッジルームの4個の荷物固定用リング（G320はラゲッジルームに2個、リアシート下部に2個）に通して確実に結んでください。

◇荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。

G320

G320L / G500L / G55L AMG

ネットなどで荷物を固定するときは：
荷物固定用のアクセサリーは、ダイムラー・クライスラー社の推奨品の使用をお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

◇伸縮性のあるロープやネットを使用しないでください。重い荷物を固定することができず、事故のとき、乗員がけがをするおそれがあります。
◇固定するロープやネットが荷物の角にかからないようにしてください。
◇鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。

◇荷物をテンションネットで固定するときは、荷物全体の上にネットを被せ、フックを荷物固定用リングにかけます。テンショナーを使ってストラップを強く締めてください。
◇締め付けストラップは、図のように荷物の上で交差するようにかけ、荷物の重量が各荷物固定用リングに均等にかかるようにします。締め付け金具を使用する場合は、荷物固定用リングに過大な力がかからないように注意してください。
◇締め付けストラップは、少なくとも張力700kg以上、幅25mm以下のものを使用してください。

盗難防止システム

表示灯

ドア、テールゲート、ボンネットなどが閉じていることを監視し、車がリモートコントロール以外の方法で開けられたときや、ウインドウを割って中からドアを開けるなどの異常事態やけん引などにより車両が傾くのを感知すると、サイレンと非常点滅灯の点滅で周囲に知らせます。

システムを作動可能にするとき：
すべてのドア、テールゲート、ボンネットを閉じた後、リモートコントロールで車を施錠すると、スイッチの表示灯が点滅し、約15秒後に作動可能状態になります。

システムの作動：
システムが作動可能状態のとき、以下のような作動を感知すると警報が作動します。
◇ドアまたはテールゲートが開けられたとき
◇ボンネットが開けられたとき
システムが作動すると、サイレンが約30秒間鳴り、非常点滅灯が通常の約2倍の速さで約5分間点滅します。ルームランプも点灯します。

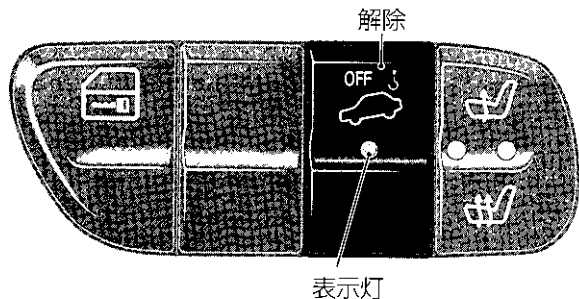
システムが作動したときの解除方法：
リモートコントロールで解錠するか、エンジンスイッチにキーを差し込みます。

注　意！

◆システムが作動可能状態のとき車内からドアを開くと警報が作動します。車内に人がいるときは作動可能状態にしないでください。

知　識

◇リモートコントロールで施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアやテールゲートを開くと、警報システムが作動します。
◇ドアやテールゲート、ボンネットなどを開いて警報システムが作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は解除されません。
◇いったん作動した警報は、リモートコントロールで施錠／解錠操作を行なうか、エンジンスイッチにキーを差し込むまで止まりません。

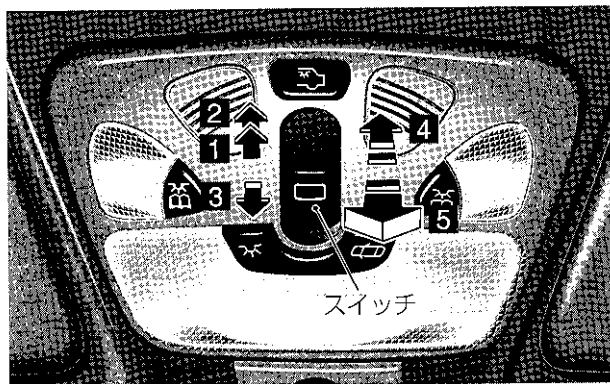
けん引防止警報

盗難防止システムが作動可能状態のとき、けん引などで車両が持ち上げられ車が傾くと、けん引防止警報が作動し、サイレンと非常点滅灯の点滅で周囲に知らせます。

車をフェリーボートやトランスポーターに乗せて移動するときは、盗難防止システムのけん引防止機能が作動することがあります。そのようなときはけん引防止警報を解除してから施錠してください。

けん引防止警報の解除：

1 エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にします。またはキーを抜き取ります。
2 けん引防止警報解除スイッチの上側を押します。表示灯が約2秒点灯し、その後消灯して、けん引防止警報が解除されます。
3 リモートコントロールで施錠します。

上記の操作で盗難防止警報のけん引防止警報が解除され、車両が傾いても警報が作動しなくなります。ただし、盗難防止警報は作動します。

スライディングルーフ＊

エンジンスイッチが1か2の位置のとき作動します。

スライディングルーフの開閉

開くとき：

スイッチを1の方向に押している間開きます。
スイッチを2の方向に強く押すと手を放しても自動で開きます。途中で止めたいときは、スイッチをどちらかに軽く押します。

閉じるとき：

スイッチを3の方向に押している間閉じます。

チルトアップ／チルトダウン：

スライディングルーフが閉じているとき、スイッチを4の方向に押すとチルトアップし、5の方向に引くとチルトダウンします。

リモートコントロールでも開閉操作ができます(46ページ)。

リモートコントロールで開閉できないとき

バッテリー交換やヒューズの交換などでスライディングルーフとバッテリーとの接続が断たれたときは、スイッチを操作しても、スライディングルーフが自動で開閉できなくなり、スイッチを4の方向に押さないと閉じなくなります。また、リモートコントロールでスライディングルーフを開閉できなくなります。これらの操作ができないときは、スイッチを4の方向に押してスライディングルーフをチルトアップさせ、そのままスイッチを1秒間押しつづけてください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

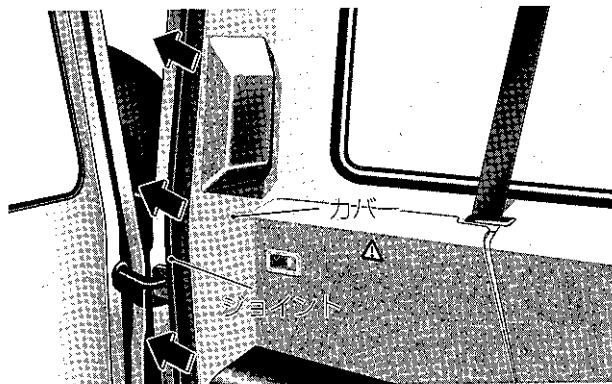
> ⚠ **警　告**
>
> **●走行中はスライディングルーフから頭や手を出さないでください。けがをするおそれがあります。**

＊仕様などにより装備が異なります

知　識

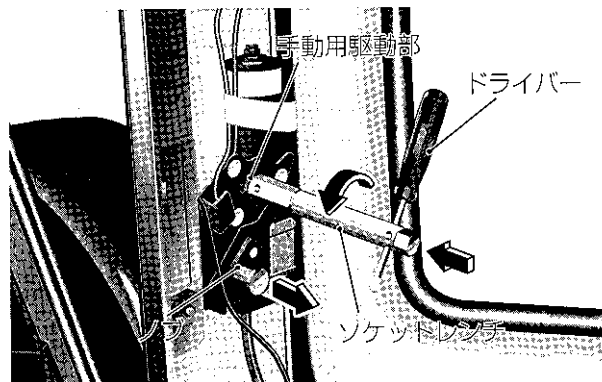
◇スライディングルーフを開いて走行すると、走行風の影響で空気の振動を感じることがあります。これはスライディングルーフの開き具合を変えるか、ウインドウを少し開けば解消します。

注　意！

◆スライディングルーフを閉じるときは、手や首などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。
◆スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりしないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。
◆車から離れるときや洗車するときは、スライディングルーフを完全に閉じてください。
◆スライディングルーフの開口部から、角の尖ったものを出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。
◆降雨後や積雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。
◆スライディングルーフが作動しないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

スイッチで操作できないとき

スイッチを操作しても閉じないときは、ラゲッジルーム左側後部のカバーを外し、手動で閉じることができます。

手動で閉じるとき

1 G320L / G500L / G55L AMGは、サードシートを下げます(31ページ)。
2 ジョイントを引き抜き、カバーを外します。G320は小物入れ内のカバーの取り付けネジを外してからカバーを外します。
3 ノブを手前に引きます。
4 車載工具のソケットレンチを駆動部（六角形のボルト）に差し込みます。
5 ソケットレンチの穴にドライバーを差し込み、ソケットレンチが抜けないように駆動部をまわします。

開いているルーフを閉じるとき：

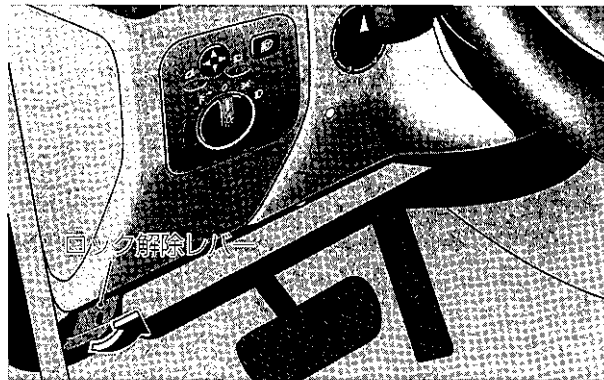
時計回りにまわします。

チルトアップしているルーフを下げるとき：

反時計回りにまわします。

注　意！

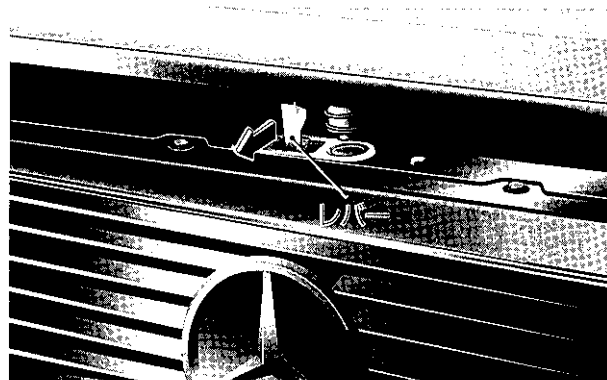
◆ソケットレンチはしっかり奥まで差し込んでください。差し込みが十分でないと、駆動部を損傷するおそれがあります。
◆無理にまわさないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

ボンネットの開閉

ボンネットを開くとき：

1 ロック解除レバーを手前に引きます。

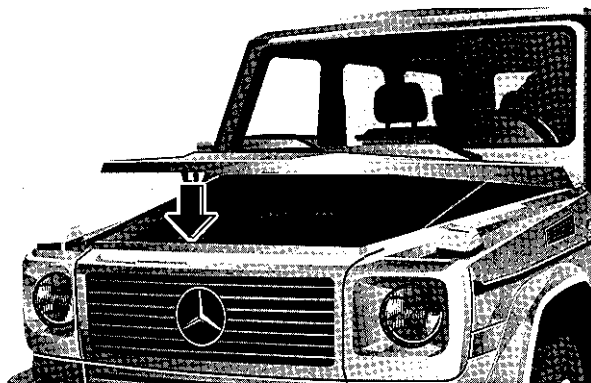
⚠警　告

●ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

●走行中はロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

2 ボンネットとラジエーターグリルの隙間に手を入れ、レバーを矢印の方向に引きながらボンネットを開きます。

注　意！

◆ワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

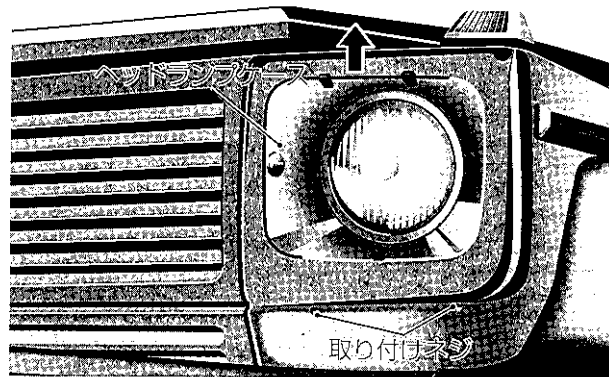
◆ボンネットが強い風にあおられると、急に下がるおそれがあります。風が強い日にボンネットを開くときは十分注意してください。

ボンネットを閉じるとき：
ボンネットを下げ、ボディとの距離が約20cmになったところで手を放し、自然に落下させます。完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、もう少し高い位置から落下させてください。

⚠警　告

●走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

注　意！

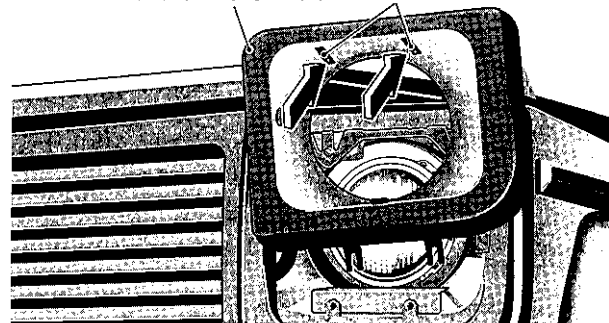
◆エンジンルーム内にものを置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変型するおそれがあります。
◆ボンネットを押さえつけないでください。ボンネットが変型するおそれがあります。
◆ボンネットを閉じるときは、手を挟まないように注意してください。

ヘッドランプガードの取り付け

1　ドライバーでヘッドランプケースの取り付けネジを緩め、ヘッドランプケースを上に引き抜きます。

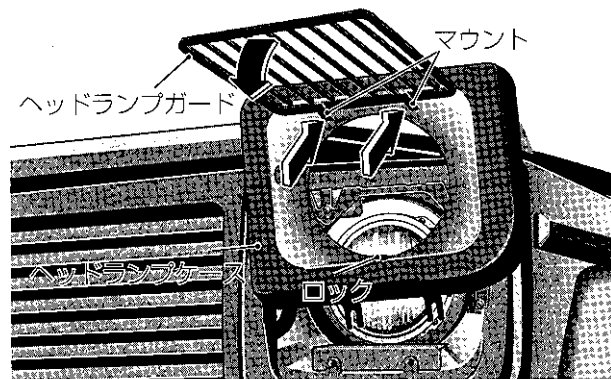
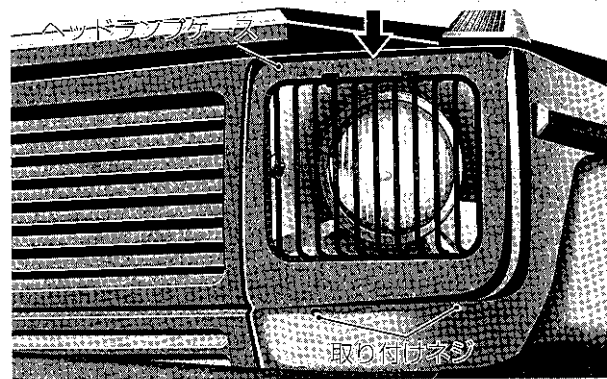
知　識

◇ヘッドランプケースはヘッドランプウォッシャーが取り付けられているため、取り外すことはできません。

注　意！

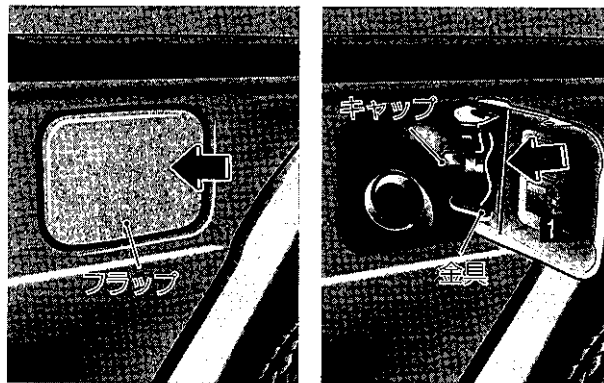
◆取り付けネジは、ヘッドランプケースが引き抜ける程度まで緩めてください。緩めすぎるとネジの脱落や紛失のおそれがあります。

2　プラスドライバーでヘッドランプケース上側のネジを外し、マウントを取り外します。

注　意！

◆ネジを外すとヘッドランプケース裏側のワッシャーが外れます。紛失しないように注意してください。

3 ヘッドランプガードの図の位置にマウントをはめ込み、ヘッドランプケースにネジ止めします。
4 ヘッドランプガードを下げ、ロックにはめ込みます。

5 ヘッドランプケースを上から差し込みます。
6 取り付けネジを締め、ヘッドランプケースを固定します。

注　意！

◆ヘッドランプガードやヘッドランプケースは、きつくネジ止めしないでください。ヘッドランプケースを損傷するおそれがあります。

燃料給油口の開閉

車が解錠されているとき、矢印の位置を押すとフラップが開きます。
閉じるときはフラップを押します。

キャップを外すとき：
キャップを反時計回りに少しゆるめてタンク内の圧力を抜いてから外します。

キャップを取り付けるとき：
キャップを時計回りにいっぱいにまわします。

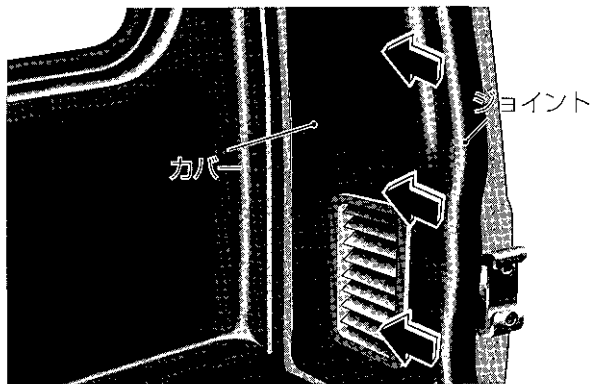
⚠警　告

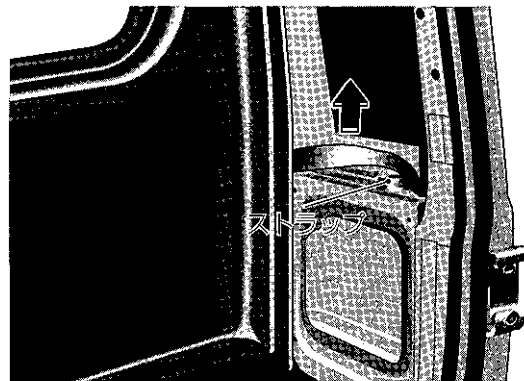
●エンジンをかけたまま給油しないでください。火災が発生するおそれがあります。
●周囲にガソリンがあるときやガソリンの匂いがするときは、決して火気を近づけないでください。火災が発生するおそれがあります。

注　意！

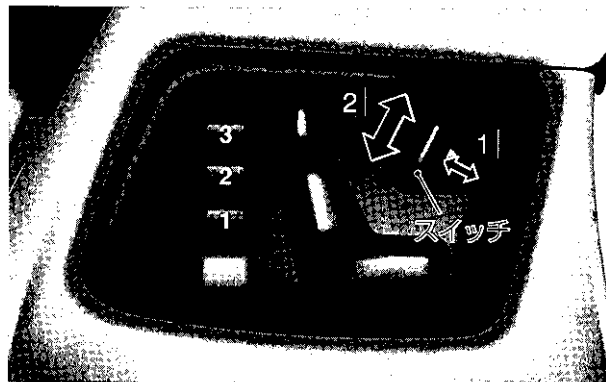
◆給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。燃料を入れすぎるとエンジンが不調になったり、停止することがあります。
◆燃料がボディにこぼれたときは、すぐに拭き取ってください。

知　識

◇外したキャップはフラップの裏側にある金具(矢印)に固定できます。
◇フラップの裏側に、タイヤ空気圧のデータ1が貼付してあります。
◇燃料は無鉛プレミアムガソリン(258ページ)を使用してください。

燃料給油フラップが開かないとき

車を解錠しても燃料給油フラップが開かないときは、ラゲッジルーム右側後部のカバーを外し、手動でロックを外します。

燃料給油フラップのロック解除

1 ジョイントを引き抜き、カバーを外します。G320は、小物入れ内のカバーの取り付けネジを外してからカバーを外します。
2 ストラップを引き上げてロックを外し、車外から燃料給油フラップを開きます。

ステアリング

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または運転席ドアが開いているときに運転席ドアのスイッチでステアリングの位置を調節することができます。

前後位置の調整：スイッチを**1**の方向に押します。
上下位置の調整：スイッチを**2**の方向に押します。

知　識

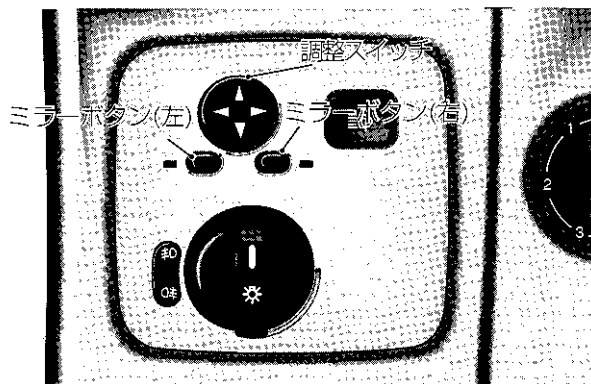
◇ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶(26ページ)させることができます。

⚠警　告

●ステアリングの調整は、必ず運転前に行なってください。運転中に調整すると、車のコントロールを失うおそれがあります。
●運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
●ステアリングのパッド部にカバーをしたり、エアバッグの上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼りつけないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

注　意！

◆ステアリングをいっぱいに切った状態を長く保持しないでください。ステアリング装置が損傷するおそれがあります。
◆故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ドアミラー

調整スイッチは運転席側インストルメントパネルにあります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき調整できます。

1 調整したい方(左または右)のミラーボタンを押します。

2 調整スイッチを操作してミラーの角度を調整します。

⚠警 告

●ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、車のコントロールを失うおそれがあります。

注 意！

◆ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは十分注意してください。

◆ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずルームミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

知 識

◇ドアミラーにはヒーターが装着されています。外気温度が下がると自動的に温められ、凍結を防ぎます。

◇ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶(26ページ)させることができます。

ドアミラーの格納

手で格納します。

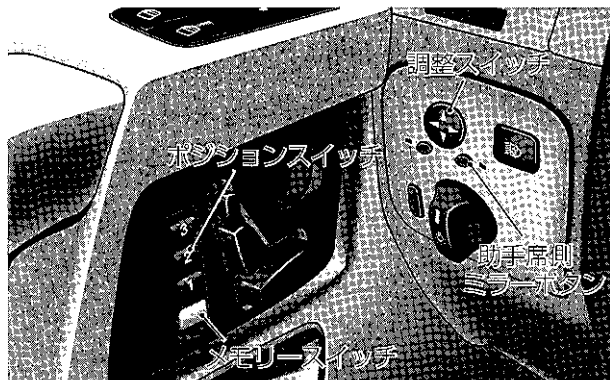
注　意！

◆走行するときはドアミラーを走行時の位置に戻してください。ドアミラーが振動することがあります。
◆ドアミラーを動かしているときは、手を挟んだり、異物が挟まったりしないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
◆洗車機を使用するときはミラーを格納してください。ミラーを損傷するおそれがあります。
◆ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。
◆ドアミラーの汚れを取るときは、必ず純正のガラスクリーナーを使用してください。ミラーが変色するおそれがあります。

後退時の助手席ドアミラー

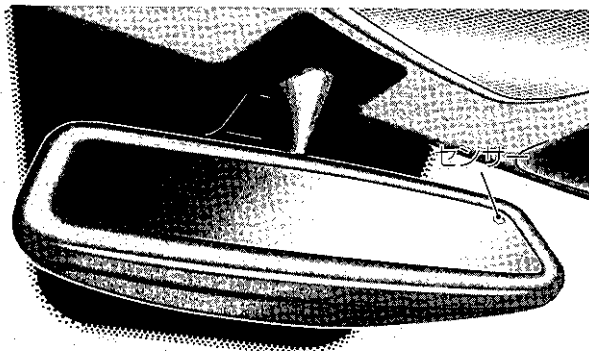
セレクターレバーを**R**に入れたときに、助手席ドアミラーが自動的に下向きになり、車両後方下部の視界を確保して後退を容易にすることができます。
エンジンスイッチが**2**の位置のときに作動します。

ミラーは次のいずれかのときに元の位置に戻ります。
◇セレクターレバーを**R**から他の位置に入れてから約10秒後
◇車速が約10km/h以上になったとき
◇運転席側ミラーボタンを押したとき

マルチファンクションステアリングで設定したり解除することができます。
設定と解除については133ページの各種設定をご覧ください。

後退時の助手席ドアミラー角度を調整し、記憶させることができます。記憶させるときは、エンジンスイッチを**2**の位置にして、ブレーキペダルを踏み、以下の操作をします。

後退時の助手席ドアミラー角度を記憶させるには：

1 助手席側ミラーボタンを押します。
2 セレクターレバーを R に入れます。
3 調整スイッチで、後退時に自分が後方を確認しやすい角度にドアミラーを調整します。
4 メモリースイッチを押し、約3秒以内に調整スイッチの下側を押します(このときミラーは動きません)。
この後セレクターレバーを R に入れるとミラーがこのときの角度になります。

ルームミラー

自動防眩ルームミラー

夜間、エンジンスイッチが2の位置のとき、ルームミラーのセンサーが後続車のライトを受けると、自動的にルームミラーの濃度が変わり眩しさを防止します。

知　識

◇ルームミラーのセンサーに後方からのライトが当たらないときは自動防眩しないことがあります。

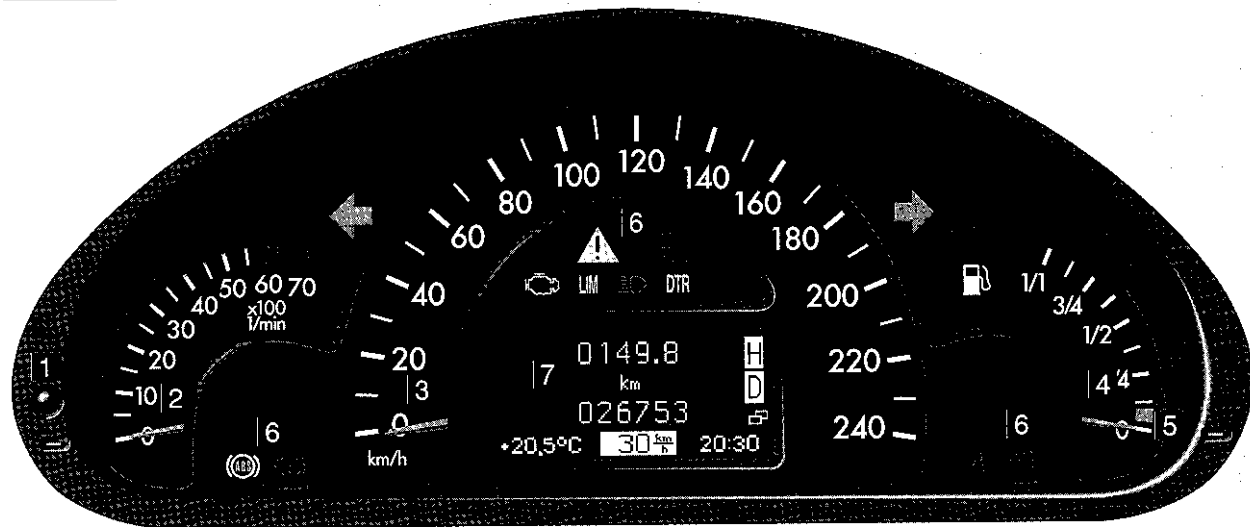
◇セレクターレバーが R に入っているときやルームランプが点灯しているときは自動防眩されません。

注　意！

◆ミラーのガラスが破損すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体はものを腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないよう注意してください。

◆万一、液体が目に入ったときは、ただちに大量の水で5分以上洗眼し、医師の診断を受けてください。

◆液体が車の塗装面に垂れたときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。

メーター

1 メーター照度調節ボタン / リセットボタン

メーター照度調節ボタン：
ボタンを時計回りにまわすとメーター内が明るくなり、反時計回りにまわすとメーター内が暗くなります。
リセットボタン：
トリップメーターをリセットしたり、各種設定を工場出荷時の設定に戻すときなどに押します。

2 タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

3 スピードメーター

車の走行速度を表示します。
速度の表示単位をマイル(mph)に変更することもできますが、マイル表示にするとキロメーター表示に比べ、同じ数字でも約1.6倍の速度になります。速度の出しすぎを防ぐためキロメーター表示で走行してください。
表示の切り替えについては122ページをご覧ください。

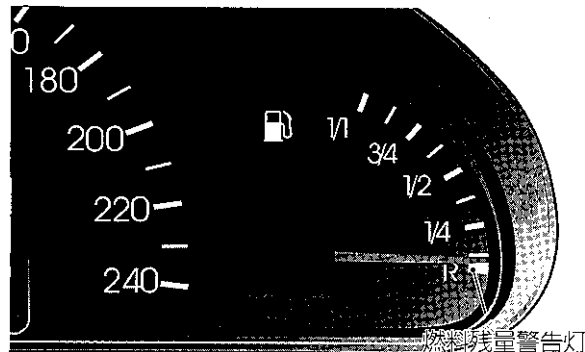
知　識

◇1マイル(mph)は約1.6km/ｈです。
◇マイル表示を選択すると、トリップメーターの表示もマイル表示になります。

4 燃料計

燃料の残量を表示します。
燃料タンク容量は約96ℓです。

注　意！

◆給油のときはエンジンを停止してください。

5 燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。
加えて、マルチファンクションディスプレイに”ｶﾞｿﾘﾝ ﾘｻﾞｰﾌﾞ ｶﾞｿﾘﾝ ｽﾀﾝﾄﾞ ｦ ｻｶﾞｼﾏｽ”と表示されます。
警告灯が点灯したときの残量は約20ℓです。

知　識

◇走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

6 表示灯と警告灯

エンジンスイッチが**2**の位置のとき点灯し(ハイビーム表示灯、方向指示表示灯を除く)エンジン始動後に消灯します。

消灯しなかったり、走行中に点灯したときは、安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

ハイビーム表示灯(137ページ)

方向指示表示灯(140ページ)

可変スピードリミッター表示灯(182ページ)

エンジン警告灯(149ページ)

シートベルト警告灯(33ページ)

SRS
エアバッグシステム警告灯(40ページ)

ブレーキ警告灯(172ページ)

ＡＢＳ警告灯(174ページ)

下記3つの表示灯 / 警告灯は、他の表示灯/警告灯と同様に点灯しますが、表示灯 / 警告灯として作動しません。

DTR

7 マルチファンクションディスプレイ

各種警告や各種設定などを表示します。

エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にするか、ドアを開くと表示したままになります。

知　識

◇エンジンスイッチが**0**の位置のとき、またはキーを差し込んでいないときにマルチファンクションディスプレイを表示させたいときは、リセットボタンを押してください。約30秒間表示させることができます。

マルチファンクションディスプレイ

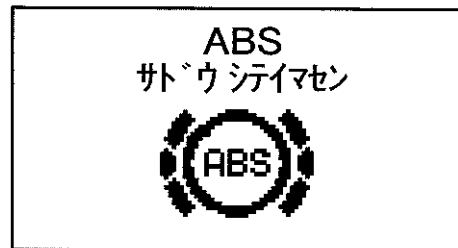
故障 / 警告メッセージ：

車やシステムに異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。

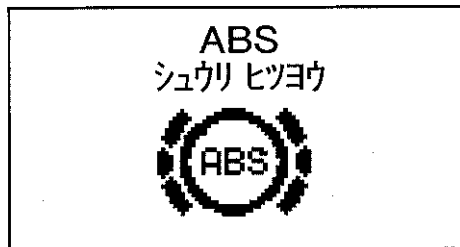
注　意！

◆赤色の故障 / 警告メッセージが表示されたときはアラームが鳴ります。

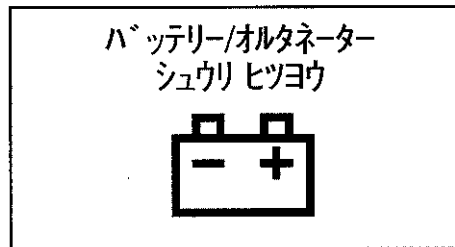
◆故障 / 警告メッセージによってはアラームが鳴る場合もあります。

ABSシステム

1行目	2行目
ABS	ｻﾄﾞｳ ｼﾃｲﾏｾﾝ
ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ1)	ｲﾝｼﾞｹｰﾀ ｶﾞ ｺｼｮｳﾃﾞｽ

1) 表示機能またはABSシステムが故障しています。指定サービス工場で点検を受けてください。

ABS故障

1行目	2行目
ABS	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ
ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ[1]	ｲﾝｼﾞｹｰﾀ ｶﾞ ｺｼｮｳﾃﾞｽ

1) 表示機能またはABSシステムが故障しています。指定サービス工場で点検を受けてください。

バッテリー充電

1行目	2行目
ﾊﾞｯﾃﾘｰ/ｵﾙﾀﾈｰﾀｰ	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ

バッテリーが充電されていません。
Vベルトが切れている可能性があります。Vベルトを交換してください。あるいは冷却水ポンプが故障している可能性があります。このときはオーバーヒートし、エンジンを損傷するおそれがあります。指定サービス工場に連絡してください。

ブレーキパッド摩耗

1行目	2行目
ﾌﾞﾚｰｷ ﾊﾟｯﾄﾞ	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ

ブレーキパッドが摩耗しています。交換の必要があります。指定サービス工場で点検を受けてください。

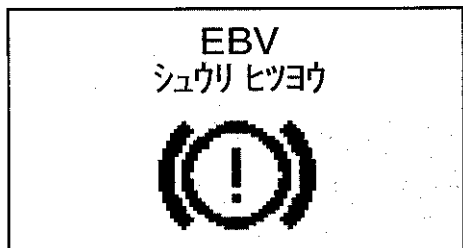
ブレーキオイル

1行目	2行目
ﾌﾞﾚｰｷ ｵｲﾙ	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ

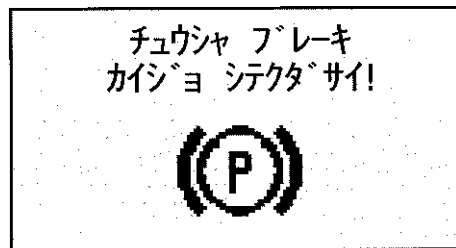
指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠警　告

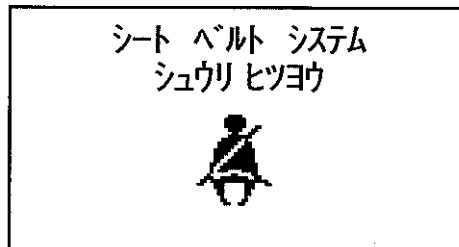
- リザーブタンクのブレーキオイル量が不足していると、ブレーキシステムが故障し、ブレーキが作動しないおそれがあります。
- ブレーキオイルの補給はしないでください。
- 車を走行させないで指定サービス工場に連絡してください。

ブレーキシステム

1行目	2行目
EBV	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ

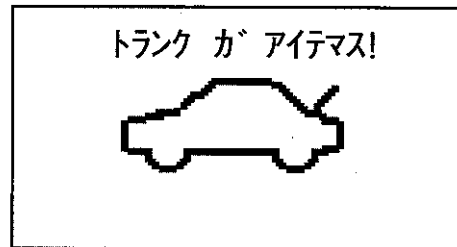
ブレーキシステムが故障しています。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

駐車ブレーキ

1行目	2行目
ﾁｭｳｼｬ ﾌﾞﾚｰｷ	ﾌﾞﾚｰｷ ｦ ﾌﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ!
ﾁｭｳｼｬ ﾌﾞﾚｰｷ	ｶｲｼﾞｮ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!

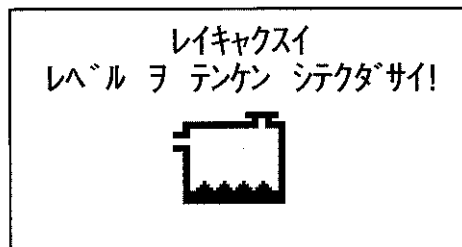
駐車ブレーキが解除されていません。駐車ブレーキを解除してください(172ページ)。

シートベルトシステム

1行目	2行目
シートベルト システム	シュウリ ヒツヨウ
ジョシュセキ シート	シートベルト ヲ シテクダサイ!
ウンテンセキ シート	シートベルト ヲ シテクダサイ!

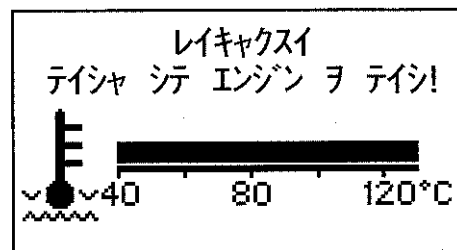
指定サービス工場で点検を受けてください。

テールゲート

1行目	2行目
トランク ガ アイテイマス!	

テールゲートがロックされていません。速やかに安全な場所に停車し、確実にテールゲートを閉じてください。

冷却水(レベル)

1行目	2行目
レイキャクスイ	レベ゛ル ヲ テンケン シテクダ゛サイ!

冷却水量が不足しています。冷却水レベルを点検(240ページ)し、必要であれば補給(241ページ)してください。また、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水(温度)

1行目	2行目
レイキャクスイ	テイシャ シテ エンジ゛ン ヲ テイシ[1]
レイキャクスイ	シュウリ ヒツヨウ[2]

1) Vベルトが切れている可能性があります。走行する前にVベルトを交換してください。"テイシャ シテ エンジ゛ン ヲ テイシ"というメッセージが表示されている間はエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

2) 冷却水の冷却ファンが故障しています。オーバーヒートしないように冷却水の温度に注意してください(107ページ)。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

ライトシステム

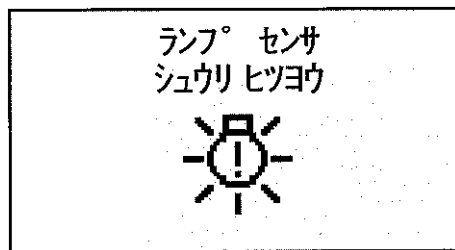
ﾐｷﾞ ﾛｰﾋﾞｰﾑ
ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!

1行目	2行目
ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾐｷﾞ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾄﾚｰﾗ ﾋﾀﾞﾘ ﾎｳｺｳ ｼｼﾞﾄｳ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾄﾚｰﾗ ﾐｷﾞ ﾎｳｺｳ ｼｼﾞﾄｳ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾄﾚｰﾗ ﾌﾞﾚｰｷ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾄﾚｰﾗ ﾋﾀﾞﾘ ﾊﾞｯｸ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾄﾚｰﾗ ﾐｷﾞ ﾊﾞｯｸ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ｵｰﾄﾏﾁｯｸ ﾗｲﾄ ｵﾝ	ｷｰ ｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾋﾀﾞﾘ ﾎｳｺｳ ｼｼﾞﾄｳ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ! ﾖﾋﾞ ﾗﾝﾌﾟ ﾃﾝﾄｳ![2]
ﾐｷﾞ ﾎｳｺｳ ｼｼﾞﾄｳ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ! ﾖﾋﾞ ﾗﾝﾌﾟ ﾃﾝﾄｳ![2]
ﾋﾀﾞﾘ ﾐﾗｰ ﾎｳｺｳ ｼｼﾞﾄｳ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾐｷﾞ ﾐﾗｰ ﾎｳｺｳ ｼｼﾞﾄｳ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾋﾀﾞﾘ ﾌﾛﾝﾄ ﾎｳｺｳ ｼｼﾞﾄｳ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ! ﾖﾋﾞ ﾗﾝﾌﾟ ﾃﾝﾄｳ![2]
ﾐｷﾞ ﾌﾛﾝﾄ ﾎｳｺｳ ｼｼﾞﾄｳ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ! ﾖﾋﾞ ﾗﾝﾌﾟ ﾃﾝﾄｳ![2]
ﾄﾚｰﾗ ﾌﾞﾚｰｷ ﾗﾝﾌﾟ[3]	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ
ﾌﾞﾚｰｷ ﾗﾝﾌﾟ[3]	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ
ﾋﾀﾞﾘ ﾌﾞﾚｰｷ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾐｷﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾊｲ ﾏｳﾝﾄ ｽﾄｯﾌﾟ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾋﾀﾞﾘ ﾊｲ ﾋﾞｰﾑ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾐｷﾞ ﾊｲ ﾋﾞｰﾑ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾋﾀﾞﾘ ﾗｲｾﾝｽ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾐｷﾞ ﾗｲｾﾝｽ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!
ﾋﾀﾞﾘ ﾌｫｸﾞ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾐｷﾞ ﾌｫｸﾞ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ｵﾌ ﾆｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	ﾘﾔ ﾌｫｸﾞ ﾗﾝﾌﾟ ﾖﾋﾞ ﾗﾝﾌﾟ ﾃﾝﾄｳ![2]
ﾘﾔ ﾌｫｸﾞ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾋﾀﾞﾘ ﾏｴ ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ! ﾖﾋﾞ ﾗﾝﾌﾟ ﾃﾝﾄｳ![2]
ﾐｷﾞ ﾏｴ ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ! ﾖﾋﾞ ﾗﾝﾌﾟ ﾃﾝﾄｳ![2]
ﾊﾞｯｸ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!
ﾋﾀﾞﾘ ﾃｰﾙ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ! ﾖﾋﾞ ﾗﾝﾌﾟ ﾃﾝﾄｳ![2]
ﾐｷﾞ ﾃｰﾙ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ! ﾖﾋﾞ ﾗﾝﾌﾟ ﾃﾝﾄｳ![2]

ﾋﾀﾞﾘ ﾊﾟ-ｷﾝｸﾞ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ! ﾖﾋﾞ ﾗﾝﾌﾟ ﾃﾝﾄｳ!2)
ﾐｷﾞ ﾊﾟ-ｷﾝｸﾞ ﾗﾝﾌﾟ	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ! ﾖﾋﾞ ﾗﾝﾌﾟ ﾃﾝﾄｳ!2)
ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ1)	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ ｺｼｮｳ

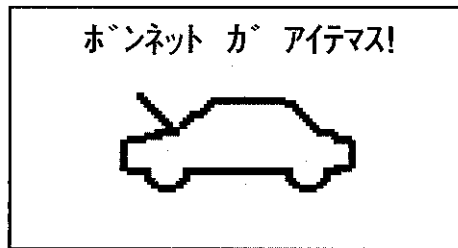
1) 表示機能またはライトシステムが故障しています。
2) 電球が切れたときは、他の電球が代用されます。
3) ブレーキランプが遅れて点灯、または点灯したままになります。ただちに指定サービス工場で点検してください。

電球交換については262ページをご覧ください。

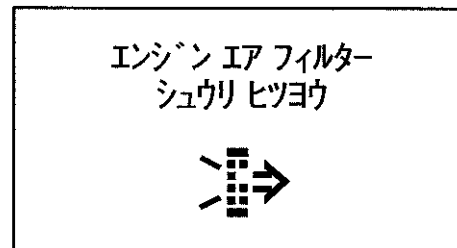
ランプセンサー

1行目	2行目
ﾗﾝﾌﾟ ｾﾝｻ	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ

ランプセンサーに異常が発生すると、ヘッドランプが自動的に点灯します。指定サービス工場で点検を受けてください。

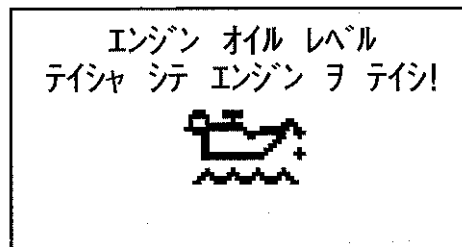
ヘッドランプが自動で点灯したままのときは、マルチファンクションステアリングで各種設定のヘッドランプ機能を“ﾏﾆｭｱﾙ”に切り替え(125ページ)、ライトスイッチで操作します。

ボンネット

1行目	2行目
ボ゛ンネット ガ゛ アイテイマス!	

ボンネットが完全に閉じていません。73ページをご覧ください。

エアフィルター

1行目	2行目
エンジ゛ン エア フィルター	シュウリ ヒツヨウ

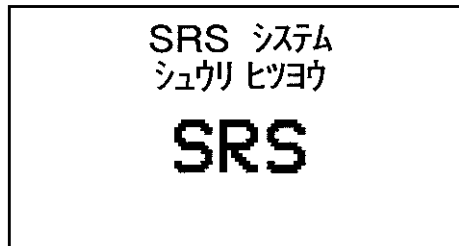
エンジンのエアフィルターが詰まっています。指定サービス工場でエアフィルターを交換してください。

エンジンオイルレベル

1行目	2行目
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ	ﾚﾍﾞﾙ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ![1]
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ	ﾃｲｼｬ ｼﾃ､ ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ[2]
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ	ｵｲﾙ ｦ ﾇｲﾃ ｸﾀﾞｻｲ[3]
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ[4]
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ[5]

1) ただちにエンジンオイルレベルを点検してください(110ページ)。
2) エンジンオイルが不足しています。
エンジンを損傷するおそれがあります。
3) エンジンや三元触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。ただちにエンジンオイルレベルを点検してください(110ページ)。
4) エンジンオイルレベルが限界まで下がっています。ただちにエンジンオイルレベルを点検してください(110ページ)。
エンジンからオイルが漏れていないか点検してください。エンジンオイルに水が混入している可能性もあります。エンジンオイルを点検してください。
5) オイルレベルの測定システムが故障しています。指定サービス工場で点検を受けてください。

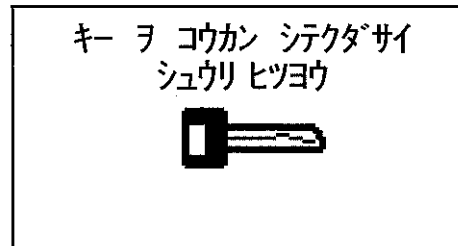
SRS

SRS システム
シュウリ ヒツヨウ

SRS

1行目	2行目
SRS システム	シュウリ ヒツヨウ

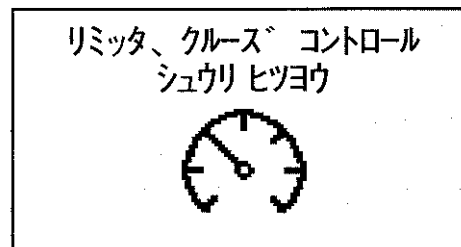
指定サービス工場で点検を受けてください。

キー

キー ヲ コウカン シテクダサイ
シュウリ ヒツヨウ

1行目	2行目
キー ヲ コウカン シテ クダサイ	シュウリ ヒツヨウ

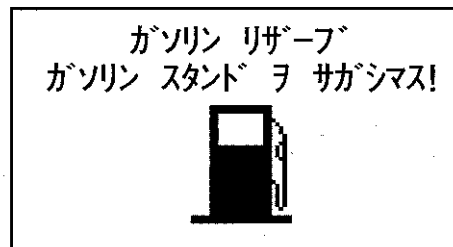
指定サービス工場で点検を受けてください。

可変スピードリミッター / クルーズコントロール

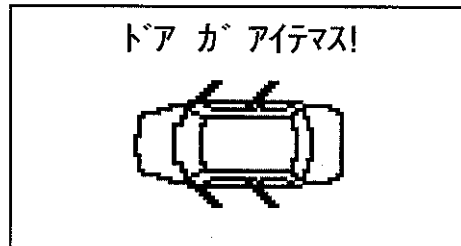
リミッタ、クルース゛ コントロール
シュウリ ヒツヨウ

1行目	2行目
リミッタ、クルース゛/コントロール	シュウリ ヒツヨウ

可変スピードリミッターまたはクルーズコントロールが故障しています。指定サービス工場で点検を受けてください。

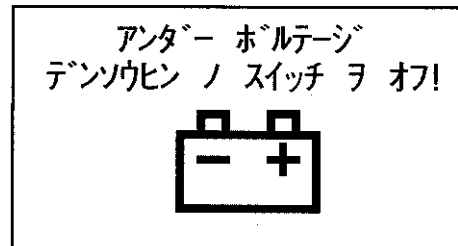
ガソリン リザーブ

ガ゛ソリン リザ゛ーフ゛
ガ゛ソリン スタント゛ ヲ サガ゛シマス!

1行目	2行目
ガ゛ソリン リザ゛ーフ゛	ガ゛ソリン スタント゛ヲ サガ゛シマス

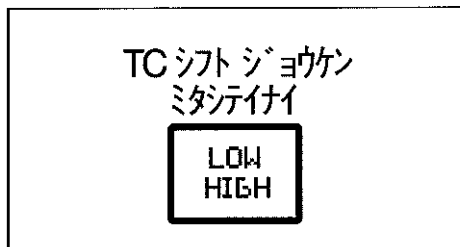
燃料残量が少なくなっています。
早めに給油してください。

ドア

1行目	2行目
ドア ガ アイテイマス	

いずれかのドアが開いているか、半ドアになっています。速やかに安全な場所に停車し、確実にドアを閉じてください。

低電圧

1行目	2行目
アンダー ボルテージ	エンジン ヲ スタート シテクダサイ!
アンダー ボルテージ	デンソウヒン ノ スイッチ ヲ オフ!

指定サービス工場で点検を受けてください。

トランスファーケース

1行目	2行目
TC ｼﾌﾄ1)	
TC ｼﾌﾄ ｼﾞｮｳｹﾝ	ﾐﾀｼﾃｲﾅｲ2)
TC ﾊ ﾆｭｰﾄﾗﾙ3)	
ﾄﾗﾝｽﾌｧ ｹｰｽ	ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ

1) エラーのため、トランスファーケースのシフトが中断されました。
2) トランスファーケースのシフト条件を満たしていません。シフト操作をやり直してください。
3) トランスファーケースがニュートラル位置になってます。
4) トランスファーケースが故障しています。指定サービス工場で点検してください。

トランスファーケースの選択については162ページをご覧ください。

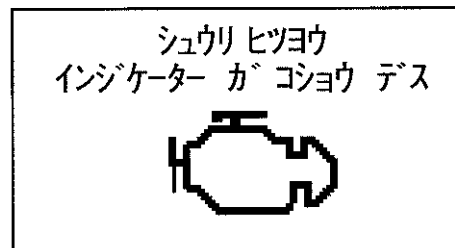
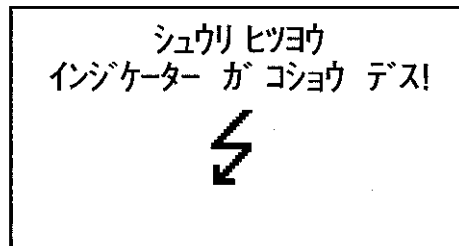
ディスプレイ故障

1行目	2行目
ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ	ｲﾝｼﾞｹｰﾀ ｶﾞ ｺｼｮｳﾃﾞｽ

このメッセージは、エンジンコントロールユニットから情報が伝達されないときに表示されます。冷却水温度計、タコメーター、スピードリミッターインジケーター、クルーズコントロールなどの表示が正しく表示されない可能性があります。
指定サービス工場で点検を受けてください。

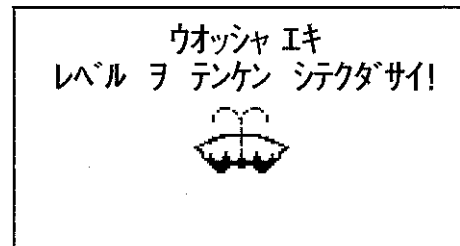
※上記以外の表示が出ることがあります。

ディスプレイ故障

シュウリ ヒツヨウ
インジケーター ガ コショウ デス!

1行目	2行目
シュウリ ヒツヨウ	インジケータ ガ コショウデス

いくつかのシステムについての表示機能が故障しています。システム自体が故障している可能性もあります。指定サービス工場で点検を受けてください。

ウォッシャー液

ウオッシャ エキ
レベル ヲ テンケン シテクダサイ!

1行目	2行目
ウオッシャ エキ	レベル ヲ テンケン シテクダサイ!

ウォッシャー液が少なくなっています。
ウォッシャー液の補充については、ウインドウウォッシャーシステム(246ページ)をご覧ください。

その他の表示画面、各種設定機能

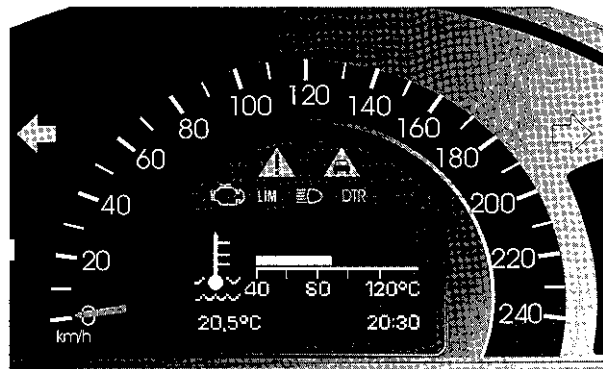
前述の故障 / 警告メッセージ表示機能に加え、マルチファンクションディスプレイ(多機能表示画面)には、メーターパネル下側画面に、エンジン冷却水温度などの情報を表示させたり、ルームランプ消灯遅延時間などの設定項目を表示させて変更することができます。

以下のように主要な機能が5つあります。

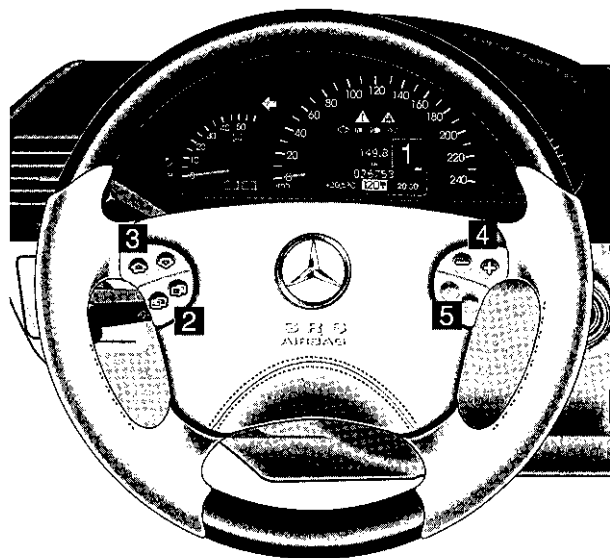
A **インフォメーション表示**(項目を選んで表示させます)
情報表示例：エンジン冷却水温度、走行速度など

B **オーディオ表示**(オーディオの作動状態を表示します)
表示例：ラジオ選局周波数、CDトラック番号など

C **故障個所表示**(項目を選んで表示させます)
表示例：ウォッシャー液不足など

D **各種設定**(設定項目を表示させ、設定内容を変更することができます)
設定項目例：車外ランプ消灯遅延時間、ルームランプ消灯遅延時間など

エンジン冷却水温度表示例

E **トリップコンピューター表示**(走行距離や平均速度などを表示させます)
表示例：区間走行距離、平均速度、走行可能距離など

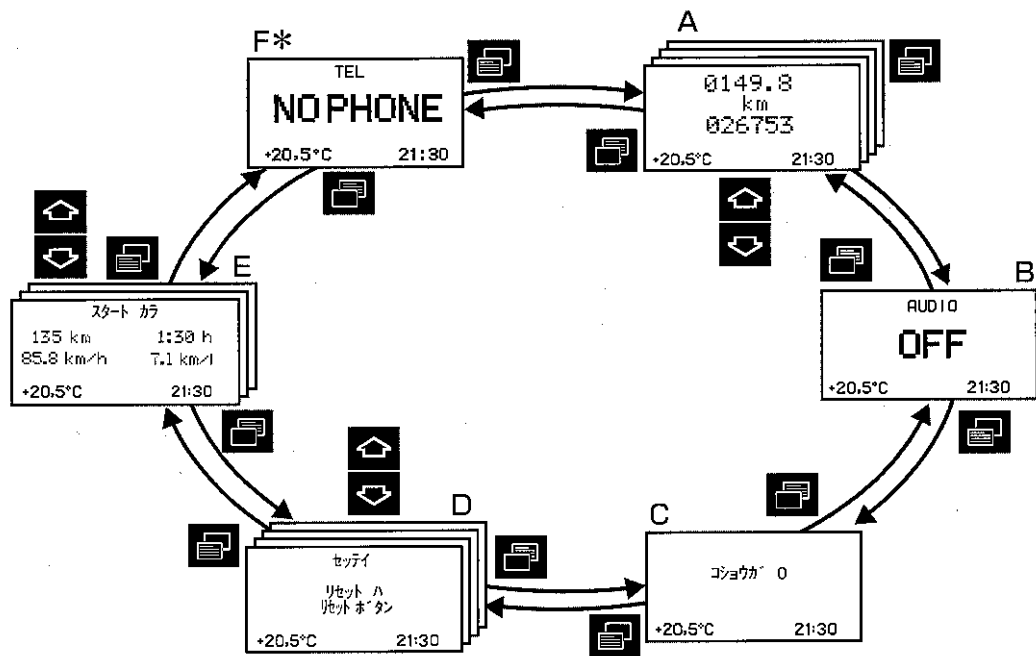
故障 / 警告メッセージについては、87ページをご覧ください。

ステアリングのスイッチ：

1 マルチファンクションディスプレイ

2 、 メイン画面選択ボタン
各メイン画面を選びます。

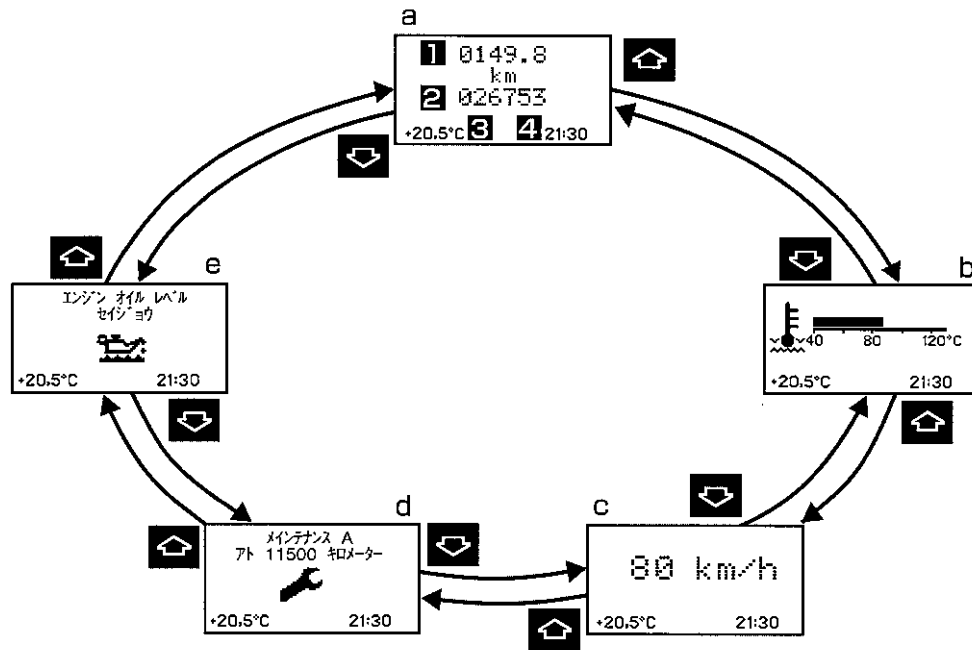
3 、 サブ画面切り替えボタン
選択したメイン画面内のサブ画面を切り替えます。

4 、 設定ボタン / 音量ボタン
サブ画面表示中に、設定項目を選んだり、ON / OFFを選択します。
各メイン画面とオーディオ画面表示中に操作すると、音量を調節できます。

5 未使用ボタン

メイン画面一覧：
ここではメイン画面のみを一覧にしています。メイン画面を切り替えるときは、［ボタン］、または［ボタン］を押します。サブ画面については、それぞれの項目をご覧ください。

A インフォメーション表示(105ページ)
B オーディオ表示(113ページ)
C 故障表示(114ページ)
D 各種設定(115ページ)
E トリップコンピューター表示(134ページ)
F 電話＊(日本仕様には設定がありません)

＊仕様などにより装備が異なります

A インフォメーション表示：

a メイン画面

1 トリップメーター
リセット後の走行距離を表示します。リセットするときは、「0000.0」になるまでリセットボタンを押しつづけます。

2 オドメーター
これまで走行した累積距離を表示します。

3 外気温度(速度)
車外の気温を表示します。表示設定を変えると、走行中の速度を数値で表示します。

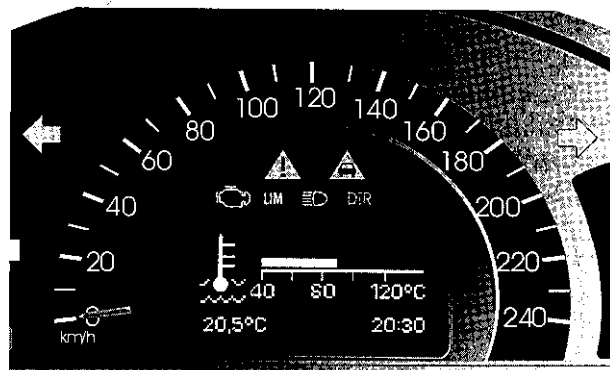
4 時刻
時刻を表示します。表示単位は、12 / 24時間表示のいずれかが選べます。

b 冷却水温度画面
エンジン冷却水の温度を表示します。後述の該当説明をご覧ください。

c デジタル式速度計画面
◇走行速度表示
走行中の速度を数値で表示します。

◇設定速度表示
スピードリミッターの操作により制限速度を設定すると、設定した制限速度を表示します。

d メンテナンスインジケーター画面
メーカー指定点検整備の実施時期を表示します(108ページ)。

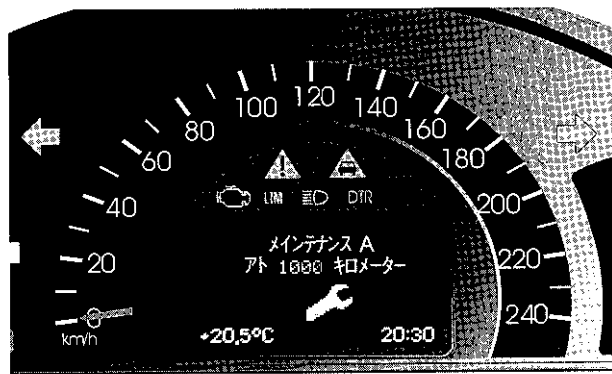
e エンジンオイルレベル画面
エンジンオイルの量を点検し、表示します(110ページ)。

b　**冷却水温度画面**
　エンジンスイッチが**2**の位置のとき表示します。

1　、または を押し、インフォメーション表示メイン画面を表示させます。
2　、または を押し、冷却水温度画面を表示させます。

エンジン冷却水温度をバーグラフで表示します。

指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約130℃までオーバーヒートを起こしません。暑い日の渋滞時や上り坂がつづくときなどに、冷却水温度が上がることがありますが、オーバーヒート警告メッセージが表示されない限り、問題ありません。

知　識

◇万一、オーバーヒートが起きたときは、自動的に警告メッセージが表示されます。92ページをご覧ください。

d **メンテナンスインジケーター画面**
走行距離や走行時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

手動確認：
エンジンスイッチが**1**、**2**の位置のとき表示します。
1 、または を押し、インフォメーション表示メイン画面を表示させます。
2 、または を押し、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

自動表示機能：
次のメーカー指定点検整備実施日の約10日前か約1000km前になると、走行中やエンジンスイッチを**2**の位置にしたときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。
自動表示は約30秒後に、表示前の画面に戻ります。表示中に画面を戻すときは、リセットボタンを押します。

表示メッセージ：
表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。

◇点検実施前
“メインテナンス A、 ”
“メインテナンス B、 ”
“メインテナンス A、アトXXキロメーター”
“メインテナンス B、アトXXキロメーター”

◇点検実施時期
“メインテナンス A、ジッコウシマス！”
“メインテナンス B、ジッコウシマス！”

◇実施時期を過ぎたとき
実施時期を過ぎたときは、以下のメッセージとともに警告アラームが鳴ります。
“メインテナンス A、XXニチ ヲ コエマシタ”
“メインテナンス B、XXニチ ヲ コエマシタ”
“メインテナンス A、XXkm ヲ コエマシタ”
“メインテナンス B、XXkm ヲ コエマシタ”

注　意！

◆メンテナンスインジケーターには、エンジンオイルレベルの点検は含まれていません。エンジンオイルレベルの点検は、該当画面(110ページ)で運転者自身が点検してください。

知　識

◇“メインテナンス A”または、“メインテナンス B”は、次回のメーカー指定点検整備の内容を示すもので、どちらが表示されるかは日頃の運転スタイルや走行距離などにより異なります。詳しくは整備手帳をご覧ください。

◇メーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離は、一定ではなく、運転スタイルなどにより変わってきます。エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次の実施時期までの距離が伸びることがあります。

◇バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

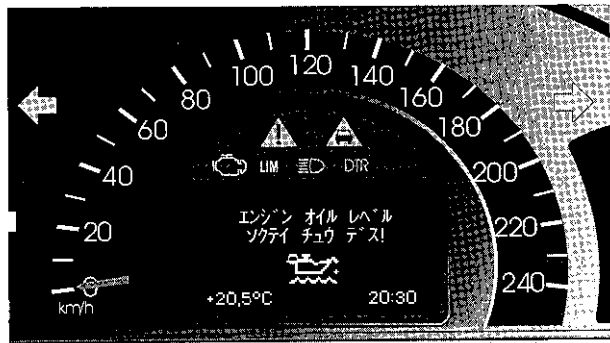
リセット：

メーカー指定の点検整備後に、整備を実施した指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットします。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では15,000km、日数では365日に設定されます。いずれかが、先に達する時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

注　意！

◆メンテナンスインジケーターのリセットは、専用の装置が必要です。適正な点検整備を行なった後に指定サービス工場でリセットしてください。

◆メンテナンスインジケーターの表示などに異常を感じるときは、速やかに指定サービス工場で点検を受けてください。

e エンジンオイルレベル画面

エンジンオイルの量を点検し、表示します。

注　意！

◆運転前に必ずエンジンオイル量を点検してください。

オイルレベルの点検：

1 車を安全で水平な場所に止めます。
2 エンジンを始動し、エンジンオイルを暖めます。
3 エンジンを止め、約5分待ちます。
4 エンジンスイッチを**2**の位置にします。

知　識

◇画面に“エンジン オイル レベル、イグニッション オン！”が表示されたときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしてください。

5 、または を押し、インフォメーション表示メイン画面を表示させます。
6 、または を押し、エンジンオイルレベル画面を表示させます。
7 約3秒後、“エンジン オイル レベル、ソクテイ チュウ デス！”が表示されます。

知　識

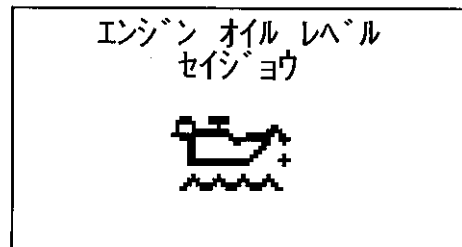
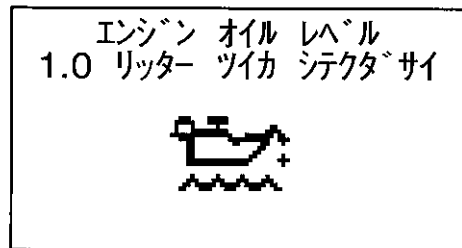
◇エンジンオイルレベル画面を表示させると、確認のため、“ソクテイ ノ トキハ クルマ ヲ、スイヘイ ニ シテクダサイ”のメッセージが表示されます。車が水平でないときは、点検を中止して水平な場所に車を移動してから点検してください。

◇エンジンを止めてからの待ち時間が足りないときは、“マチジカン ヲ マモッテ クダサイ”が表示されます(112ページ)。

8 点検結果に応じ、以下のいずれかのメッセージが表示されます。

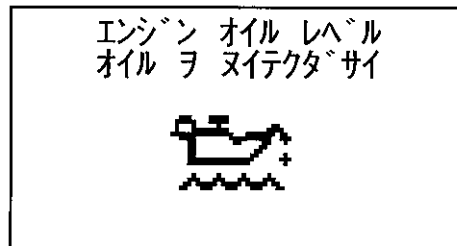
ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ
ｾｲｼﾞｮｳ

対応：
エンジンオイル量は適正です。

ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ
1.0 ﾘｯﾀｰ ﾂｲｶ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ

対応：
エンジンオイルを約1.0ℓ補給してください。

知　識

◇オイル量に応じて、表示数値が変わります。
◇指定サービス工場でオイル量を確認してください。
◇エンジンオイルの補給は、242ページをご覧ください。

ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ
ｵｲﾙ ｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ

対応：
エンジンオイルが多すぎます。運転を中止し、ただちに指定サービス工場に連絡してください。

注　意！

◆エンジンオイルが多すぎると、エンジンや三元触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

点検前待ち時間

エンジンオイルレベルの点検時にエンジンを止めてからの経過時間が足りないと、オイルレベルが安定しないため正確な量が測定できません。

エンジン停止後の経過時間は、以下の時間を目安にしてください。
◇冷却水温度が高いとき：約5分
◇冷却水温度が低いとき：約30分

点検時に経過時間が足りないときは、以下のメッセージが表示されます。

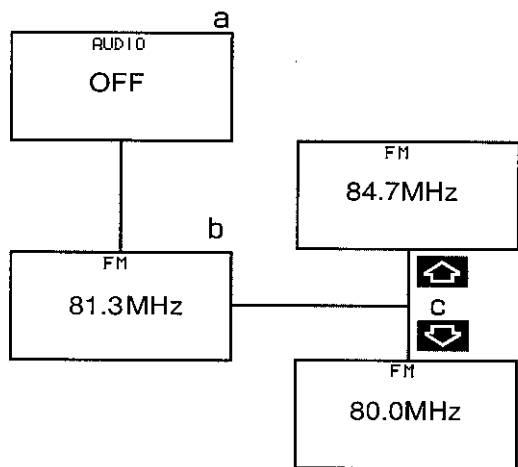
ﾏﾁｼﾞｶﾝ ｦ ﾏﾓｯﾃ ｸﾀﾞｻｲ

対応：

オイルレベルが安定するまで、しばらく待ってから点検をやり直してください。

注　意！

◆万一、点検をやり直しても結果が表示されないときは、エンジンオイルレベルゲージでエンジンオイル量を点検してください(242ページ)。
◆エンジンの回転中は、エンジンオイルレベルを点検できません。“エンジン オイル レベル、エンジン テイシチュウ ノミ！”が表示されます。
◆エンジン回転中に、エンジンオイルレベル画面が表示されたときは、エンジンに異常が起きています。故障 / 警告メッセージ(96ページ)をご覧ください。

B オーディオ表示：

ラジオ、CD、カセットの使用時にそれぞれの情報を表示します。
オーディオのメイン画面表示中に、⇧、⇩ を押すと、ラジオの選局、CDの選曲、テープ再生面の切り替えなどを操作できます。

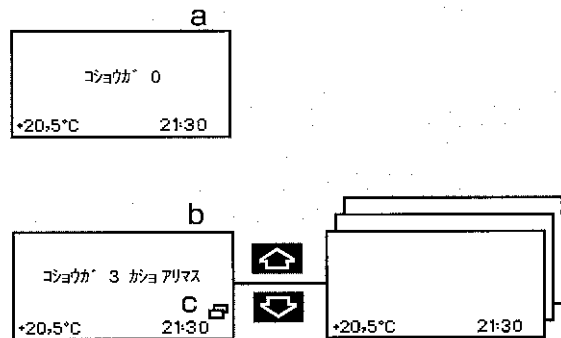
音量調節：
オーディオ画面と、他のメイン画面表示中のときに、＋、－ を押すと、音量を調節できます。

表示内容：
以下の例では、ラジオ時の操作を説明しています。

a オーディオOFFを示します。
b プリセット番号、周波数を表示します（ラジオ時）。
c ⇧、⇩ を押すと、それぞれの方向に放送局が変わります。

知　識

◇ラジオの選局は、周波数での選局とプリセット番号での選局のいずれかが選べます。選局方法の変更は、各種設定(115ページ)をご覧ください。
◇オーディオについては、別冊の取扱説明書をご覧ください。

C 故障表示：

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。

a 故障はありません
b 故障件数画面(この例では「3件」あります)
c 複数の故障がメモリーされている

手動確認：

エンジンスイッチが1、2の位置のとき表示します。

1 、または を押し、故障個所表示メイン画面を表示させます。
故障がないときは“ｺｼｮｳｶﾞ 0”を表示します。
故障があるときは、故障件数を数字で表示します。

2 故障が複数のときは、、または を押して故障メッセージ画面を順番に表示させます。
すべて表示されると、故障件数画面bに戻ります。

自動表示機能：

走行中に故障が起きたときは、停車後エンジンスイッチを0の位置に戻したとき、またはキーを抜き取ると、故障件数画面bが自動的に表示されます。
故障個所が複数あるときは、リセットボタンを押すたびに、次のメッセージが表示されます。

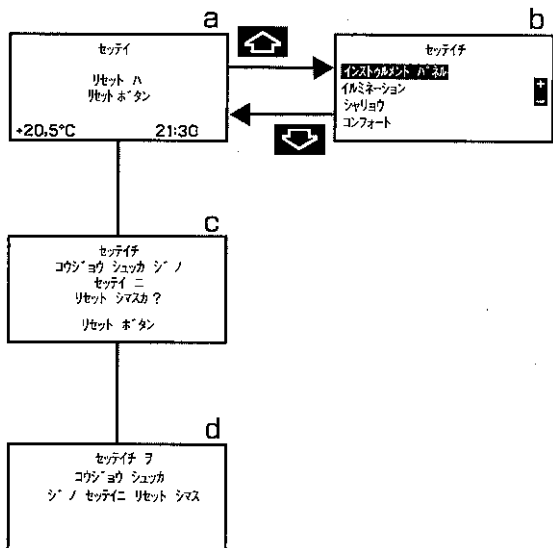
リセット：

エンジンスイッチを1か2の位置にすると、故障メッセージの表示は消えます。ただし、故障状況が変わらないときは、自動表示機能により再びメッセージが表示されます。

注　意！

◆故障や警告メッセージの対象範囲は限られており、すべての故障を検知するものではありません。これらのメッセージ表示機能は、運転者を支援するものであり、発生した故障について責任を負うものではありません。

◆表示される故障 / 警告メッセージについては、87ページをご覧ください。

D 各種設定：

※上記の内容は、取扱説明書作成時点のもので、
予告なく変更されることがあります。

a 各種設定メイン画面

⇧ を押してグループ選択画面を表示させます。

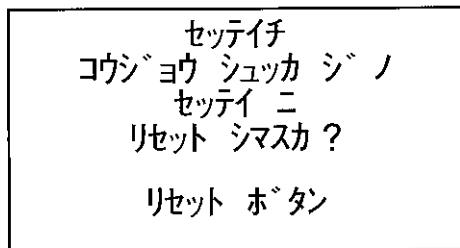
b 設定グループ選択画面

＋、－ を押し、設定する項目のグループを選びます。

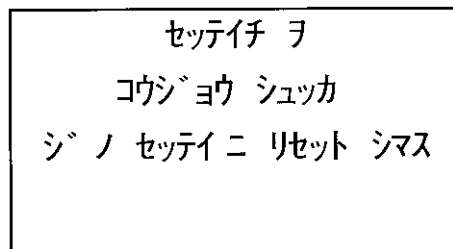
◇インストゥルメント　パネル(118ページ)
◇イルミネーション(124ページ)
◇シャリョウ(128ページ)
◇コンフォート(131ページ)

知　識

◇低速走行時に限り、設定項目画面を表示させたり設定の変更ができますが、必ず停車中に操作してください。

c 各種設定項目初期化画面

各グループ内のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する(戻す)ことができます。
以下の手順で操作します。

1 [icon]、または[icon]を押し、各種設定メイン画面を表示させます。
2 リセットボタンを約3秒間押しつづけると、上記の初期化画面が表示されます。

d 各種設定項目初期化完了画面

3 初期化画面の表示中(約5秒以内)に、もう1度リセットボタンを押すと、初期化を実行し、上記の初期化完了画面が表示されます。

知 識

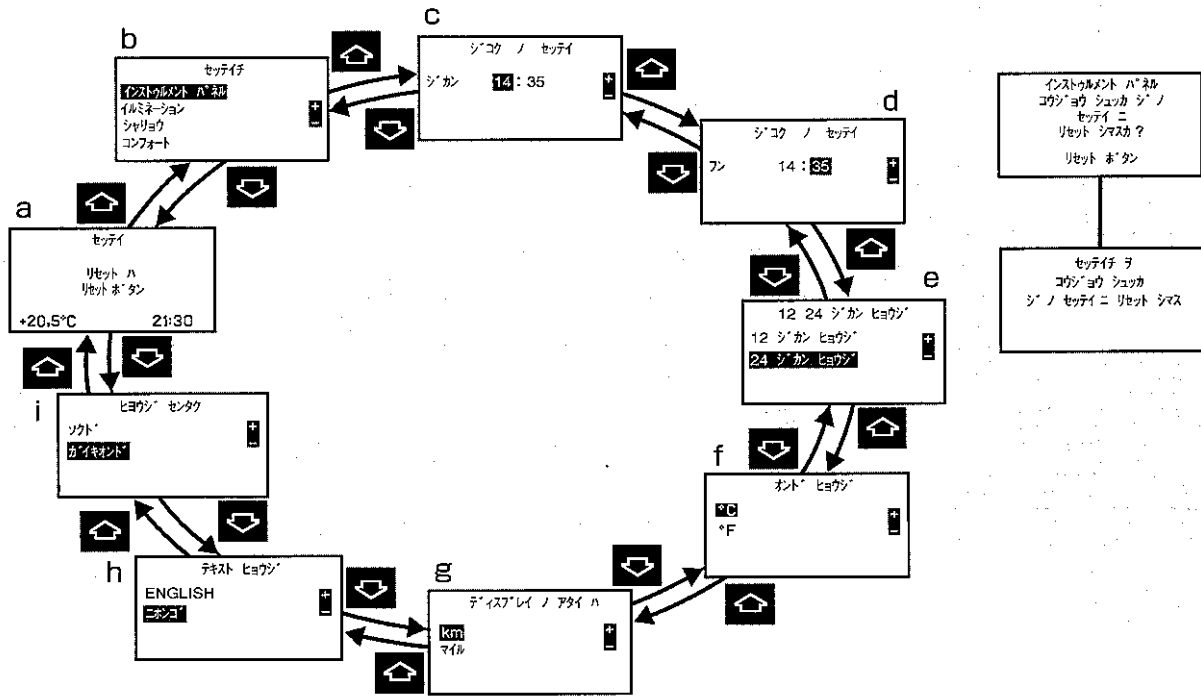
◇初期化画面が表示されてから約5秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面aに切り替わります。
◇この操作では、すべての項目を一括して初期化できますが、それぞれのグループ別に初期化することもできます(次ページをご覧ください)。

グループ別の項目初期化：
インストゥルメント　パネル、イルミネーション、シャリョウ、コンフォートの各グループごとの項目を工場出荷時の設定に初期化する(戻す)ことができます。
以下の手順で操作します。

以下の例では、イルミネーショングループを初期化する手順を説明しています。

1 各種設定メイン画面aを表示させます。
2 [⇧] を押して、設定グループ選択画面bを表示させます。
3 [＋]または[－] を押して“ｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝ”に反転表示を合わせます。
4 [⇧]、または[⇩] を押して、いずれかの設定項目画面を表示させます。
5 リセットボタンを約3秒間押しつづけると、初期化画面が表示されます。
6 初期化画面の表示中(約5秒以内)に、もう1度リセットボタンを押すと初期化を実行し、初期化完了画面が表示されます。

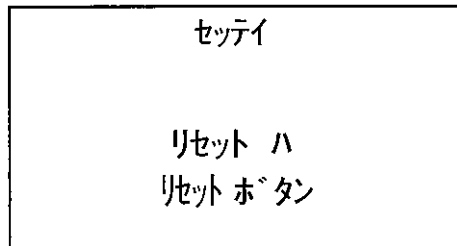
知　識

◇初期化画面が表示されてから約5秒間リセットボタンを押さずにいると、設定グループ選択画面bに切り替わります。

インストゥルメント　パネル

※時刻表示以外の白抜き文字表記は、工場出荷時
の設定(初期化)状態です。

a　各種設定メイン画面：

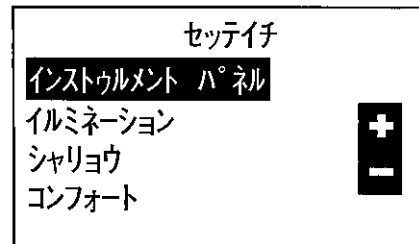
セッテイ

リセット　ハ
リセット ボ゛タン

b　設定グループ選択画面：

メイン画面を表示させる

エンジンスイッチが**1**、**2**のとき表示します。
、または を押し、各種設定メイン画面を表示させます。

知　識

◇走行中は、設定項目画面の表示や設定変更はできません。停車中に設定項目画面を表示しているとき、車が動き出すとメイン画面に変わりますが、再び停車すると表示させていた元の画面が表示されます。

設定グループ選択画面を表示させる

各種設定メイン画面a表示中に を押して設定グループ選択画面を表示させます。

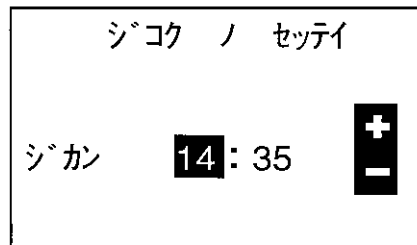
設定グループを選ぶ

1　＋または－ を押して反転表示を移動させ、設定グループを選びます。
2　選んだグループ名を確かめ、 を押すと、選んだグループ内の最初の項目設定画面が表示されます。

各種設定の項目画面使用上の注意

知　識

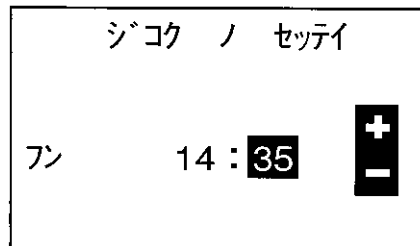
◇以下につづく設定項目画面で数値や設定状態を変更すると、画面を切り替えたとき自動的に新しい状態に変更されます。不意に変更されないように注意してください。
◇設定状態の修正後に を押すと修正値が設定され、前の画面に戻ります。また、 を押すと、次の画面を表示します。
◇変更が不用なときは を押すと、次の画面を表示します。
◇各種設定を途中で中止するときや部分的な修正後は、 、または を押すと、各種設定が中止され、他のメイン画面が表示されます。

C　時刻設定(時)：

時刻表示の「時間」表示を設定します。

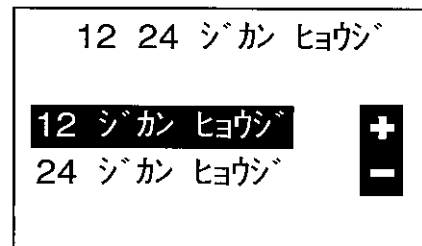
1　 または を押して反転表示部分の数字を修正します。
2　修正後、 を押すと修正値が設定され、次の「分」設定画面が表示されます。

知　識

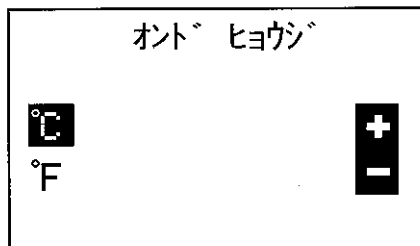
◇修正後に を押すと修正値が設定され、前の画面に戻ります。

d 時刻設定(分)：

時刻表示の「分」表示を設定します。

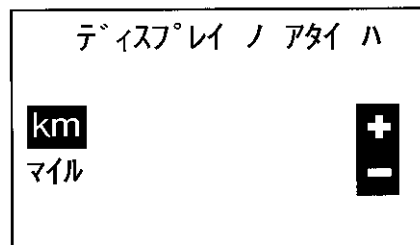
1 [+] または [−] を押して反転表示部分の数字を修正します。
2 修正後、[⌂] を押すと修正値が設定され、次の画面が表示されます。

e 時計表示：

時計の表示方法を切り替えることができます。
12時間表示、24時間表示のいずれかを選びます。

1 [+] または [−] を押して反転表示部分を移動します。
2 変更後、[⌂] を押すと変更状態が設定され、次の画面が表示されます。

f　温度表示単位：

外気温度とエアコンディショナーの温度表示単位を切り替えることができます。
摂氏(℃)表示、華氏(°F)表示のいずれかを選びます。

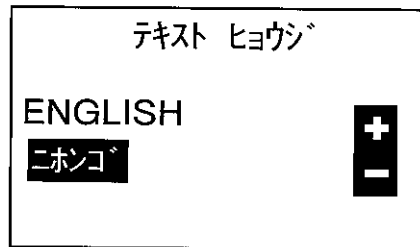
1　[+]または[−]　を押して反転表示部分を移動します。
2　変更後、[⌂]　を押すと変更状態が設定され、次の画面が表示されます。

g　スピードメーター表示単位：

走行速度の表示単位を切り替えることができます。
キロメーター(km/h)表示、マイル(mph)表示のいずれかを選びます。

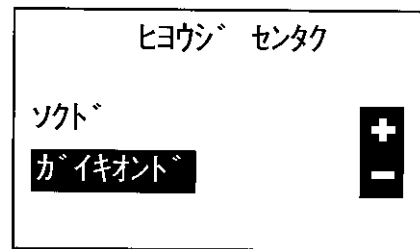
1　[+]または[−]　を押して反転表示部分を移動します。
2　変更後、[⌂]　を押すと変更状態が設定され、次の画面が表示されます。

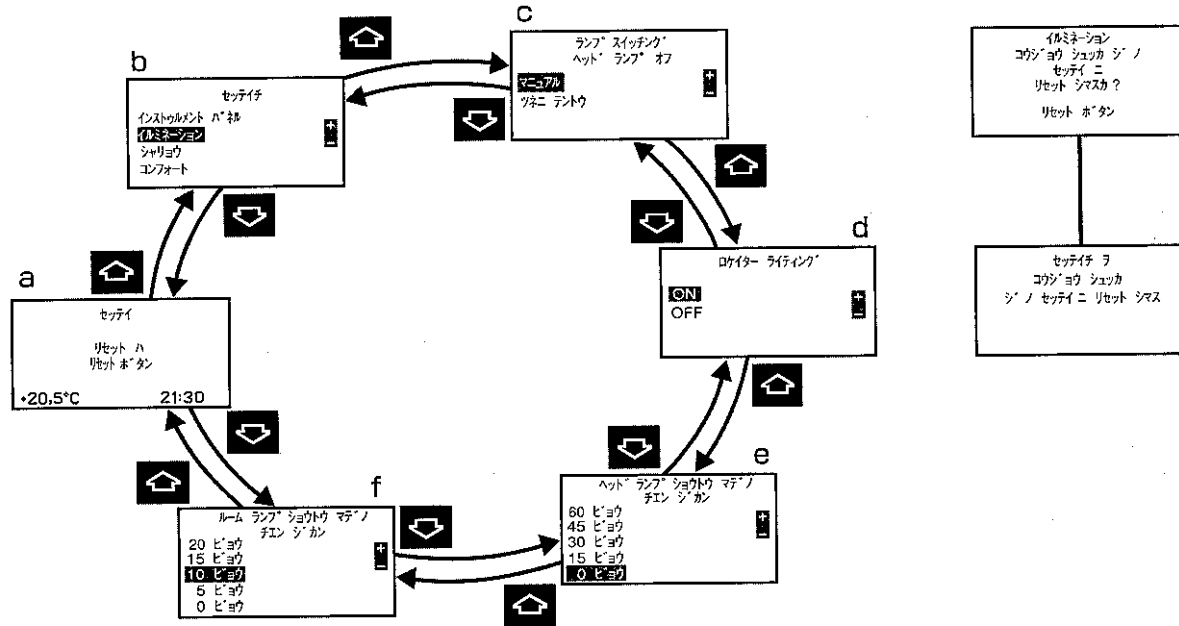
注　意！

◆安全上の理由から、キロメーター表示の使用を強くおすすめします。詳しくは、85ページをご覧ください。

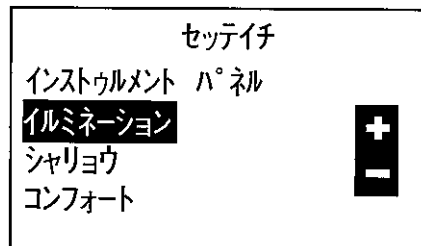
h ディスプレイ表示言語：

画面の表記言語(日本語 / 英語)を切り替えることができます。
日本語表示、英語表示のいずれかを選びます。

1 ＋または－ を押して反転表示部分を移動します。
2 変更後、⌂ を押すと変更状態が設定され、次の画面が表示されます。

i 外気温度 / 速度の表示選択：

画面左下に常に表示するデータ(外気温度 / 速度表示)を切り替えることができます。
外気温度表示、走行速度表示のいずれかを選びます。

1 ＋または－ を押して反転表示部分を移動します。
2 変更後、⌂ を押すと変更状態が設定され、メイン画面が表示されます。

イルミネーション

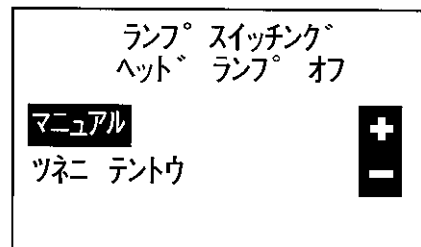
※項目設定画面の白抜き文字表記は、工場出荷時の設定(初期化)状態を示しています。

b 設定グループ選択画面：

設定グループ選択画面を表示させる

各種設定メイン画面a表示中に ⌂ を押して設定グループ選択画面bを表示させます。

設定グループを選ぶ

1 ＋ または － を押して反転表示を移動させ、設定グループ(イルミネーション)を選びます。
2 選んだグループ名を確かめ、 ⌂ を押すと、選んだグループ内の最初の項目設定画面が表示されます。

c ヘッドランプの点灯：

ヘッドランプの点灯設定を切り替えることができます。

<マニュアル>

一般的な設定で、ヘッドランプなどを点灯するときは、ライトスイッチを操作します。

<ツネニ　テントウ>

エンジンを始動すると、ヘッドランプ(ロービーム)などが常に点灯します。

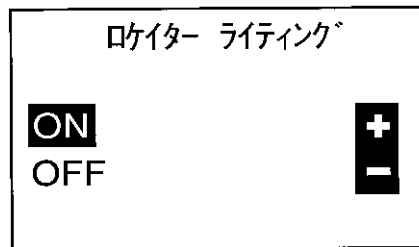
1 ＋ または － を押して反転表示部分を移動します。
2 変更後、 ⌂ を押すと変更状態が設定され、次の画面が表示されます。

知　識

◇常時点灯モード(ツネニ　テントウ)で自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ(ロービーム)、車幅灯、テールランプ、ライセンスプレートランプです。その他の車外ランプを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

◇常時点灯モードは、走行中の昼間点灯が義務づけられている諸国に対応するものです。

◇車外ランプの消灯時に作動する消灯遅延機能を装備しており、ここで設定する点灯設定とは機能が異なります(137ページ)。

d　ロケイターライティングの設定：

周囲が暗いときに乗車前の周囲を明るくするロケイターライティングの点灯設定を切り替えることができます。

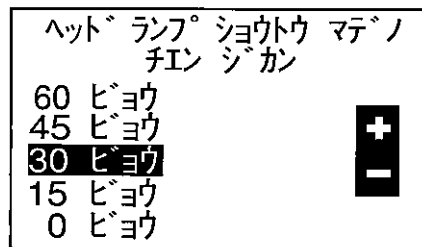
<ON>

リモートコントロール操作でドアを解錠すると、ヘッドランプの車幅灯、テールランプ、ライセンスプレートランプ、フォグランプが点灯します。

<OFF>

ロケイターライティングは作動しません。

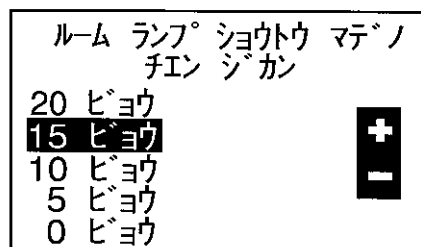
1　＋ または − を押して反転表示部分を移動します。
2　変更後、⌂ を押すと変更状態が設定され、次の画面が表示されます。

e 車外ランプ消灯遅延時間：

周囲が暗いときにエンジンを止めると、車外ランプ消灯遅延機能により周囲を明るくします。この消灯遅延時間を変更することができ、下記のいずれかを選びます。

<60、45、30、15ビョウ>
それぞれの時間経過後に、車幅灯、テールランプ、ライセンスプレートランプ、フォグランプが消灯します。

<0ビョウ>
消灯遅延機能は作動せず、すぐに消灯します。
消灯遅延機能については137ページをご覧ください。

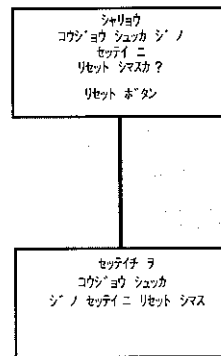
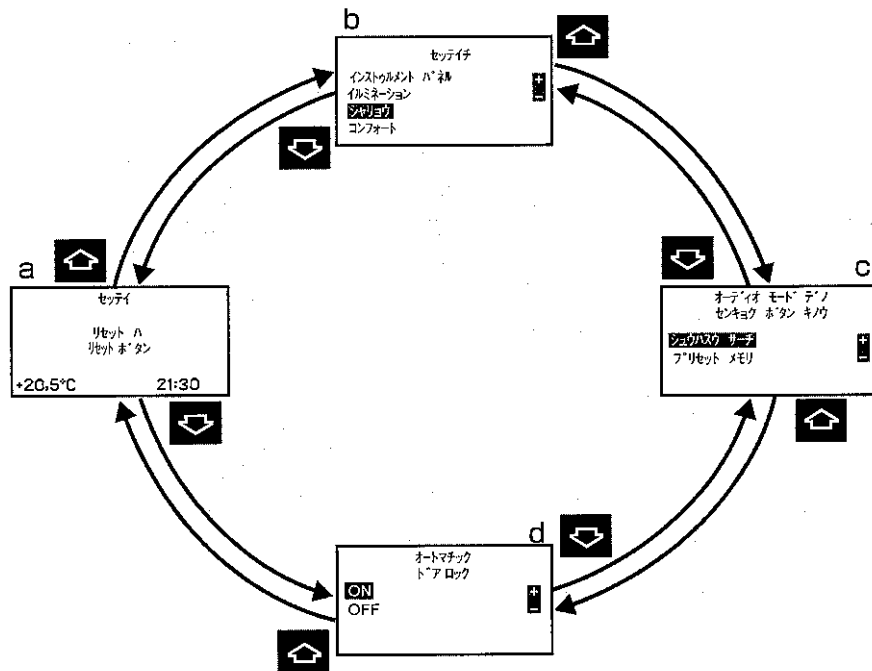
1 ＋または－ を押して反転表示部分を移動します。
2 変更後、⌂ を押すと変更状態が設定され、次の画面が表示されます。

f ルームランプ消灯遅延時間：

ルームランプには消灯遅延機能を備えています。この消灯遅延時間を変更することができ、下記のいずれかを選びます。

<20、15、10、5ビョウ>
それぞれの時間経過後に、ルームランプが消灯します。

<0ビョウ>
消灯遅延機能は作動せず、すぐに消灯します。

ルームランプについては195ページをご覧ください。

1 ＋または－ を押して反転表示部分を移動します。
2 変更後、⌂ を押すと変更状態が設定され、次の画面が表示されます。

シャリョウ

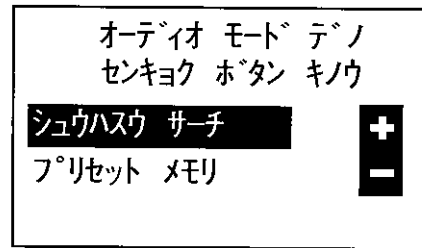
※項目設定画面の白抜き文字表記は、工場出荷時
　の設定(初期化)状態を示しています。

設定グループ選択画面を表示させる

1 各種設定メイン画面を表示させせます(115ページ)。
2 各種設定メイン画面a表示中に[⌂] を押して設定グループ選択画面bを表示させせます。

設定グループを選ぶ

1 [＋]または[－] を押して反転表示を移動させ、設定グループ(シャリョウ)を選びます。
2 選んだグループ名を確かめ、[⌂] を押すと、選んだグループ内の最初の項目設定画面が表示されます。

c ラジオの選局方法：

ラジオ表示画面のとき[⌂]、[⌄] を操作すると、受信放送局が変わります。このときの選局方法(受信周波数 / プリセット番号順)を切り替えることができます。

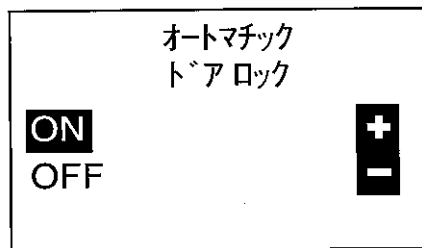
<シュウハスウ　サーチ>

放送局の受信周波数によって順次選局します。

<プリセット　メモリー>

プリセットされている放送局を番号順に選局します。

1 [＋]または[－] を押して反転表示部分を移動します。
2 変更後、[⌂] を押すと変更状態が設定され、次の画面が表示されます。

d 車速感応ドアロック：

車速感応ドアロック機能は、走行速度が約15km/h以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠します。この機能の設定を切り替えることができます。

<ON>
車速感応ドアロック機能が作動します。

<OFF>
車速感応ドアロック機能は作動しません。

詳しくは53ページをご覧ください。

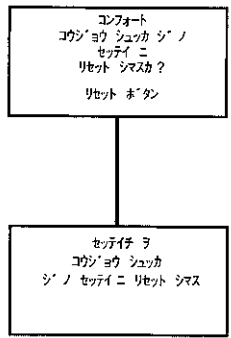
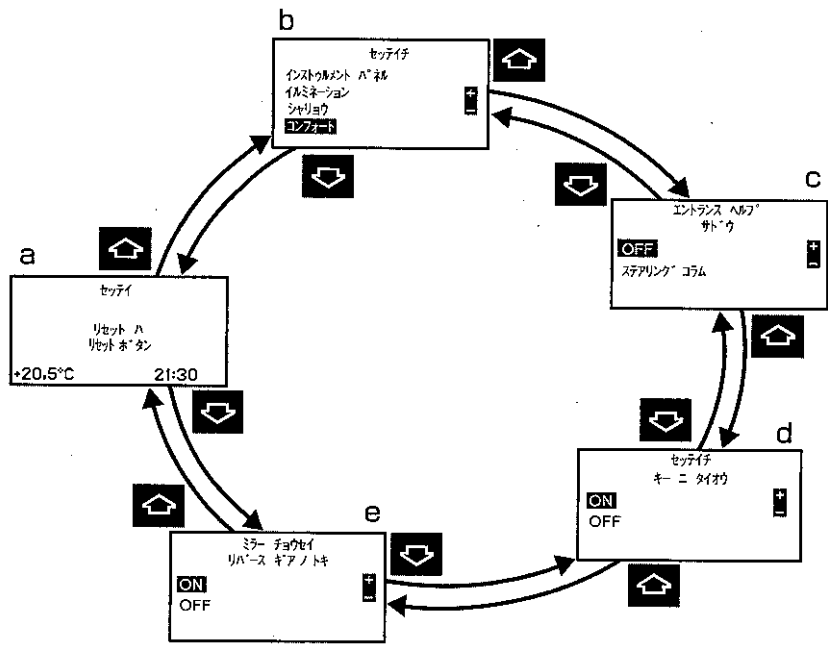
1 ＋または－ を押して反転表示部分を移動します。
2 変更後、⌂ を押すと変更状態が設定され、次の画面が表示されます。

b
セッテイチ
インストゥルメント パ゜ネル
イルミネーション
シャリョウ
コンフォート

c
エントランス ヘルプ゜
サト゛ウ
OFF
ステアリング゛ コラム

a
セッテイ
リセット ハ
リセット ホ゛タン
+20,5°C 21:30

d
セッテイチ
キー ニ タイオウ
ON
OFF

e
ミラー チョウセイ
リバ゛ース ギ゛ア ノ トキ
ON
OFF

コンフォート

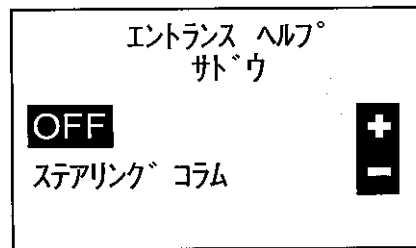
※項目設定画面の白抜き文字表記は、工場出荷時の設定(初期化)状態を示しています。

設定グループ選択画面を表示させる

1 各種設定メイン画面を表示させます(115ページ)。
2 各種設定メイン画面a表示中に を押して設定グループ選択画面bを表示させます。

設定グループを選ぶ

1 または を押して反転表示を移動させ、設定グループ(コンフォート)を選びます。
2 選んだグループ名を確かめ、 を押すと、選んだグループ内の最初の項目設定画面が表示されます。

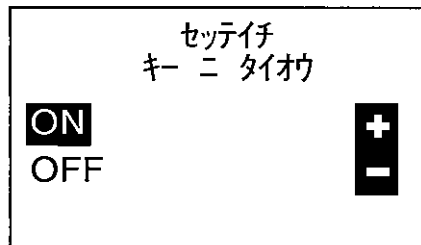
c エントランスヘルプの設定：

運転席への乗り降りを容易にするため、ステアリングが上下します。この機能の設定を切り替えることができます。

<OFF>
ステアリングは作動しません。

<ステアリングコラム>
ステアリングが上方に移動します。

エントランスヘルプ機能については55ページをご覧ください。

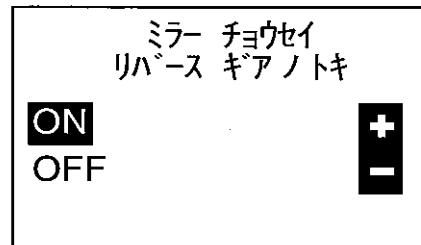
1 または を押して反転表示部分を移動します。
2 変更後、 を押すと変更状態が設定され、次の画面が表示されます。

d 設定項目のキー対応設定：

各種設定の全項目の設定状態をキーごとに対応(記憶)させることができます。ONにすると、差し込んでいるキーに現在の設定状態が記憶されます。

<ON>
差し込んでいるキーに設定状態を対応(記憶)させます。

<OFF>
異なるキーを使用しても、設定状態は変わりません。

1 ＋または－ を押して反転表示部分を移動します。
2 変更後、⌂ を押すと変更状態が設定され、次の画面が表示されます。

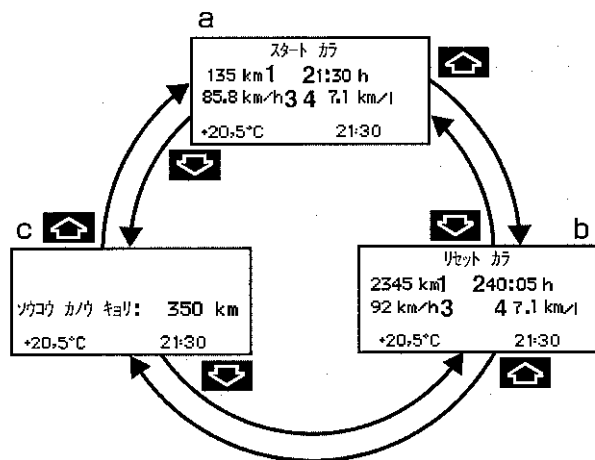
e 後退時助手席ドアミラー連動設定：

車の後退時に、助手席側ドアミラーを下向きにする機能の設定を切り替えることができます。

<ON>
後退時に助手席ドアミラーが下向きになります。

<OFF>
後退時も助手席ドアミラー角度は変わりません。

助手席ドアミラーについては81ページをご覧ください。

1 ＋または－ を押して反転表示部分を移動します。
2 変更後、⌂ を押すと変更状態が設定され、次の画面が表示されます。

E トリップコンピューター表示

a ショートトリップメーター画面

エンジンスイッチが1、2の位置のとき表示します。
、または を押し、トリップコンピューター表示メイン(ショートトリップメーター)画面を表示させます。

b ロングトリップメーター画面

1 ショートトリップメーター画面aを表示させます。
2 を押し、ロングトリップメーター画面を表示させます。

ショートトリップメーター画面aは、エンジンを始動したときを起点として情報を表示します(“ｽﾀｰﾄ ｶﾗ”)。

ロングトリップメーター画面bは、トリップメーターをリセットしたときを起点として情報を表示します(“ﾘｾｯﾄ ｶﾗ”)。
表示する情報項目はいずれも同じです。

1 走行距離(km)
2 経過時間(h)
3 平均速度(km/h)
4 平均燃費(km/l)

リセット：

◇ショートトリップメーター

自動リセット

エンジンスイッチを**0**の位置にする、またはキーを抜き取ってから約4時間たつと、自動的にリセットされます。

手動リセット

手動でリセットするときは、ショートトリップメーター画面の表示中に「0km」が表示されるまでリセットボタンを押します。

◇ロングトリップメーター

リセットボタンを押さない限り、リセットされません。

ロングトリップメーター画面の表示中に「0km」が表示されるまでリセットボタンを押します。

C 走行可能予測距離表示画面

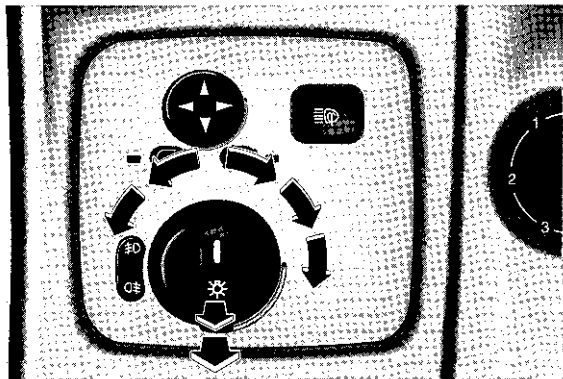
1 トリップコンピューター表示メイン画面を表示させます。

2 [▽] を押し、走行可能予測距離表示画面を表示させます。

エンジンスイッチが**2**の位置のとき、現在の燃料の残量から走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

注 意！

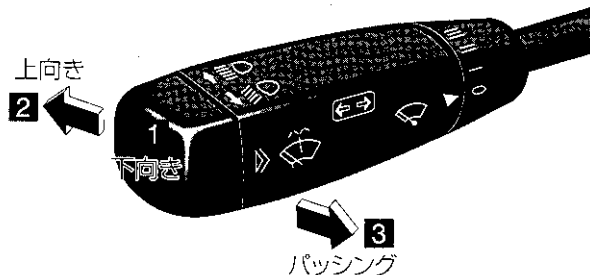
◆走行可能予測距離表示は、現在までの平均燃費と残り燃料から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて、大きく変動することがありますので、早めに給油してください。

ライトスイッチ

記号	説明
O	すべてのランプが消灯
AUTO	オート(自動点灯 / 消灯) (138ページ)
車幅灯記号	ヘッドランプの車幅灯、テールランプ、ライセンスランプ、およびスイッチなどのイルミネーションランプが点灯
ヘッドランプ記号	上記に加えてヘッドランプが点灯
フォグランプ記号	スイッチを1段引くと、上記に加えてフォグランプが点灯し、スイッチ横の緑色の表示灯が点灯
リアフォグランプ記号	スイッチを2段引くと、上記に加えてリアフォグランプが点灯し、スイッチ横の黄色の表示灯が点灯
P→	右側のパーキングランプが点灯
←P	左側のパーキングランプが点灯

注　意！

◆ライト(パーキングランプを除く)を消灯しないで、エンジンスイッチからキーを抜き取りフロントドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに“ﾗﾝﾌﾟ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!”と表示され、アラームが鳴ります。
◆フォグランプおよびリアフォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。
◆エンジンが停止している状態では、ランプを点灯したままにしないでください。バッテリーが上がるおそれがあります。

知　識

◇パーキングランプは、エンジンスイッチが**0**の位置のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯します。

下向き／上向きの切り替え

下向き ：レバーを1の位置にすると、ヘッドランプが下向きになります。

上向き ：レバーを2の位置にすると、ヘッドランプが上向きになります。
メーターパネル内の表示灯 ≣D (86ページ)が点灯します。

追い越し合図：(パッシング) エンジンスイッチが1か2の位置のとき、レバーを3の方向に引いている間、ヘッドランプの上向きが点灯します。

注　意！

◆対向車があるときや市街地を走行するときは上向きを使用しないでください。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときエンジンを停止する(キーが0の位置)と、ヘッドランプの車幅灯、テールランプ、ライセンスランプ、フォグランプが点灯し、すべてのドアが閉じた後、一定の時間後に消灯します。
消灯するまでの時間は、最長60秒までの範囲で15秒間隔で選ぶことができます。0秒を選択するとランプは点灯しません。

この機能を一時的に解除するときは、エンジンを停止後エンジンスイッチを2の位置にし再度0の位置にするとランプは消灯します。

知　識

◇エンジンを停止したとき点灯したランプはドアを開閉しないと約60秒後に消灯します。

ヘッドランプ

ヘッドランプはマニュアルまたはオートで点灯 / 消灯することができます。

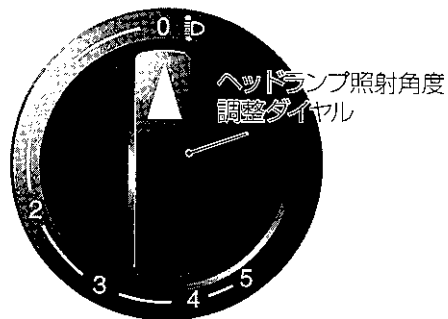
マニュアル：

ライトスイッチを操作してライトを点灯 / 消灯します。

オート：

トンネルなどの暗い場所や夜間の走行、悪天候のときなどに自動点灯します。
ライトスイッチをAUTOの位置に合わせます。
周囲が暗いとき、エンジンスイッチを1の位置にすると、ヘッドランプの車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動点灯します。エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプ(ロービーム)も自動点灯します。

注　意！

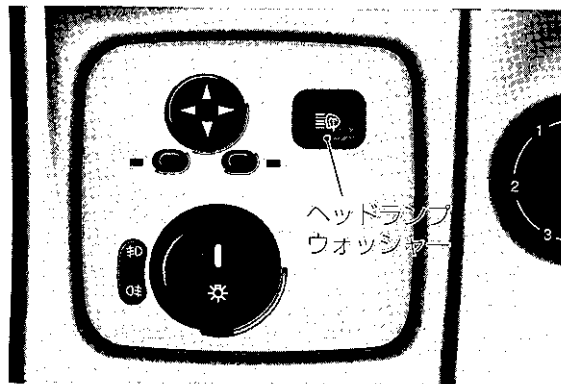
◆ライトの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ライトのオート機能は運転者を支援するシステムです。
◆ライトスイッチをAUTOの位置に合わせても、状況により、自動点灯しないことがあります。このときは、マニュアルでライトを点灯してください。
◆ライトがオートで点灯しているときは、エンジンスイッチを1か2の位置にしたりエンジンを始動した後、エンジンスイッチを0の位置に戻してドアを開くと、"ｵｰﾄﾏﾁｯｸ ﾗﾝﾌﾟ ｵﾝ!、ｷｰ ｦ ﾇｲﾃ ｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。キーを抜き取らないと、ヘッドランプの車幅灯、テールランプ、ライセンスランプなどが点灯したままになり、バッテリーが上がるおそれがありますので、必ずキーを抜いてください。

ヘッドランプ照射角度
調整ダイヤル

ヘッドランプ照射角度の調整

乗員数が増えたり荷物を積載してヘッドランプの照射角度が変わったときに調整します。
エンジンが回転しているときに調整できます。

0　1名乗車時(運転席)または2名乗車時(運転席と助手席)。
1～3　乗員数および荷物の積載量に応じて調整します。
4、5　使用しません。

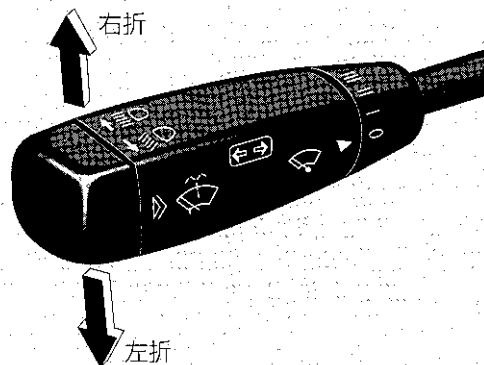
注　意！

◆対向車に迷惑がかからないように注意しながら調整してください。

ヘッドランプウォッシャーの操作

エンジンスイッチが**2**の位置のとき、スイッチを押すとノズルからウォッシャー液がヘッドランプに向けて噴射されます。

注　意！

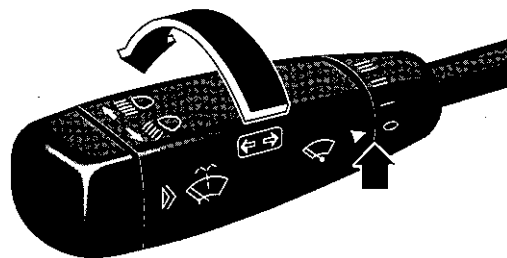
◆ヘッドランプウォッシャーを使用するときは、通行人などに水がかからないように注意してください。

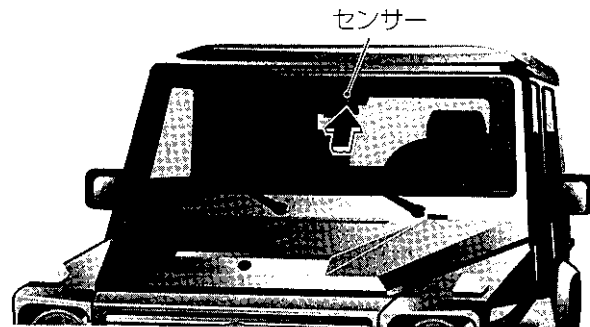
方向指示の操作

レバーを上または下へ操作すると左または右の方向指示灯が点滅します。
メーターパネルの表示灯も点滅します。

ステアリングを戻すとレバーは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。
車線変更など短時間だけ方向指示灯を使用するときは、方向指示レバーを手ごたえが感じられる位置にして手を放すと方向指示灯が3回点滅します。

知　識

◇非常点滅灯を使用しているときに方向指示レバーを操作すると、方向指示操作が優先され、左側または右側の方向指示灯の点滅に切り替わります。中立の位置に戻すと、再び非常点滅灯に切り替わります。
◇方向指示灯(サイドを除く)のいずれかの電球が切れると、表示灯の点滅と音の間隔が短くなります。速やかに電球を交換してください(262ページ)。

ワイパーの操作（フロント）

エンジンスイッチが1か2の位置のときに使用できます。レバーをまわすと、以下のように作動します。

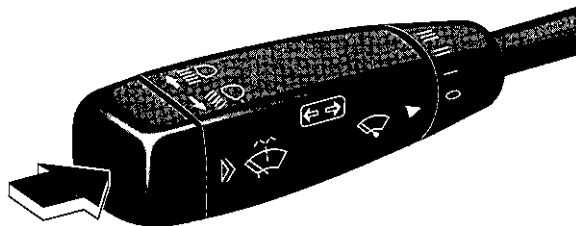
O の位置 ： 停　　止
I の位置 ： ワイパーの作動が自動調整されます。
II の位置 ： 低速モード
III の位置 ： 高速モード

フロントウインドウのセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じてワイパーの作動を停止、間欠モード、低速モードに自動的に切り替えます。

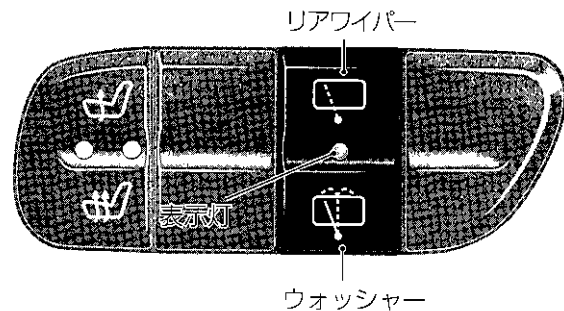
知　識

◇レバーが II 、III の位置になっていると、停車時または低速走行時にワイパーの作動が自動調整されます。

注　意！

◆フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。
◆停車時にワイパーを使用するときは、通行人などに水がかからないように注意してください。
◆寒冷時にはワイパーがガラスに貼りつくことがあります。作動させる前に貼りついていないことを確認してください。貼りついたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
◆ワイパーに雪などの障害物が付着しているときは、エンジンスイッチからキーを抜き、障害物を取り除いてからワイパーを動かしてください。

ウォッシャーの操作（フロント）

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、矢印の方向に軽く押すとウォッシャー液が噴射せずにワイパーが1回だけ作動します。この操作は、フロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。スイッチを矢印の方向に強く押し込むと、その間、フロントウインドウに向けてウォッシャー液が噴射され、ワイパーも作動します。

リアワイパー / ウォッシャーの操作

センターコンソールのスイッチでリアワイパーとリアウインドウウォッシャーを操作します。エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき作動します。

リアワイパーの操作：
スイッチの上側を押します。リアワイパーが間欠モードで作動し、スイッチの表示灯が点灯します。停止するときは、再度スイッチの上側を押します。

ウォッシャーの操作：
スイッチの下側を押すとウォッシャー液が噴射され、リアワイパーが作動します。

注　意！

◆ウインドウが汚れているときは、必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを使用してください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。

◆ウォッシャー液がないときは、ウォッシャーを操作しないでください。モーターを損傷するおそれがあります。

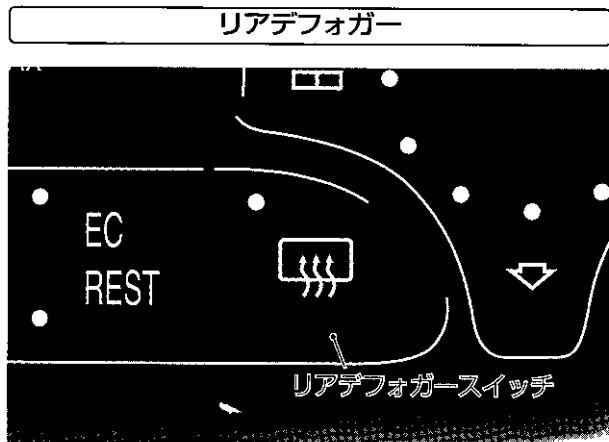
知　識

◇フロントワイパーが作動しているときにセレクターレバーを R に入れると、リアワイパースイッチを操作しなくてもリアワイパーが自動的に作動します。リアワイパーはフロントワイパーのモードに応じて以下のように作動します。

◇フロントワイパーが間欠モードのとき：
- 間欠モードで作動します。

◇フロントワイパーが低速モードのとき：
- 低速モードで作動します。

◇フロントワイパーが高速モードのとき：
- 低速モードで作動します。

このとき、スイッチの上側を押すと間欠モードになります。

リアデフォガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。
スイッチはエアコンパネルにあります。
エンジンスイッチが**2**の位置のときに使用できます。

使用するときはスイッチを押します。表示灯が点灯します。
スイッチを再度押すと作動を停止します。

注　意！

◆消費電力が大きいため、リアウインドウの曇りが取れたらスイッチを切ってください。
◆リアウインドウに氷や雪が付いている場合は、取り除いてから使用してください。

知　識

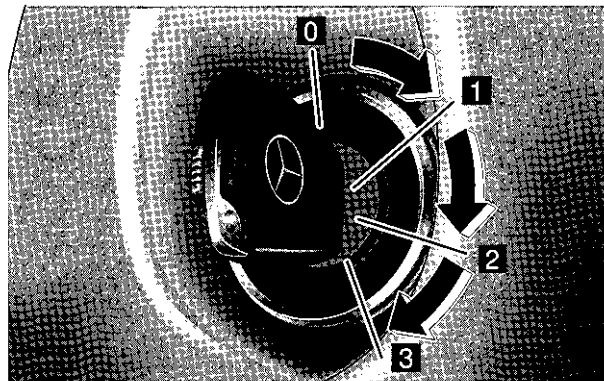
◇リアデフォガーは、約6～17分後に自動的にスイッチが切れます。
◇バッテリーの電圧が低くなったときは、一時的にスイッチが切れ、表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的にスイッチが入ります。

運転するとき

エンジンスイッチ

⚠警　告

●ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供が乗車している場合は一緒に降ろしてください。
いたずらから車の発進、火災など思わぬ事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、火傷や脱水症状を起こすおそれがあります。

0：キーを抜き差しする位置。
1：エンジンをかけずに電気装備の一部を使用するときの位置。
2：エンジンが回転中の位置。
すべての電気装備が使用できます(パーキングランプを除く)。
3：エンジンを始動する位置。
エンジンスイッチをいったん**3**の位置までまわせば、手を放しても自動的にスターターがまわり、エンジンを始動します。

ステアリングロック
エンジンスイッチからキーを抜き取るとステアリングがロックされ、キーを差し込むとステアリンクのロックが解除されます。

注　意！

◆エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差し込むことはできません。
◆車のバッテリー上がりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。
◆走行中にエンジンを止めないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

知　識

◇セレクターレバーが P に入っていないときはキーを抜くことができません。
◇キーをエンジンスイッチに差し込んだままにすると、キーがまわせなくなることがあります。そのときはキーをいったん抜き、再度差し込んでまわしてください。

エンジン警告灯

エンジンスイッチが**2**の位置のとき点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)エンジン始動後に消灯します。消灯しなかったり、走行中に点灯したときはエンジンの制御システムに異常が考えられます。指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

エンジンの始動と停止

エンジンを始動するとき

1 駐車ブレーキが確実に効いていることを確認してください。
2 セレクターレバーが P に入っていることを確認してください。
3 確実にブレーキペダルを踏みます。
4 エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに3の位置までまわして手を放します。

注　意!

◆エンジンは、セレクターレバーが N に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを P に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。
◆少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

知　識

◇ライトやエアコンディショナーなど、エンジンの負担になる装置のスイッチをオフにしておくと始動性が良くなります。

エンジンが始動しないとき

エンジンが始動しないときは、指定サービス工場に連絡してください。

知　識

◇始動できないときはセレクターレバーの位置も確認してください。セレクターレバーが D か R に入っていると、エンジンを始動することができません。

エンジンを停止するとき

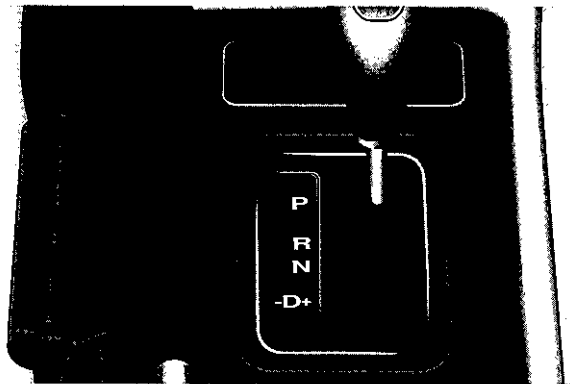
1 車を完全に停止させます。
2 ブレーキペダルを踏んだまま、駐車ブレーキレバーを引き、セレクターレバーを P に入れます。
4 エンジンスイッチを0の位置にします。
5 ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

注　意!

◆水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

⚠警　告

●車を駐車するときは、トランスファーケースを(N)の位置にしないでください。

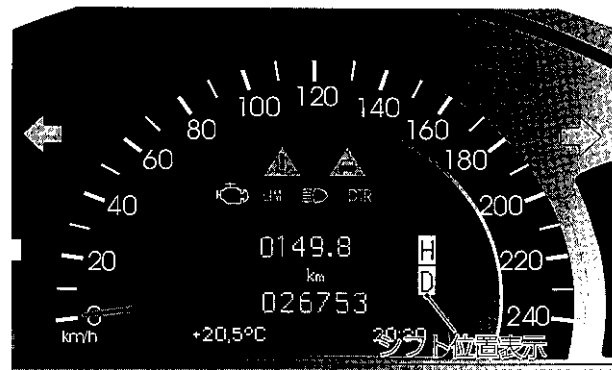
セレクターレバー

メータパネルのシフト位置表示

シフト位置：

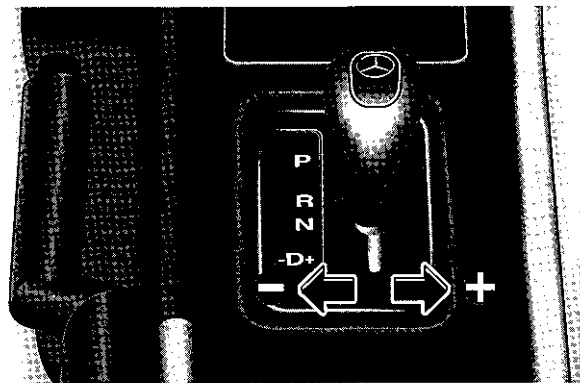
P パーキング
駐車およびエンジン始動 / 停止の位置。

R リバース
後退の位置。

N ニュートラル
動力が伝わらない位置。押したり、けん引してもらい車を移動することができます。

D ドライブ
通常走行の位置。
1速～5速の範囲で自動的に変速します。

⊖⊕ ティップシフト
D の位置から⊕または⊖の方向に動かして変速範囲を選択します(152ページ)。

知　識

◇エンジンスイッチが**2**の位置で、ブレーキを踏んでいないと、セレクターレバーを P から動かすことはできません。

セレクターレバーが D にあるときは、セレクターレバーを⊕または⊖の方向に動かし、路面や走行の状況に合った変速範囲を選択することができます。選択した変速範囲(ティップシフト位置)は、マルチファンクションディスプレイに表示されます。

シフト位置：

4 1速～4速の範囲で自動的に変速します。
坂道走行などに適しています。

3 1速～3速の範囲で自動的に変速します。
穏やかな上りや下りを走行するときなどに適しています。

2 1速～2速の範囲で自動的に変速します。
険しい山道を走行するときや、エンジンブレーキが必要なとき、他車をけん引するときなどに適しています。

1 1速に固定されます。
重い荷物を積んで発進するときや、2 の位置よりも強いエンジンブレーキが必要なときなどに適しています。

知　識

◇セレクターレバーを⊕の方向に押して保持すると D になります。
◇マルチファンクションディスプレイの表示が D のときにセレクターレバーを⊕の方向に押すと、1段上のギアへシフトアップされることがあります。
◇セレクターレバーを⊖の方向に押して保持すると、走行速度に応じた変速範囲(ティップシフト位置) 4 、 3 、 2 、 1 のいずれかが選択され、その位置がマルチファンクションディスプレイに表示されます。
◇セレクターレバーを⊖の方向に押すと、現在選択されている変速範囲で最も高いギアにすでにシフトされている場合は、1段下のギアにシフトします。
◇万一、自動変速や手動変速できなくなったときなど、トランスミッションに異常が起きると、自動的にエマージェンシーモードに切り替わります。このモードでは前進用2速ギアと後退用2速ギアだけが選べ、走行することができます。後述の操作で、前進用または後退用ギアを選びます。

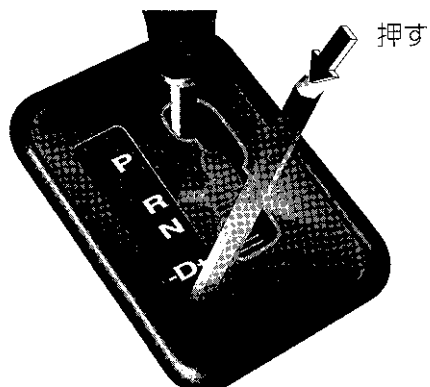
1 安全な場所に停車し、セレクターレバーを P に入れます。
2 エンジンスイッチを0の位置にしてエンジンを止めます。
3 約10秒間待ってから、再びエンジンを始動します。
4 前進時は D に、後退時は R にセレクターレバーを操作します。
 D にいれると「前進用2速ギア」、 R に入れると「後退用2速」ギアに固定されます。

注　意！

◆エマージェンシーモードで走行するときは、動力性能などが大きく制限されます。十分に注意して走行し、速やかに指定サービス工場で点検を受けてください。

パーキングロックの解除

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーを P から動かせないときは、以下の方法で動かすことができます。
故障時に車をけん引されるときなどに必要になります。

1 ドライバーなどをシフト表示の -D+マーク下に差し込み矢印の方向に押します。
2 押したままセレクターレバーを P から動かします。

注　意！

◆前記の方法でセレクターレバーを動かせないときは、指定サービス工場に連絡してください。
◆セレクターレバーを動かすことができた場合でも、指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション車の運転のしかた

運転する前にオートマチックトランスミッション車の特性を理解し、正しい操作をしてください(17ページ)。

オートマチックトランスミッション車の特性

■クリープ現象とは

エンジンが回転しているときに、セレクターレバーを D か R に入れてブレーキペダルから足を放すと、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。これをクリープ現象といいます。

■キックダウンとは

走行中にアクセルペダルを一気に踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がります。これをキックダウンといいます。これを利用すると、車を素早く加速させることができます。

発進

1 エンジンを始動します。
2 ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。
3 ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを走行の位置に入れます。
4 駐車ブレーキを解除します。
5 ブレーキを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

⚠警　告

●アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進するおそれがあります。

注　意！

◆急な坂道で発進するときは、駐車ブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してから駐車ブレーキを解除して発進してください。

通常走行

通常はセレクターレバーを D にして走行します。アクセルペダルの踏み加減や車速に応じて、自動的に変速が行なわれます。

素早く加速したいとき

アクセルペダルを一気に踏み込むと、キックダウンし、素早く加速します。

知　識

◇エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。

坂道走行

上り坂の走行：
坂の勾配に応じて 3 ～ 1 を選択すると、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂の走行：
下り坂を通常走行の位置 D で走行すると、エンジンブレーキがきかず、速度が出すぎることがあります。このようなときは、坂の勾配に応じて 3 ～ 1 を選択し、エンジンブレーキを効かせながら走行します。

■エンジンブレーキとは
走行中にアクセルペダルを離すと、車にブレーキ力が働きます。これをエンジンブレーキといいます。エンジンブレーキは、低速ギアほど効きが強くなります。

⚠警　告

●長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏みつづけたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキの効きが悪くなり、万一のとき停車できなくなるおそれがあります。
●急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失うおそれがあります。

滑りやすい路面での操作
デファレンシャルロックをオンにし(158ページ)、急加速や急減速を避けた運転を心がけてください。滑りやすい路面では、車輪に必要以上の駆動力がかかると、車のコントロールや制動距離に悪影響が出ることがあります。

⚠警　告

●滑りやすい路面では、シフトダウンによる急激なエンジンブレーキを使用しないでください。車のコントロールを失うおそれがあります。

注　意！

◆シフトダウンはエンジン回転数の許容限度内で行なってください。エンジン回転数の許容限度を超えると、エンジン保護のため、セレクターレバーを動かしてもシフトダウンされません。
◆滑りやすい路面で発進するときは、タイヤを長時間空転させないでください。デファレンシャルギアを損傷するおそれがあります。

停車

セレクターレバーを D か R に入れたままブレーキペダルを踏みます。
やむを得ずエンジンをかけたまま長時間停車するときは、駐車ブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れてください。

⚠警　告

●停車中は空吹かしをしないでください。万一セレクターレバーが D 、R にあると車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

注　意！

◆急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
◆停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象(17、155ページ)で車が動かないようにしてください。
◆車が完全に停止しないうちにセレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッション損傷の原因になります。

駐車

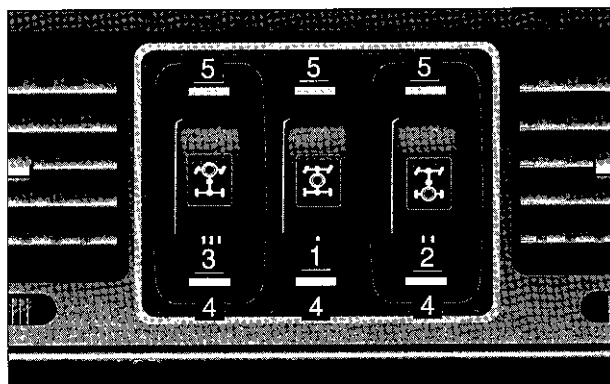
1 ブレーキペダルを踏んだまま、車を完全に停止させ、駐車ブレーキを効かせます。
2 セレクターレバーを P に入れます。
3 エンジンスイッチを0の位置にし、キーを抜きます。
4 ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

⚠警　告

●車を駐車するときは、トランスファーケースを(N)の位置にしないでください。
●車を離れるときはセレクターレバーを P にしてください。坂道に停車しているときにセレクターレバーが D 、R にあると、車が動き出して重大な事故を起こすおそれがあります。

注　意！

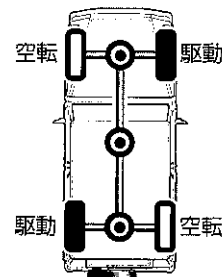
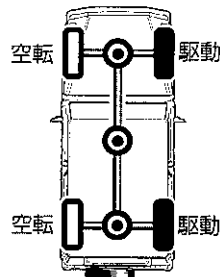
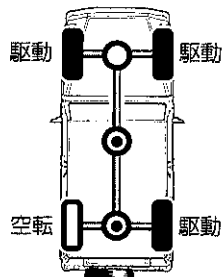
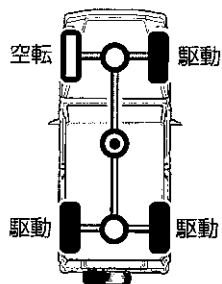
◆急な坂道で駐車するときは、木片、石などを利用して輪止めをしてください。
◆車から離れるときは、ウインドウとスライディングルーフを閉じ、必ず車を施錠してください。

デファレンシャルロック

デファレンシャルロックは、オフロードや雪道走行時、あるいは脱輪などで片輪が空転し車が動けなくなった場合などに、脱出を容易にする緊急時の装置です。
スイッチはインストルメントパネルにあります。

1 センターデファレンシャルロックスイッチ
2 リアアクスルデファレンシャルロックスイッチ
3 フロントアクスルデファレンシャルロックスイッチ
4 表示灯(黄)
5 作動表示灯(赤)

デファレンシャルロックは、センター→リアアクスル→フロントアクスルの順序でのみ、スイッチをオンにすることができます。

デファレンシャルロックをオンにすると、ABSが解除されます。

4輪駆動車

前輪の片側が空転しているとき　後輪の片側が空転しているとき

前後輪の片側が空転しているとき

デファレンシャルロックの機能

デファレンシャルロックは、センターデフ、リアデフ、フロントデフをロックすることにより、空転した車輪以外の車輪に駆動力を伝える機構です。

以下のときにスイッチを操作して、デファレンシャルロックをオンにしてください。

◇岩石路や脱輪時など、片輪が宙に浮き、走行できなくなった場合

◇片輪が雪上にあり、他の車輪がアスファルト上などで脱出できなくなった場合。

脱出後は、ただちにデファレンシャルロックを解除してください。

デファレンシャルロックの使いかた

前輪の片側が空転しているとき：

センターデファレンシャルロックをオンにします。後側の2輪に駆動力が伝わります。

後輪の片側が空転しているとき：

センターデファレンシャルロックとリアアクスルデファレンシャルロックをオンにします。空転していない他の3輪(前側の2輪と後輪の片輪)に駆動力が伝わります。

前後輪の片側が空転しているとき：

すべてのデファレンシャルロック(センターデファレンシャルロック、リアアクスルデファレンシャルロック、フロントアクスルデファレンシャルロック)をオンにします。空転していない他の2輪(前輪の片側と後輪の片側)に駆動力が伝わります。

デファレンシャルロックをオンにする：
車輪が空転していないときに、車輪を直進状態にしてから、デファレンシャルロックのスイッチを押します。

デファレンシャルロックが機械的に作動するとABSが解除されアラームが鳴り、メーターパネルの作動表示灯と(ABS) ABS警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイに " ABS キノウシマセン " と表示されます。

知　識

◇スイッチを押してから機械的に作動するまでは、若干の時間差があります。

デファレンシャルロックを解除する：
車輪を直進状態にしてから、デファレンシャルロックのスイッチを押します。スイッチの表示灯が消灯し、マルチファンクションディスプレイの表示が消えます。

デファレンシャルロックが機械的に解除されると、作動表示灯が消灯します。

知　識

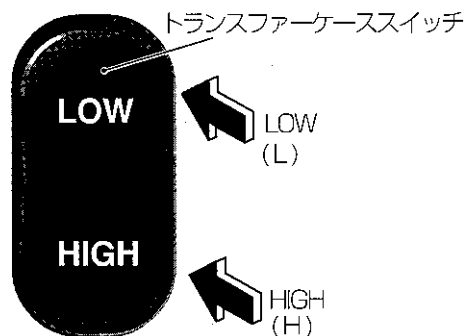
◇デファレンシャルロックは、ロックするときとは逆の順序で解除されます。
◇リアアクスルのデファレンシャルロックを解除すると、フロントアクスルデファレンシャルロックが自動的に解除されます。
◇センターデファレンシャルロックを解除すると、すべてのデファレンシャルロックが自動的に解除されます。
◇スイッチを押してから機械的に解除されるまでには、若干の時間差があります。

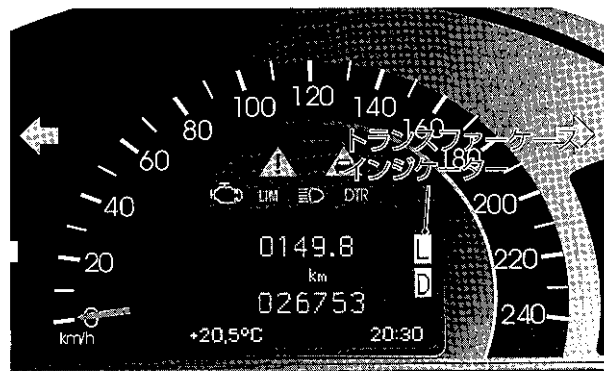
注　意！

◆デファレンシャルロックをオンにするときは、速度を歩く程度まで落としてください。
◆デファレンシャルロックをオンにするときは、必ず車輪が空転していないことを確認してください。車輪が空転しているときにオンにすると、車が思わぬ方向に飛び出すおそれがあります。
◆デファレンシャルロックは緊急時の脱出などに使用した後はただちに解除してください。駆動装置を損傷するおそれがありあます。
◆デファレンシャルロックを解除しても作動表示灯が消灯しないときは、ステアリングを大きく切らないでください。駆動装置を損傷するおそれがあります。
◆車を一軸シャシーダイナモ上で動かすときは、短時間であっても、駆動アクスル以外を持ち上げるか、プロペラシャフトを外してください。このとき、センターデファレンシャルロックを必ずオンにしてください。トランスファーケースを損傷するおそれがあります。

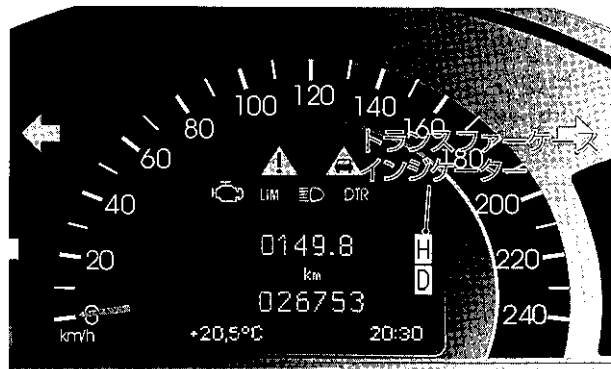
⚠警　告

●緊急時の脱出以外は、雪道や凍結路でデファレンシャルロックを使用しないでください。またデファレンシャルロックをオンにしたときは、急発進をしないでください。車の向きが急に変わり思わぬ事故につながるおそれがあります。
●デファレンシャルロックをオンにしたまま舗装道路や固い路面を走行しないでください。差動機構がロックされて左右前輪が等速で回転するので旋回時でも直進しようとする力が強く作用し、急激に直進状態に戻るときがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

トランスファーケース

急勾配の走行や渡河時、トレーラーをけん引するときなど、強い駆動力を必要とする場合は、トランスファーケースを"LOW"にします。

"LOW"(L)：
オフロード走行用で、"HIGH"(H)に比べて速度が約1/2になります。
"HIGH" (H)：
一般道路走行用です。

トランスファーケースの操作

"HIGH"(H)から"LOW"(L)にする：

1 車を停止してエンジンが回転しているとき、または、走行速度が約40km/h以下のときにセレクターレバーを **N** に入れます。
2 トランスファーケーススイッチの"LOW"を押します。シフトが完了すると、トランスファーケースインジケーターに(L)と表示されます。

"LOW"(L)から"HIGH"(H)にする：

1 車を停止してエンジンが回転しているとき、または走行速度が約70km/hの以下のときにセレクターレバーを **N** に入れます。

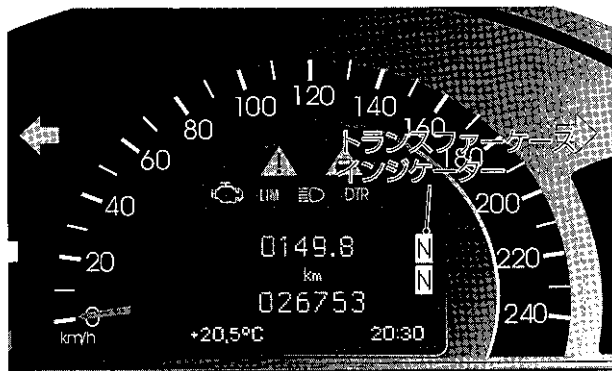
2 トランスファーケーススイッチの"HIGH"を押します。シフトが完了すると、トランスファーケースインジケーターに(H)が表示されます。

故障 / 警告メッセージについては100ページをご覧ください。

注　意！

◆マルチファンクションディスプレイに"TC シフト ジョウケン ミタシテイナイ"などと表示された場合は、シフトが行なわれていません。シフト操作をやり直してください。

◆マルチファンクションディスプレイに"TC ハ ニュートラル"と表示されたり、トランスファーケースインジケーターに(N)と表示された場合は、トランスファーケースがニュートラルになっています。シフト操作をやり直してください。

◆マルチファンクションディスプレイに"トランスファ ケース シュウリ ヒツヨウ"と表示された場合は、システムが故障しています。ただちに指定サービス工場で点検してください。

車をけん引するときは、駆動装置の損傷を避けるため、トランスファーケースをニュートラルにします。

ニュートラルにするとき：
1 エンジンを停止します。
2 駐車ブレーキを効かせます。
3 ブレーキペダルを踏みます。
4 エンジンスイッチを**2**の位置にします。
5 セレクターレバーを N に入れます。
6 トランスファーケーススイッチの"LOW"を4秒以上押します。トランスファーケースインジケーターに(N)と表示されます。

故障 / 警告メッセージについては100ページをご覧ください。

"LOW"または"HIGH"に戻すとき：
1 エンジンを停止します。
2 駐車ブレーキを効かせます。
3 ブレーキペダルを踏みます。
4 エンジンスイッチを**2**の位置にします。
5 セレクターレバーを N に入れます。
6 トランスファーケーススイッチの"LOW"または"HIGH"を4秒以上押します。トランスファーケースインジケーターに(L)または(H)が表示され、駆動アクスルが接続されます。

⚠警　告

●車を駐車するときは、トランスファーケースを(N)の位置にしないでください。オートマチックトランスミッションのセレクターレバーが P の位置でも駆動アクスルが固定されないため、車が動き出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

知　識

◇トランスファーケースが(N)にあり、駐車ブレーキが解除された状態で運転席を開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"TC ハ ニュートラル"と表示されます。

オフロードでの走行

自分の車の特性や操縦性を知ることにより、安全に目的地に到達することができます。悪路走行の前に練習走行をされることをお勧めします。
オフロードを走行する前に以下の文章をよくお読みください。

1 オフロード走行に入る前に、トランスファーケースを"LOW"にシフトしてください(162ページ)。
2 荷物は確実に収納または固定してください(65ページ)。
3 状況の把握できない地形や路面では、最大限に注意して走行してください。走行する前に、車から降りて危険がないことを確認してください。
4 低速でスムーズに走行し、常にホイールが地面に接していることを確認してください。
5 坂道はできるだけまっすぐに登り、まっすぐに降りてください。
6 登りはじめと終わりはなだらかな斜面を選んで走行してください。
7 下り坂では、走行中にエンジンを停止させたり、セレクターレバーを N に入れないでください。
8 やむを得ず渡河するときは、走行前にあらかじめ水深や地形を確認してください。
9 走行中に車をジャンプさせないでください。車体や駆動装置を損傷するおそれがあります。
10 高低差のある段差を乗り越える場合は、左右両輪で乗り越えてください。車体や駆動装置を損傷するおそれがあります。
11 岩、穴、木の切り株、溝など、大きな障害物を避けて走行してください。
12 ドアウインドウとスランディングルーフは常に閉じておいてください。
13 できるだけわだちの跡から外れないように走行してください。
14 ブレーキに泥汚れがないか点検してください。また砂や土埃などがブレーキに入り込んでないか確認してください。緊急時に十分なブレーキ力が得られないおそれがあります。
15 オフロードを走行するときは、クルーズコントロールを使用しないでください。
16 環境に配慮して走行し、自然破壊をしないでください。

オフロードを走行する前に

タイヤ：
溝の深さと空気圧を点検してください(247ページ)。損傷がないか点検し、小石などの異物が挟まっている場合は取り除いてください。バルブキャップが紛失している場合は、取り付けてください。

ホイール：
リムが歪んでいたりホイールに損傷がある場合は、走行前に交換してください。

車載工具：
ジャッキが正常に動くか点検してください。万一のためにホイールナットキー、けん引用ケーブル、折りたたみ式スコップを車に積んでおいてください。

上り坂の運転

◇土手や斜面では、まっすぐに走行してください。最大登坂能力は80%です。

◇急勾配に差しかかったときは、トランスファーケースを"LOW"位置にしてください(162ページ)。

◇必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください(158ページ)。

◇急斜面を走行しているときは、車を旋回させないでください。車が横転するおそれがあります。急勾配で登りきれない場合は、後退して降りてください。決して、セレクターレバーを**N**に入れて後退しないでください。

◇斜面を斜めに走行しないでください。車が横転するおそれがあります。斜面を斜めに走行する必要があり、万一横転しそうになった場合は、ただちに斜面の下り側へステアリングを切り、姿勢を立て直してください。

操作：

1 トランスファーケースを"LOW"位置にしてください。
2 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。
3 上り坂の勾配に合わせてオートマチックトランスミッションの変速範囲を選択してください。
4 エンジンを高回転までまわさないように走行してください。

山間地の運転

山間地では、ゆるやかにアクセルペダルを踏みホイールが駆動力を保っていることを確認してください。

操作：

1 トランスファーケースを"LOW"位置にしてください。
2 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。
3 上り坂の勾配に合わせてオートマチックトランスミッションの変速範囲を選択してください。
4 エンジンを高回転までまわさないようにして低速で走行してください。

頂上付近での運転

急な勾配を登り切る前にアクセルをゆるめ、車の惰性を利用して登ってください。
このように走行すれば、車が跳ねたりせず、駆動力を失うことがありません。これは下り坂での速度が上がりすぎるのを防止する効果もあります。

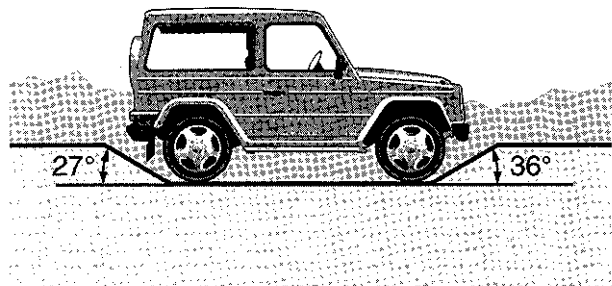
操作：

1 トランスファーケースを"LOW"にしてください。
2 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。
3 上り坂の勾配に合わせてオートマチックトランスミッションの変速範囲を選択してください。
4 エンジンを高回転までまわさないように走行してください。

下り坂の運転

◇フロントホイールが斜面に対してまっすぐ下り方向を向くようにして、低速で走行してください。斜面を斜めに走行すると、横滑りや横転、転覆のおそれがあります。
◇エンジンブレーキを効かせても減速できないないときは、注意深くブレーキペダルを踏んで速度を下げてください。横滑りや横転を防ぐため、車が下り坂をまっすぐ下っているときだけ、ブレーキペダルを踏んでください。
◇デファレンシャルロックをオンにすると、ＡＢＳが解除されます。これにより、一時的にフロントホイールがロックできるようになり、ぬかるみなどでのグリップが容易になります。
ただし、ホイールがロックするため、車の操縦性に影響をおよぼすおそれがあります。
◇すべりやすい急な下り勾配を走行するときは、エンジンブレーキを効果的に利用しながら車を横滑りさせないように注意深くブレーキペダルを踏み込んでください。
◇長い下り坂を走行した後は、必ずブレーキを点検してください。

操作：

1 トランスファーケースを"LOW"にしてください。
2 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。
3 ティップシフト位置を 1 にしてください。
4 エンジンを高回転までまわさないように走行してください。

渡河するときの運転

◇やむを得ず渡河するときは、走行前に水深と川底の状況を確認してください。

◇安全な場所でテスト走行をしてください。水深が50cm以上のところは絶対に走行しないでください。

◇歩く速度で、水深の浅い場所を選び、渡ります。水に入るときは速度を上げないでください。波が立ちエンジンや車体を損傷するおそれがあります。

◇川の流れに対して直角または下流方向へ横断してください。

◇水の中では、波が立たないようにゆっくりと一定の速度を保って走行してください。水の中を走行しているときは、シフト操作をしたり車やエンジンを停止させないでください。水の中は抵抗が大きいため、発進が困難になります。

◇渡河した後は、ブレーキの効きが悪くなります。ブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキパッドを乾かしてください。また、タイヤの溝を洗浄してください。

操作：

1 トランスファーケースを"LOW"にしてください。
2 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。
3 ティップシフト位置を **1** か **2** にしてください。
4 エンジンを高回転までまわさないように走行してください。

障害物を乗り越えるときの運転

◇大きな石、木の切り株、その他の障害物を乗り越えるときは、左右いずれか一方の前輪で障害物の中央を乗り越えてください。後輪も同様にしてください。障害物の端のほうを乗り越えると、横滑りするおそれがあります。

◇大きな障害物を乗り越えるときは、ごく低速で走行してください。

◇障害物により車の底部や車体、駆動部を損傷させないように注意してください。

操作：

1 トランスファーケースを"LOW"にしてください。
2 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。
3 ティップシフト位置を 1 にしてください。
4 エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。

砂上を走行するときの運転

◇やわらかい砂の上での走行は、スタック(立ち往生)しやすいため、特に注意して運転してください。

◇砂地では車が埋まらないよう、やや速度を上げて走行してください。

◇他の車が残した浅いわだちをなぞって走行すると、スタックや車の損傷を防ぐのに有効です。

操作：

1 トランスファーケースを"LOW"にしてください。
2 デファレンシャルロックをオンにしてください。
3 オフロードの状況に合わせてティップシフト位置を選択してください。
4 エンジンを高回転までまわさないようにして、やや速度を上げて走行してください。

わだちを走行するときの運転

◇他の車のタイヤ跡(わだち)が深い場合は、車の底部が地面に接触し、ホイールが地面から離れて走行不能になることがあります。

◇このような状況では、必ず車の地上クリアランスを確認してください。

◇できるだけ深いわだちを避け、左右どちらか一方の車輪をわだちの間に乗せて走行すれば、車の損傷を防ぐのに有効です。

操作：

1 トランスファーケースを"LOW"にしてください。

2 必要に応じてデファレンシャルロックをオンにしてください。

3 ティップシフト位置を 1 にしてください。

4 エンジンを高回転までまわさないようにして、ゆっくりと走行してください。

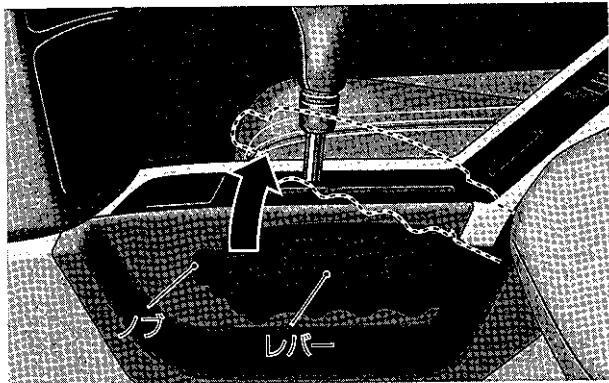
オフロード走行後の手入れ

オフロード走行後は、車を点検することをお勧めします。

手順：

1 トランスファーケースを"HIGH"にしてください。
2 ヘッドランプ/テールランプ、ライセンスランプを洗浄し、損傷がないか点検してください。
3 ホイール、ホイールハウス、ボディ底部、タイヤをジェット水流で洗浄し、タイヤに挟まった異物を取り除いてください。
4 植物や枝などが車体や駆動部に挟まっていないか点検してください。これらが挟まっていると火災の危険があるほか、燃料系、ブレーキホース、アクスルジョイントとプロペラシャフトのカバーなどを損傷するおそれがあります。
5 走行後は、車の底部、タイヤ、ボディ、ステアリング、駆動系、排気系などに損傷がないか点検してください。
6 ぬかるみ、砂の上、水の中を走行した後は、ブレーキディスク、ホイール、ブレーキパッド、アクスルジョイントを点検し、掃除してください。
7 オフロード走行後、強い振動を感じる場合は、ホイールの隙間などに異物がかみ込んでないか点検してください。

車の損傷は乗り心地を悪化させ、事故の原因になります。指定サービス工場で点検してください。

駐車ブレーキ

作動させるときはレバーを引きます。
解除するときはレバーを少し引き上げながら、ノブを押し込んで、レバーを下げます。

注　意！

◆駐車ブレーキは車が完全に停止してからレバーを引いてください。
◆急な坂道に駐車するときは、タイヤに輪止めをしてください。

⚠警　告

●駐車ブレーキを効かせたまま走行しないでください。ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

知　識

◇駐車ブレーキを解除せずに走行すると、警告アラームが鳴ります。

ブレーキ警告灯
エンジンスイッチが**2**の位置のとき点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)エンジン始動後に消灯します。
エンジン始動後、駐車ブレーキが効いているときは、点灯したままになります。
駐車ブレーキを解除しても消灯しないときや、走行中に点灯する場合は、ブレーキ液レベルが低下しています。またエンジン始動後や走行中にブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯し、警告アラームが5秒間鳴ったときはブレーキシステムが故障し、ブレーキの作動に変化が生じることがあります。速やかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

⚠警　告

●長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏みつづけたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキの効きが悪くなり停車できなくなるおそれがあります。

注　意！

◆ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを破損するおそれがあります。

◆ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗します。

◆故障などでエンジンを止めてけん引してもらうときは、十分注意してください。エンジンが停止しているときは、通常のときに比べてブレーキペダルを非常に強く踏まなくてはなりません。

◆洗車後や水たまり走行後、または激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行した後は、ブレーキの効きが遅れたり、いつもより強く踏まなければならないことがあります。このようなときは、いつもより長めに車間距離を取り、効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

◆必ず指定のブレーキパッドを使用してください。指定以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

※マルチファンクションディスプレイにブレーキオイル警告またはブレーキパッド摩耗警告が表示されたときは、故障 / 警告メッセージ(89ページ)をご覧ください。

ABS

ABS(アンチロックブレーキングシステム)は、急制動や滑りやすい路面でブレーキペダルを踏んだとき、車輪のロックを防止して車の姿勢を安定させるとともに、ステアリング操作による危険回避を行なうためのブレーキ制御システムです。

⚠警　告

●ABSを過信しないでください。ABSは急ブレーキ時の車両安定性や危険回避能力を高める装備で、決して無謀な運転から事故を防ぐものではありません。たとえABSが作動しても、車両安定性や操縦性には限界があります。

●砂利道、雪道などでは、ABSを装備していない車と比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにし、車間距離を十分取って運転してください。

ABS警告灯

エンジンスイッチが2の位置のとき点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)エンジン始動後に消灯します。消灯しなかったり、走行中に点灯したときは指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

知　識

◇デファレンシャルロックをオンにすると、ABSが解除され、警告灯が点灯します。

ABSの作動

ブレーキの操作は普通のブレーキと同じですが、以下のような特徴があります。

◇ABSが作動するとボディが軽く振動し、ブレーキペダルを通して脈動が伝わってきます。これはABSが正常に作動しているときの現象で異常ではありません。

◇エンジン始動後、ごく低速でブレーキペダルを踏むと、ペダルに脈動を感じることがあります。これはABSが自己診断を行なっているためで異常ではありません。

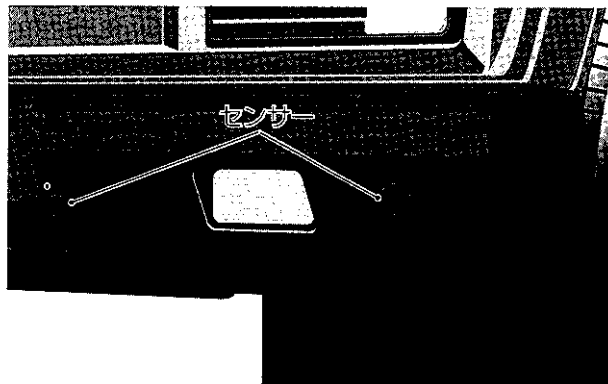
◇バッテリーの電圧が低下するとABS警告灯が点灯し、ABSが一時的に作動しなくなります。電圧が回復するとABS警告灯が消灯し、元に戻ります。

◇ABS警告灯が点灯したときはABSは作動しませんが、通常のブレーキブレーキの性能は保たれます。

注　意！

◆ごく軽くブレーキペダルを踏んだだけでもABSが作動するときは、路面が滑りやすくなっています。走行には十分注意してください。

◆エンジン始動後いったん速度が約8km/h以上に達するまでは作動しません。また、約3km/h以下の速度では作動しません。

パークトロニックシステム

パークトロニックシステムの作動：

パークトロニックシステムは、リアバンパーに4個装着された超音波センサーで車の後方周辺の障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、ランプとアラームで運転者に知らせる装置です。

エンジンスイッチが**2**の位置で、セレクターレバーの位置が**R**のときに作動します。

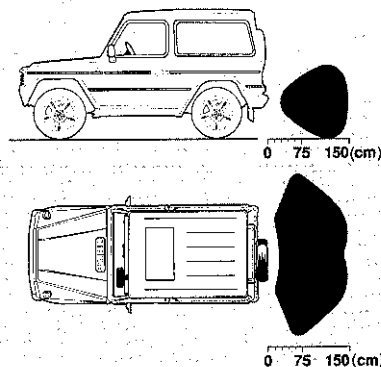
インジケーター：

インジケーターはテールゲートの上部にあります。パークトロニックシステムが作動すると、緑色のインジケーターが点灯します。

インジケーターは、緑色/黄色/赤色で表示され、バンパーのセンサーと障害物との距離を、点灯する色と数で表示します。

◇障害物がセンサー感知範囲(約150〜100cm)に入ると、黄色の表示が1個点灯しアラームが断続的に鳴ります。障害物との距離がさらに短くなると、黄色の表示が2個点灯します。
◇障害物がセンサーの最短感知距離に近づくと、赤色の表示が点灯します。さらに最短感知距離(約50cm)になると、上記の表示に加えて2個目の赤色の表示が点灯し、アラームが継続的に鳴ります。

注　意！

◆障害物がセンサーの最短感知距離以上に近づくと、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。
◆スペアタイヤカバーはリアバンパーより後ろに位置していため、パークトロニックシステムが知らせる距離よりも、実際の障害物との距離が短くなります。十分注意してください。

センサーの感知範囲：

リアバンパー：　センターで約150cm〜50cm
コーナーで約100cm〜50cm

注　意！

◆センサーは、約30cm以内にある障害物は感知できません。
◆センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付いた状態のときは正しく作動しないことがあります。センサーに傷や損傷を与えないよう注意して、定期的に掃除をしてください。センサーの掃除については252ページをご覧ください。

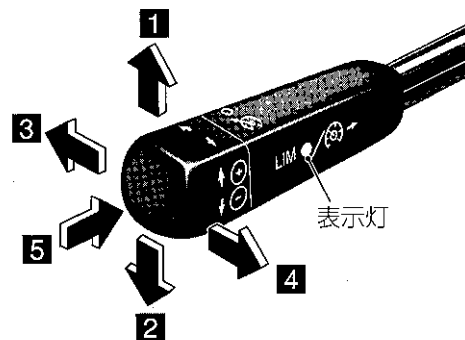
注　意！

◆パークトロニックシステムは運転者を支援するシステムです。駐車するときや狭い場所を走行するときに運転者に代わり安全を確保するものではありません。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず自分でも周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。
◆センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正しく機能しなくなり、車を損傷したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
◆針金やロープなど細いものや、植木鉢やトレーラーシャフトなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離(約30cm)内にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。
◆センサーは雪などの超音波を吸収しやすいものを感知しないことがあります。
◆電波を発するものが近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正しく機能しないことがあります。
◆大型車の排気ブレーキや工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正しく機能しないことがあります。
◆センサーに傷がついていたり、泥や雪、氷、雨、水しぶきなどで汚れていると、パークトロニックが正しく機能しないことがあります。このときはセンサーを洗浄し、作動を確認してください。
◆システムが故障しているときは、セレクターレバーをRの位置に入れても、低い音が鳴りつづけたり、インジケーターが点灯しなかったり、警告音が鳴らない状態になります。速やかに指定サービス工場で点検を受けてください。

クルーズコントロール

クルーズコントロールを使用すると、アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行することができます。

⚠警　告

●車の走行速度や先行車との車間距離などの安全確保については運転者に全責任があります。クルーズコントロールは、運転者の操作を補助する機能であり、決してわき見運転などの前方不注意や無謀な運転から事故を防ぐものではありません。
●曲がりくねった道、急な下り坂、急カーブ、交通量の多い道路など、一定の速度で安全に運転できない道路状況ではクルーズコントロールを使用しないでください。事故を起こすおそれがあります。
●濡れた路面、雪道、凍結路など、滑りやすい路面やオフロードではクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失うおそれがあります。

速度を設定するとき

1　クルーズコントロールを使用するときは、レバーの表示灯およびメーターパネルの可変スピードリミッター表示灯 LIM が消灯していることを確認してください。
2　希望の速度まで加速または減速します。
3　希望の速度に達したとき、レバーを**1**か**2**の方向に操作して手を放すと、定速走行を開始します。

クルーズコントロールを解除するとき
◇レバーを**3**の方向に押します。

次の操作をすると解除されます。
◇セレクターレバーを N に入れたとき
◇ブレーキペダルを踏んだとき

⚠警　告

●クルーズコントロールはセレクターレバーを N に入れても解除されますが、走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、思わぬ事故の原因になったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

一時的に加速するとき
アクセルペダルを踏みます。アクセルペダルから足を放すと、元の速度に戻ります。

設定速度を変えるとき
◇レバーを**1**の方向に押しつづけると加速します。希望の速度になったら手を放します。手を放したときの速度に設定されます。
◇レバーを**2**の方向に押しつづけると減速します。希望の速度になったら手を放します。手を放したときの速度に設定されます。

知　識

◇レバーを**1**か**2**の方向にごく短時間操作すると、約1km/h単位で速度の設定ができます。

解除前に設定していた速度に戻すとき
約35km/h以上の速度で走行しているときにレバーを**4**の方向に引くと、解除前に設定していた速度に戻せます。

⚠警　告

●**解除前に設定していた速度に戻したいときは、周囲が安全な状況にあることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速して事故を起こすおそれがあります。**

知　識

◇エンジンスイッチを一度**0**か**1**の位置にすると、メモリーに記憶された速度は消去され、その後はレバーを**4**の方向に引いても、解除前に設定していた速度に戻すことはできません。

注　意！

◆急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルで加速してください。

◆急な下り坂では、エンジンブレーキが働かずクルーズコントロールが速度を維持できないことがあります。このようなときは、ブレーキペダルを踏んで減速してください。

◆必ず指定された同銘柄の同一サイズのタイヤを装着してください。サイズの異なるタイヤを装着すると、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

◆マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロール警告が表示されたときは故障/警告メッセージ(98ページ)をご覧ください。

可変スピードリミッター

車の走行速度を制限する装置です。任意の速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでも、その設定速度以上の速度にはなりません。

通常設定

設定できる速度は30km/hから210km/hの間です。ただし、最高速度以上に設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

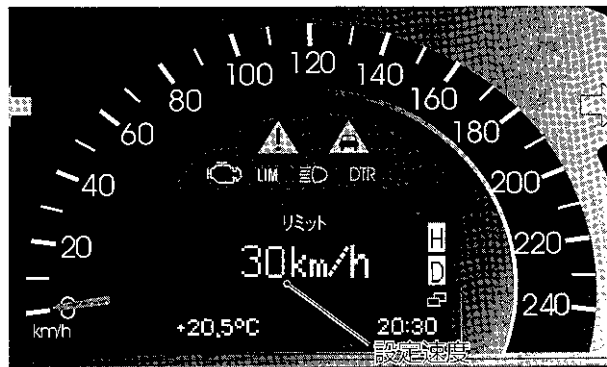
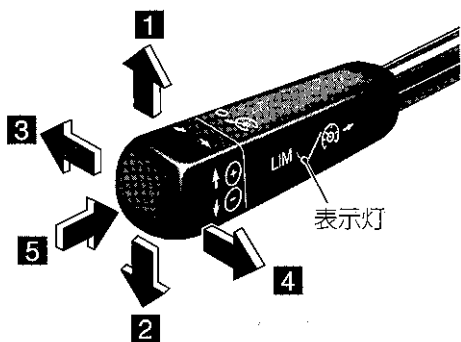
⚠警　告

- **可変スピードリミッターは速度を制限する装置ですが、走行時は法定速度を遵守してください。**
- **運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した速度を伝えてください。そして可変スピードリミッターを解除してください。可変スピードリミッターで制限速度が設定してあることを知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。**
- **可変スピードリミッターは設定速度以上に加速する必要のないときに使用してください。**

注　意！

◆可変スピードリミッターで設定した速度とスピードメーターの速度表示がわずかに異なることがあります。

◆急な下り坂などで惰性がつき、可変スピードリミッターが設定速度を維持できないときは、警告アラームが鳴り、メーターパネルの可変スピードリミッター表示灯 LIM が点滅し、マルチファンクションディスプレイに"ﾘﾐｯﾄ ｺｴﾏｼﾀ"という警告が表示されることがあります。このときはブレーキで減速してください。

◆マルチファンクションディスプレイに"ﾘﾐｯﾀ､ｸﾙｰｽﾞ､ｼｭｳﾘ ﾋﾂﾖｳ"と表示されたときは、故障/警告メッセージ(98ページ)をご覧ください。

制限速度を設定するとき

クルーズコントロールと同じレバーを使用します。レバーの表示灯およびメーターパネルの可変スピードリミッター表示灯 LIM が点灯しているときに設定することができます。表示灯が消灯しているときは、レバーを**5**の方向に押して、可変スピードリミッターに切り替えてください。

停車中と走行中では設定方法が異なります。

停車中(エンジン回転中)：

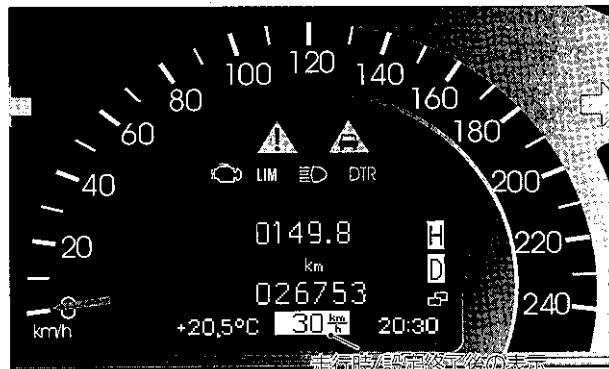
1 レバーを**4**の方向に引くと、メーターパネルのマルチファンクションディスプレイに“リミット、---km／h”と表示されます。すでに速度が設定されているときは、その速度が表示されます。

2 速度を設定します。
 ◇レバーを**1**の方向に操作すると、設定速度が10km/h単位で上がります
 ◇レバーを**2**の方向に操作すると、設定速度が10km/h単位で下がります
 ◇レバーを**4**の方向に操作すると、設定速度が1km/h単位で上がります

3 希望する速度になったらレバーから手を放します。

知　識

◇車をしばらく使用していなかったり、バッテリーの接続を外していたときなどは、ディスプレイが任意の速度を表示することがあります。この場合はレバーを操作し、速度を設定し直してください。

走行時/設定終了後の表示

走行中：

走行している速度によって操作後の設定速度が変わります。

例えば、約45km/hで走行しているとき

◇レバーを**1**の方向に上げると、速度が50km/hに設定されます

◇レバーを**2**の方向に下げると、速度が40km/hに設定されます

◇レバーを**4**の方向に引くと、すでに設定してある(メモリーが記憶している)速度に設定されます

以上のいずれかの操作をした後にレバーを**4**の方向に引くと、設定速度が1km/h単位で上がります。

注　意！

◆レバーで設定速度を下げるときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

可変スピードリミッターの解除

レバーを**3**の方向に押します。
解除するとメーターパネルの**LIM**が消灯します。

次の操作をしたときにも解除されます。
◇設定速度との速度差が約20km/h以内のときにキックダウンしたとき
◇クルーズコントロールに切り替えたとき
◇停車後、エンジンを停止したとき

注　意！

◆可変スピードリミッターを解除しても、設定速度はメモリーに記憶されています。レバーの表示灯が点灯しているときに、レバーを**4**の方向に引くと、この記憶速度が呼び出されます。
したがって、記憶速度が走行速度よりも低い場合に記憶速度を呼び出すと、車はアクセルペダルを踏んでいても減速します。

知　識

◇設定速度と実際の走行している速度の差が約20km/h以上のときは、キックダウンをしても設定速度は解除されません。

解除前の設定速度に再設定するとき

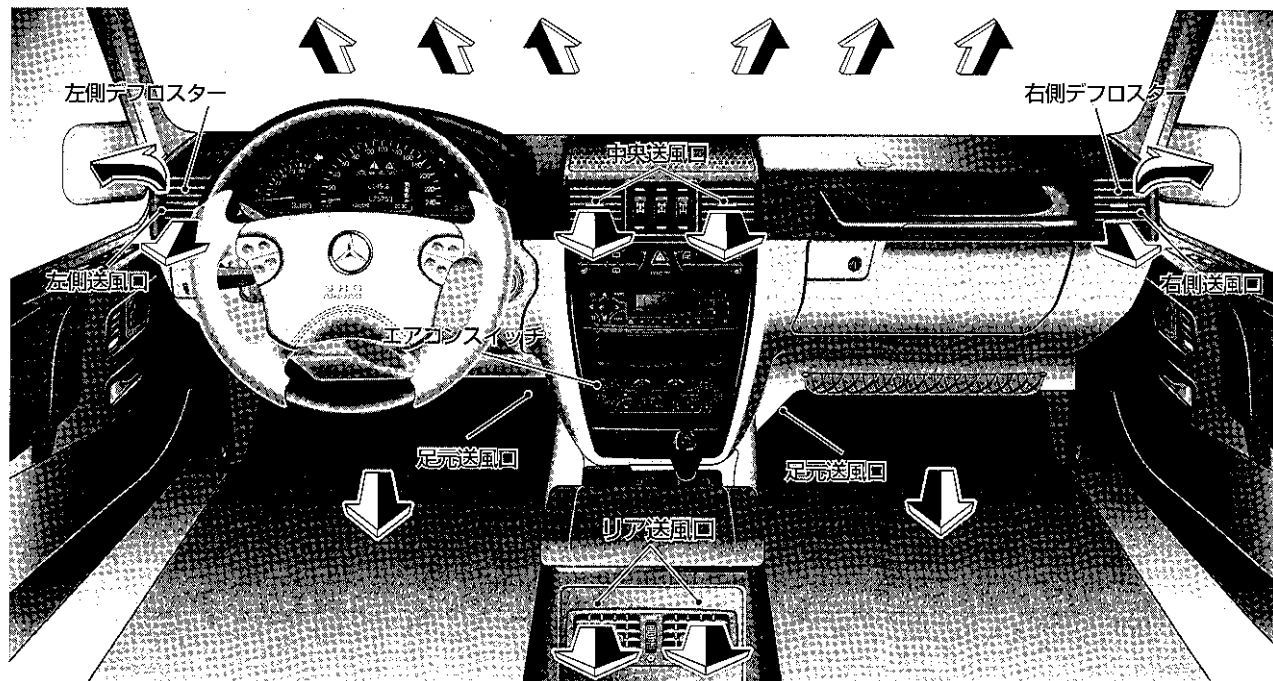
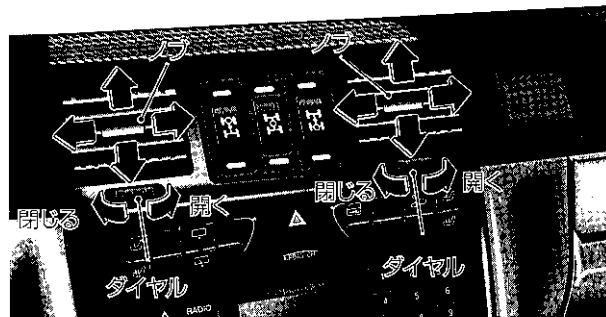
走行速度と設定速度の差が約30km/h以内のときは、レバーを**4**の方向に引くと、解除する前の速度に再設定されます。

知　識

◇走行速度が設定速度より約30km/h以上高いときに、レバーを**4**の方向に引くと、マルチファンクションディスプレイの設定速度表示が数回点滅し、可変スピードリミッターが解除されます。

室内、快適装備

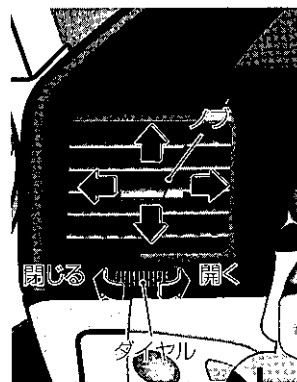
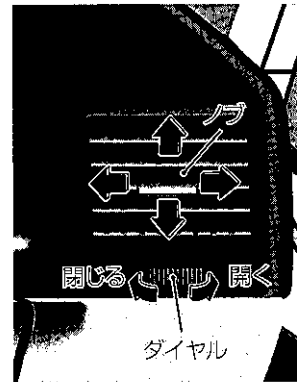
エアコンディショナーは、設定温度や外気温度などに応じて、送風量や送風口などを自動的にコントロールし、車内の温度と湿度を快適な状態に保ちます。エンジンが回転しているときに作動します。

送風口の位置

中央送風口

左側送風口

右側送風口

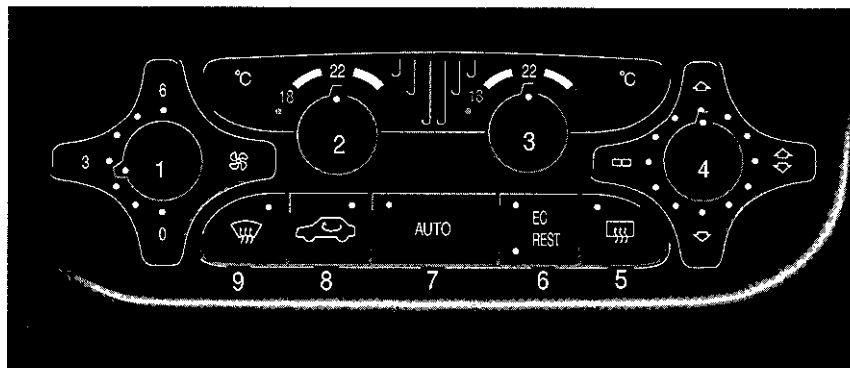
中央送風口の調節

開くとき　： ダイヤルを右にまわします。
閉じるとき： ダイヤルを左にまわします。
風向を変えるとき： ノブを上下左右に動かします。

右側 / 左側送風口の調節

開くとき　： ダイヤルを右にまわします。
閉じるとき： ダイヤルを左にまわします。
風向を変えるとき： ノブを上下左右に動かします。

知　識

◇ダイヤルは中間位置を選択することもできます。

スイッチの名称

1 風量ダイヤル ・・・・・・・・・・・・・・・191ページ
2 温度調整ダイヤル(左側) ・・・・・・190ページ
3 温度調整ダイヤル(右側) ・・・・・・190ページ
4 送風口切り替えダイヤル ・・・・・・190ページ
5 リアデフォガースイッチ ・・・・・・191ページ
6 エコノミースイッチ / 余熱ヒータースイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・193ページ
7 AUTOスイッチ ・・・・・・・・・・・・190ページ
8 内気循環スイッチ ・・・・・・・・・・・192ページ
9 デフロスタースイッチ ・・・・・・・191ページ

通常の使いかた

1 AUTOスイッチを押します。
送風口、風量が自動的に調整されます。
2 温度調整ダイヤルで温度を調整します。
3 作動を停止するときは風量ダイヤルを**0**の位置にまわします。

ガラスの曇りを取るとき

デフロスタースイッチを押します。
自動的にフロントウインドウとフロントドアウインドウに送風されウインドウ内側の曇りを取ります。
曇りが取れたら通常の状態にしてください。

知　識

◇強い太陽光で車内が熱くなっているときは、走行前にウインドウとスライディングルーフを開いて(58ページ)換気をしてください。
◇除湿された水分は、車体下方に排水されます。

クライメートコントロールの冷媒には、新冷媒R134aを使用しています。補充、交換の際には必ず新冷媒を入れてください。エアコンディショナーの冷媒は地球温暖化に悪影響をおよぼすため大気放出はしないでください。点検、補充、交換、廃棄は指定サービス工場で行なってください。

スイッチの使いかた

AUTOスイッチ

スイッチを押すとエアコンディショナーが作動し、送風口と風量が自動で調整され、車内温度を一定に保ちます。

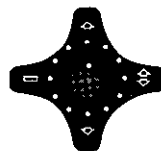
知　識

◇ウインドウやスライディングルーフが開いていると、設定温度を保つことはできません。

温度調整ダイヤル

温度を調整するときに使用します。
ダイヤルをまわして温度を設定します。
温度は運転席と助手席でそれぞれに設定できます。

知　識

◇温度を極端に変更しても希望温度に達するまでの時間は変わりません。

送風口切り替えダイヤル

好みの送風口を選択することができます。
ダイヤルをまわして送風口を切り替えます。

- ：上半身に送風したいとき
- ：上半身と足元に送風したいとき
- ：足元に送風したいとき
- ：中央と左右から送風したいとき

知　識

◇車外の湿度が高いときに冷房を入れると、フロントウインドウの外側が曇ることがあります。このときは以外を選択し、冷気がフロントウインドウに直接当たらないようにしてください。

風量ダイヤル
風量を7段階に切り替えることができます。

強くするとき：ダイヤルを時計回りにまわします。
弱くするとき：ダイヤルを反時計回りにまわします。

ダイヤルを**0**の位置にまわすと送風が止まります。

注　意！

◆送風を止めるとウインドウが曇りやすくなります。送風を長時間止めたままにしないでください。

デフロスタースイッチ
フロントとフロントドアのウインドウの曇りを取るときに使用します。

スイッチを押すと表示灯が点灯し作動します。
もう一度押すと作動が停止します。

リアデフォガースイッチ
リアウインドウの曇りを取るときに使用します。
エンジンスイッチが**2**の位置のときに使用できます。

スイッチを押すと表示灯が点灯し作動します。
もう一度押すと作動が停止します。

詳しくは145ページをご覧ください。

内気循環スイッチ

外気が汚れているトンネル内などで外気導入から内気循環に切り替えるときに使用します。

スイッチを押して内気循環(スイッチの表示灯が点灯)と外気導入(スイッチの表示灯が消灯)を切り替えます。

外気導入のときに、[内気循環スイッチ]を2秒以上押しつづけると、開いているドアウインドウとスライディングルーフが閉じます。

内気循環のときに、[内気循環スイッチ]を2秒以上押しつづけると、ドアウインドウとスライディングルーフが閉じる前の位置まで開きます。

注　意！

◆ウインドウとルーフを閉じるときは、乗員が顔や手を挟まれないように注意してください。閉じているときに挟まれそうになったときは、ウインドウまたはスライディングルーフのスイッチを押してください。閉じる作動が止まります。

内気循環は、一定の時間が経過すると、自動的に外気導入に切り替わります。

◇外気温度が5℃以上のときは約30分後

◇外気温度が5℃以下のときは約5分後

◇エコノミーモードにしているときは約5分後

[デフロスタースイッチ]または EC を押すと、自動的に外気導入になります。

知　識

◇内気循環にするとウインドウが曇りやすくなります。

◇外気温度が非常に高いときは、システムが自動的に内気循環に切り替わります(ただし、このときは表示灯が点灯しません)。そして約30分後には一定量の外気を導入しはじめます。

エコノミースイッチ

外気温度が低くて冷房の必要がなく、暖房だけが必要なときに使用します。

スイッチを押してエコノミーモード(スイッチの表示灯が点灯)にします。もう一度押すとエコノミーモードは解除されます。

注　意！

◆ボンネットの空気吸入口に氷や雪が積もっているときは、エアコンディショナーを使う前に取り除いてください。
◆冷媒が減っていると、エアコンディショナーは自動的に作動を停止します。このときは冷房や除湿ができなくなり、エコノミーモード EC の表示灯が点灯したままになります。指定サービス工場で点検を受けてください。

余熱ヒータースイッチ

エンジン停止中に車内を暖房したいときに使用します。

エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のとき、またはエンジンスイッチからキーが抜いてあるときに使用できます。

余熱ヒーターを使用するとき

スイッチを押します。表示灯が点灯します。
温度は温度調整ダイヤルをまわして調節します。
送風量と送風口の調節は自動的に行なわれます。

余熱ヒーターを止めるとき

再度スイッチを押します。表示灯が消灯します。

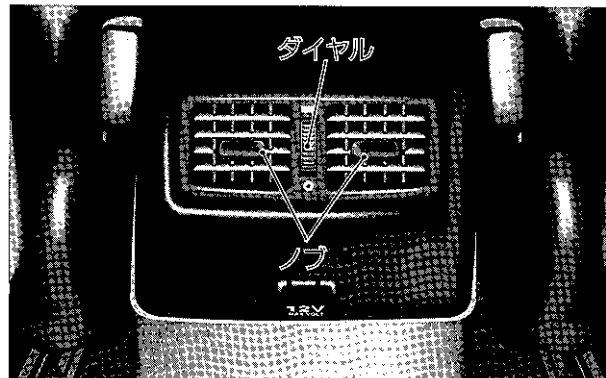
以下のときは、余熱ヒーターが自動的に止まります。
◇エンジンスイッチを**2**の位置にしたとき。
◇余熱ヒーターを入れてから約30分後。
◇バッテリーの電圧が低下したとき。

知　識

◇冷却水の温度が低いときは暖気の送風は行なわれません。

ダストフィルター

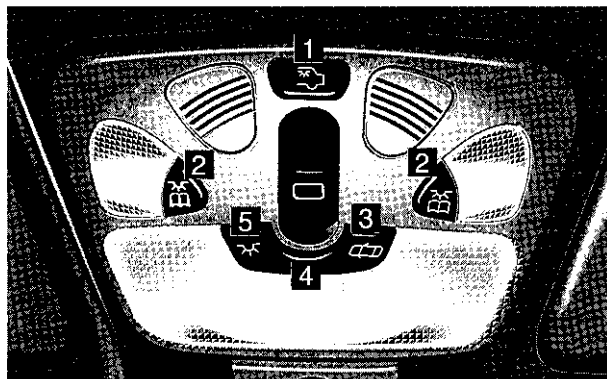
ダストフィルターは、花粉やチリ、胞子などを吸着して取り除きます。
ダストフィルターは定期的な交換が必要です。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

リア送風口＊

リア送風口の操作

送風口はダイヤルを上にまわすと開き、下にまわすと閉じます。
風向はノブを上下左右に動かして調節します。

知　識

◇コントロールパネルで、車内の温度を左右別々に設定できます。

＊仕様などにより装備が異なります

ルームランプ

ルームランプは、スイッチが中立の位置で、周囲が暗いとき、次の操作をすると点灯します。

◇エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し設定した遅延時間後に消灯します。遅延時間の設定は127ページをご覧ください。

◇ドアを解錠すると約30秒間点灯します。

◇フロントドアを開けるとフロントルームランプが点灯し、リアドア＊を開けるとリアルームランプが点灯します。テールゲートを開けるとラゲッジルームランプが点灯します。

- エンジンスイッチが**2**の位置のときはドアを閉じるとただちに消灯し、ドアを開けたままのときは約30分後に消灯します。
- エンジンスイッチが**1**の位置のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアを閉じてから数秒後に消灯します。
  フロントルームランプとリアルームランプはドアを開けたままでも約5分後に消灯します。
  ラゲッジルームランプはテールゲートを開けたままでも約10分後に消灯します。

ルームランプスイッチの**3**側を押しているときはフロントルームランプは点灯しません。

ルームランプスイッチの**5**側を押すとフロントルームランプが点灯します。

ラゲッジルームランプスイッチ**1**を押すと、ラゲッジルームランプが点灯 / 消灯します。

読書灯スイッチ**2**を押すと、読書灯が点灯 / 消灯します。

注　意！

◆車を施錠したときは、必ずルームランプが消灯することを確認してください。

知　識

◇スイッチが中立の位置**4**でも、周囲が明るいときはルームランプが点灯しないことがあります。

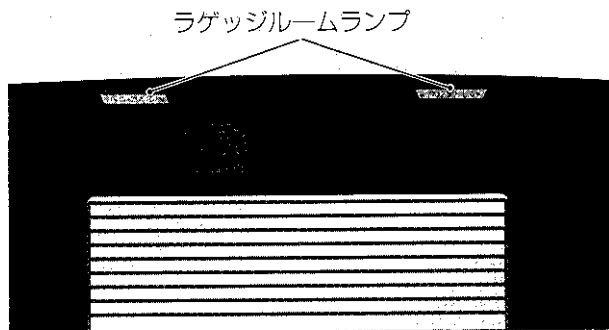
＊仕様などにより装備が異なります

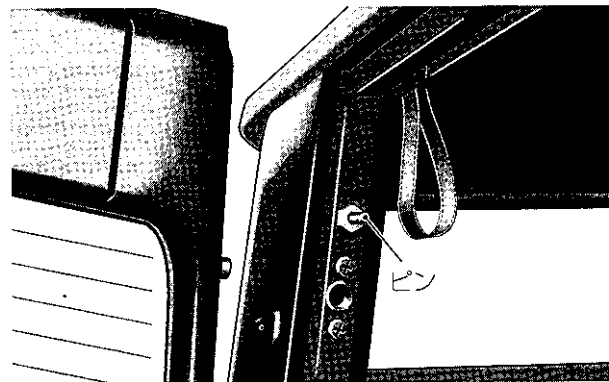
リアルームランプ

リアルームランプは、リアシートの上方左右にあります。

1 リアルームランプが点灯
2 リアルームランプが消灯
3 リアドアを開けると、リアルームランプが点灯します(G320を除く)。

注　意！

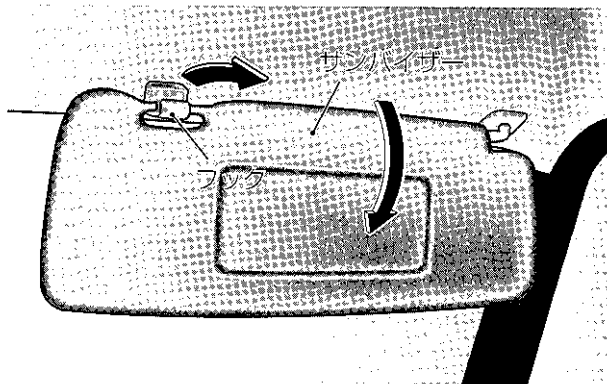
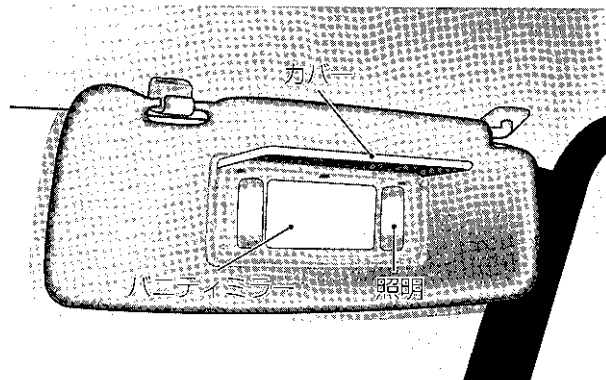
◆ランプを手動で点灯した場合は、自動的に消灯しません。バッテリー上がりのおそれがありますので、必ず消灯してください。

ラゲッジルームランプ
ルームランプのスイッチが中立の位置4のとき、テールゲートを開けると点灯します。

ラゲッジルームランプスイッチ1(195ページ)を押すと点灯/消灯します。

長時間テールゲートを開いたままにするときは、バッテリー上がりを防ぐためにラゲッジルームランプを消灯してください。

ラゲッジルームランプの消灯
ピンを引き出すと、ラゲッジルームランプは、リアルームランプから独立して消灯します。

知　識

◇ピンを引き出しラゲッジルームランプを消灯させたままテールゲートを閉じても、次に開けたときは点灯します。

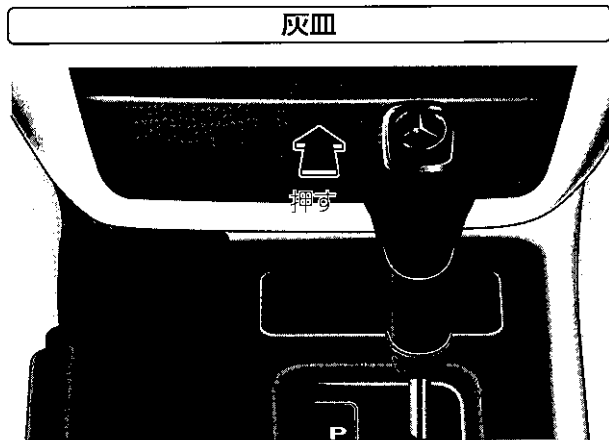
サンバイザー

直射日光などが眩しいときに使用します。
横からの光が眩しいときは、サンバイザーをフックから外して横にまわすことができます。

バニティミラー
カバーを開いて使用します。カバーを開くと照明が点灯します。

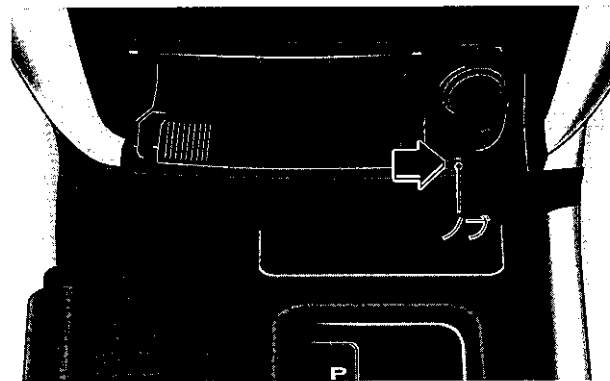
⚠警　告

●**眩惑を防ぐため、走行中はカバーを閉じてください。**

知　識

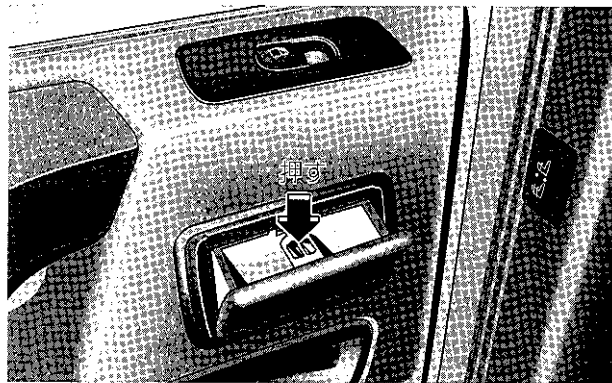
◇サンバイザーをフックから外すと照明は点灯しません。

灰皿

センターコンソールと左右リアドア＊にあります。

センターコンソールの灰皿
カバーの上部を軽く押すと開きます。
閉じるときはカバーを前方に押します。

ノブを矢印の方向にスライドし取り外します。灰皿が持ち上がり、取り外すことができます。
取り付けるときは灰皿を押し込みます。

⚠警　告

●灰皿を取り外すときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキを確実に効かせてください。車が動き出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

＊仕様などにより装備が異なります

リアドアの灰皿＊

開くとき　：灰皿の上部を手前に引きます。

閉じるとき：灰皿を押し込みます。

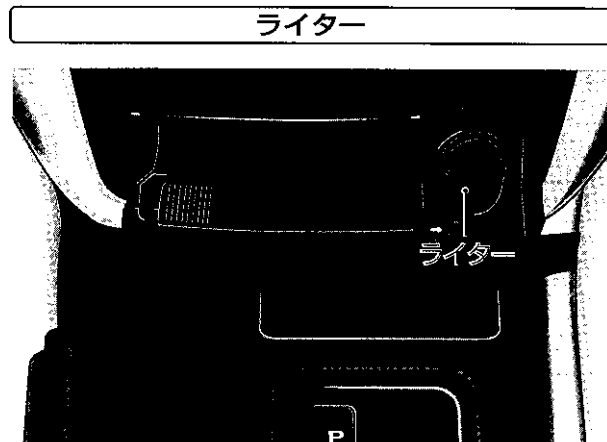
取り外すとき　：灰皿をいっぱいに開き、矢印の位置を押しながら手前に引き出します。

取り付けるとき：灰皿底部を所定の位置に合わせ、矢印の位置を押しながらはめ込みます。

注　意！

◆吸いがらやマッチなどを灰皿に捨てるときは、完全に火を消してください。

◆灰皿の中に紙などの燃えやすいものを捨てないでください。火災が発生するおそれがあります。

＊仕様などにより装備が異なります

ライター

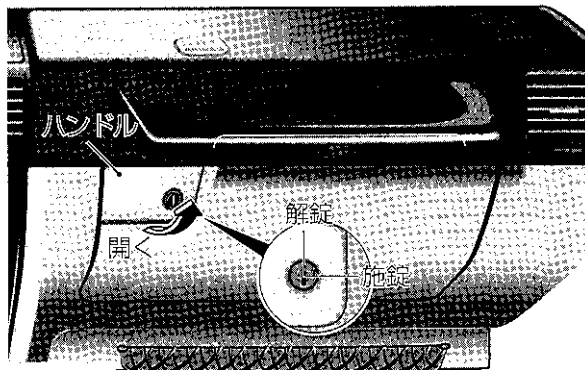
フロントセンターコンソールにあります。
エンジンスイッチが1か2の位置にあるときに使用できます。
使用するときはカバーの上部を軽く押し、ライターを押し込んで元の位置に戻るのを待ち、抜いて使用します。
使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻してください。
使用後はカバーを前方に押して閉じます。

⚠警　告

●ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

注　意！

◆エンジンスイッチが1か2の位置のときは、子供がライターに手を触れないよう注意してください。
◆ライターを押し込んだ後、押さえつづけないでください。ライターを損傷するおそれがあります。
◆赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。
◆ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターが戻らなかったり、飛び出したりするおそれがあります。
◆ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチからキーを抜いて、指定サービス工場に連絡してください。

グローブボックス

エマージェンシーキーで施錠することができます。

開くとき　： ハンドルを矢印の方向に引きます。
閉じるとき： カバーを押して閉じます。

施錠するとき： エマージェンシーキーを差し込み、水平の位置にしてキーを抜きます。
解錠するとき： エマージェンシーキーを差し込み、垂直の位置にしてキーを抜きます。

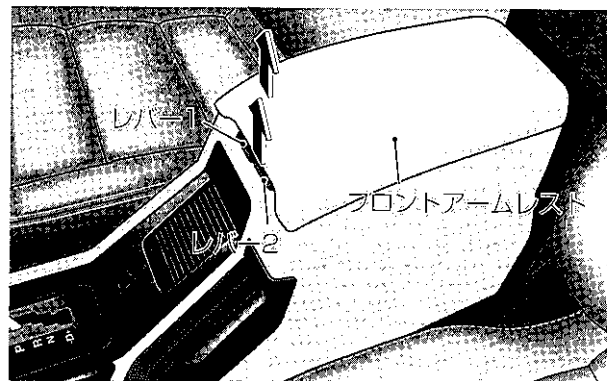
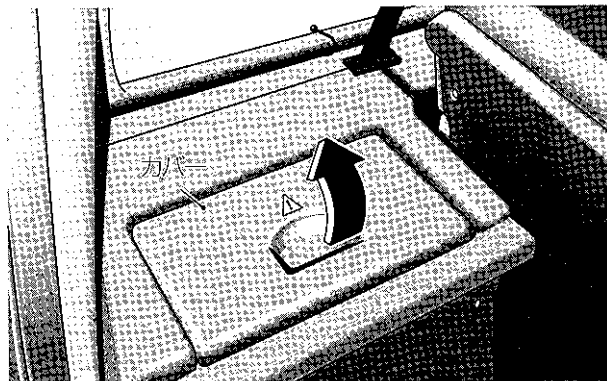
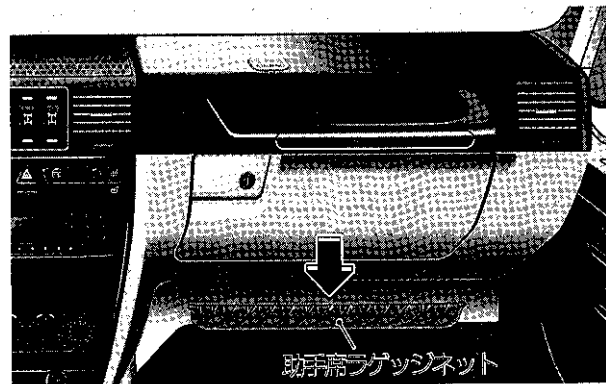
注　意！

◆走行中は、必ずグローブボックスのカバーを閉じてください。万一のとき、乗員がグローブボックスのカバーにぶつかったり、内部の収納物が放り出されるおそれがあります。

知　識

◇グローブボックスは、エマージェンシーキー以外のキーで解錠することはできません。駐車場などでキーを預けるときにグローブボックスを開けられたくない場合は、エマージェンシーキーでグローブボックスを施錠し、メインキーだけを預けてください。エマージェンシーキーはご自分で携帯してください。

小物入れ

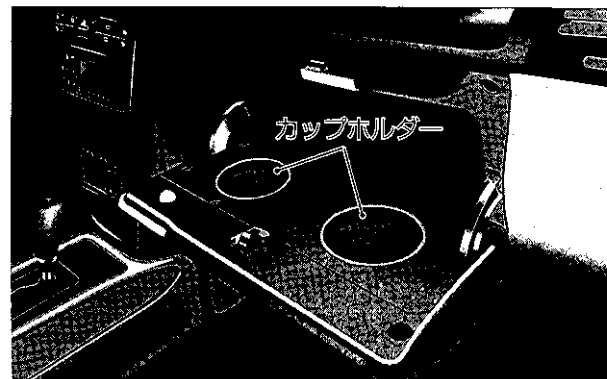
センターコンソールの小物入れ
使用するときは、カバーを後方に引きます。
カップホルダーとして使用することもできます。

フロントアームレストの小物入れ
レバー**1**を引くと上段の小物入れが開きます。
レバー**2**を引くと下段の小物入れが開きます。

ラゲッジルームの小物入れ＊
使用するときはカバーを開きます。

グローブボックス下部のラゲッジネット
新聞や雑誌などを収納することができます。

注　意！

◆軽い荷物を収納するときに使用してください。
◆ネットには固いものや角のあるもの、割れものなどを入れないでください。

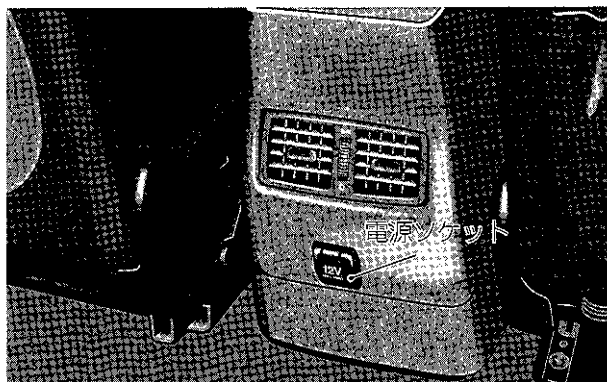
＊仕様などにより装備が異なります

カップホルダー

センターコンソールのカップホルダー
センターコンソールの小物入れを使用します。
使用するときはカバーを開きます。

グローブボックスのカップホルダー
グローブボックスのカバーの裏側にあります。

注　意！

◆火傷防止のため、熱い飲みものを置かないでください。
◆カップホルダーのサイズに合ったカップを置いてください。
◆走行中はカップホルダーを使用しないでください。

電源ソケット

リアのセンターコンソールにあります。電気製品などの電源として使用します。
使用するときはカバーを上方に開きます。

注　意！

◆必ずDC12V、最大消費電流15A(最大消費電力180W以下)の規格に合った電気製品を使用してください。規格外の電気製品を使用するとヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。
◆指などを入れないでください。感電するおそれがあります。
◆エンジンが回転していないときは長時間使用しないでください。バッテリーが上がるおそれがあります。
◆電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になることがあります。

万一のとき

事故が起きたとき

あわてずに以下の処置をとってください。

1 続発事故を防いでください。他の交通の妨げにならないような安全な場所に車を移動し、エンジンを停止してください。
2 負傷者がいる場合は、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、負傷者が頭部に傷を負っている場合は、負傷者を動かさないでください。続発事故のおそれがあるときは安全な場所に移動してください。
3 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
4 相手側の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
5 お買い上げの販売店と保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

車を安全な場所に停車し、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが義務付けられています。追突の危険があるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

路上で動けなくなったとき

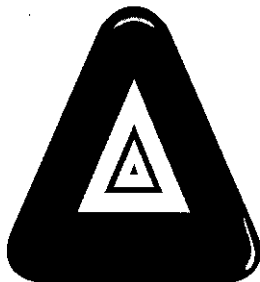
セレクターレバーを**N**の位置に入れ、同乗者や付近の人に応援を求めて安全な場所まで押してもらってください。

踏切内で動けなくなったとき

セレクターレバーを**N**の位置に入れ、同乗者や付近の人に応援を求めて安全な場所まで押してもらってください。動かせないときは速やかに乗員を避難させ、踏切の非常ボタンを押して列車に知らせてください。

注　意！

◆燃料が漏れているような場合は、火災を防ぐためにすぐにエンジンを停止し、車に火気を近づけないように注意してください。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。
スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅します。スイッチのランプも同時に点滅します。
解除するときは再度スイッチを押します。

注　意！

◆非常時以外は使用しないでください。
◆エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーが上がるおそれがあります。

知　識

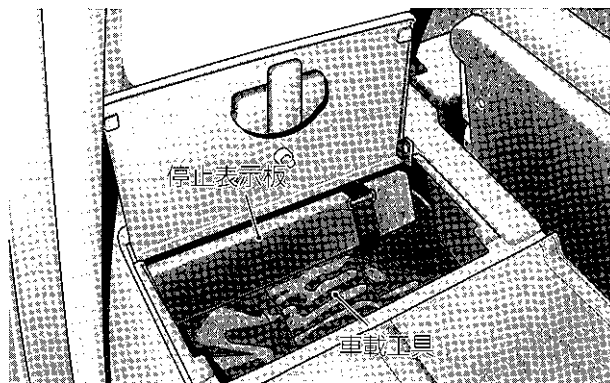
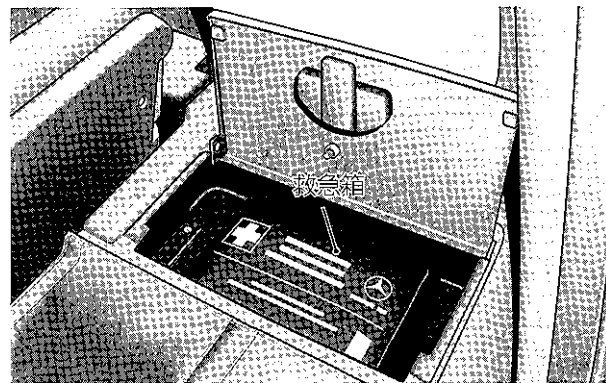
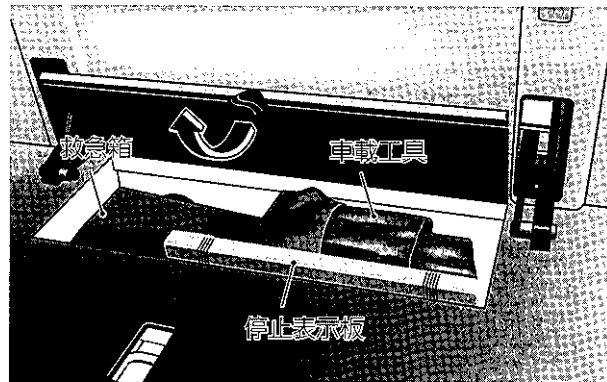
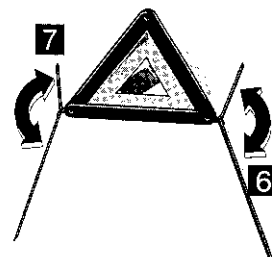
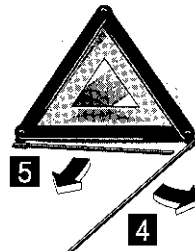
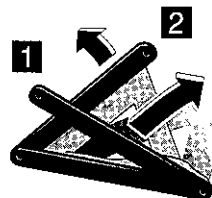
◇非常点滅灯を使用しているときに方向指示レバーを左折または右折方向に操作すると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示レバーを戻すと、再び非常点滅灯に切り替わります。

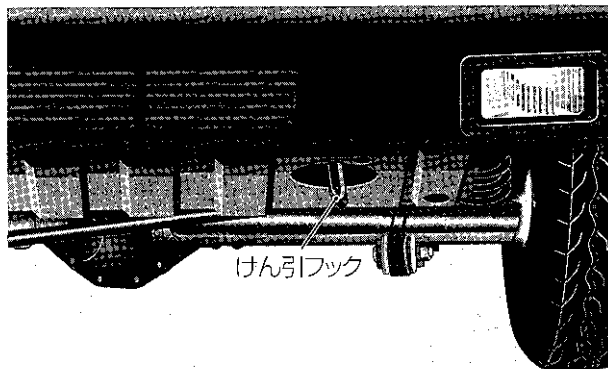
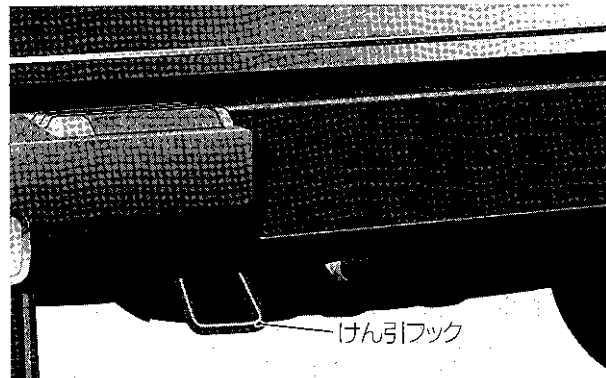
非常信号用具

非常信号用具として懐中電灯がドアポケットに収納されています。

知　識

◇新車時は電池の放電を防止するため、電池の間に紙が入っています。使用するときは紙を取り外してください。長い間使用しないときは電池を外しておくか、紙を挟んでください。
◇懐中電灯は定期的に点検し、点灯することを確認してください。

停止表示板 / 車載工具 / 救急箱

G320：
停止表示板と車載工具は、ラゲッジルーム左側の小物入れ内に収納されています。

救急箱は、ラゲッジルーム右側の小物入れに収納されています。

G320L / G500L / G55L AMG：
停止表示板、車載工具、救急箱は、左側リアシート下の工具入れに収納されています。
リアシートの折りたたみかたについては30ページをご覧ください。

停止表示板の組み立てかた：
使用するときは、図の順序で組み立てます。

けん引してもらうとき

フロントけん引フック

リアけん引フック

けん引フックは前後バンパーの左下にあります。

けん引されるとき

1 ロープをけん引フックにかけます。
2 車間距離が5m以内になるようにロープを結びます。
3 ロープの中央に白い布(30cm四方以上)を付けます。
4 セレクターレバーを N に入れます。

⚠警　告

●けん引は専門業者に依頼してください。やむを得ずけん引しなければならないときは、支障がない限りけん引される車のエンジンを停止しないでください。エンジンが停止していると、通常のときに比べて大きな操作が必要です。

エンジン / トランスミッション / 電気系統が故障しているとき

トランスミッションの位置を N およびトランスファーケースの位置を(N)にしてください。

トランスファーケースが故障しているとき

前後のアクスルからプロペラシャフトを外してください。

フロントアクスルが損傷しているとき

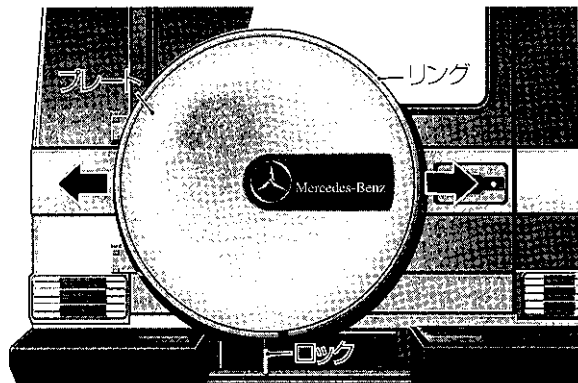
フロントアクスルを持ち上げ、リアアクスルとトランスファーケース間のプロペラシャフトを外してください。

リアアクスルが損傷しているとき

リアアクスルを持ち上げ、必ずフロントアクスルにホイールローラーを取り付けてけん引してください。フロントアクスルの直進性が失われます。

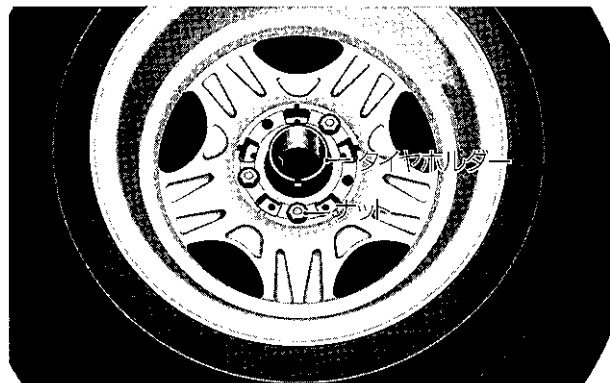
注　意！

◆ステアリングが操作できないときは、けん引しないでください。
◆長い坂道、急な坂道を下るときは、陸送用トレーラーなどを使用してください。
◆けん引するときの法定速度は30km/h以下です。
◆けん引距離は50km以内にしてください。けん引距離が50kmを超えるときは、陸送用トレーラーなどを使用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
◆けん引フック以外のところにロープをかけないでください。車を損傷するおそれがあります。また、けん引フックはけん引にのみ使用してください。
◆自車より重い車のけん引や、けん引フックに大きな衝撃が加わるようなけん引をしないでください。取り付け部が変形、損傷するおそれがあります。
◆けん引ロープをたるませないように、前の車のブレーキランプに注意してください。
◆車速感応ドアロックを設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを0の位置にしてください。ホイールが回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
◆プロペラシャフトを外すときは、M10のナットをスペーサーとしてボルトに取り付け、このナットをM8のナットで締め付けます。
◆再びプロペラシャフトを接続するときは、新しいセルフロックナットを使用してください。
◆駆動輪が柔らかい地面やぬかるみの中に埋まって動かなくなった車両を引き出すときは、慎重に行なってください。積載物があるときは特に注意してください。
◆車を急激に引き出したり、斜めに引き出さないでください。車体を損傷するおそれがあります。また、トレーラーをけん引している場合は、絶対にトレーラーを接続したまま車両を引き出さないでください。この場合は後部トレーラーカップリングで引っ張り、できるだけ走行してきた轍に添って後方へ引き出してください。

スペアタイヤ

スペアタイヤを取り外すとき：

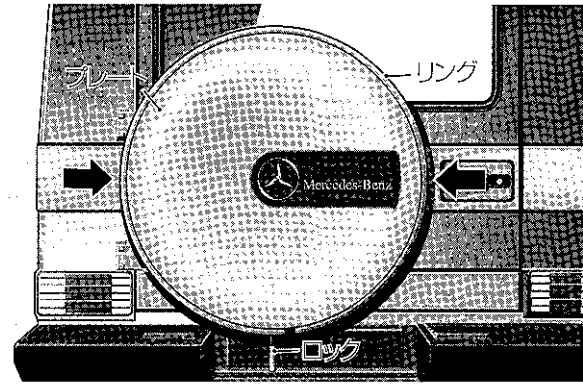
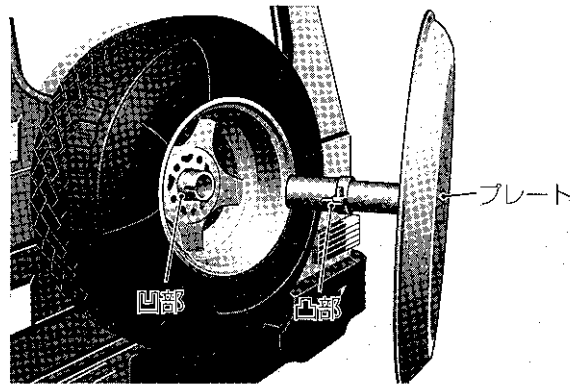
1 専用のホイールナットキーでスペアタイヤカバーのロックを外します。
2 リングを矢印の方向に広げて外します。
3 プレートを手前に引いて外します。
4 スペアタイヤを固定しているナット(3本)をゆるめ、タイヤホルダーからスペアタイヤを外します。

注　意！

◆スペアタイヤカバーを外すときは、必ず手袋などを着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

知　識

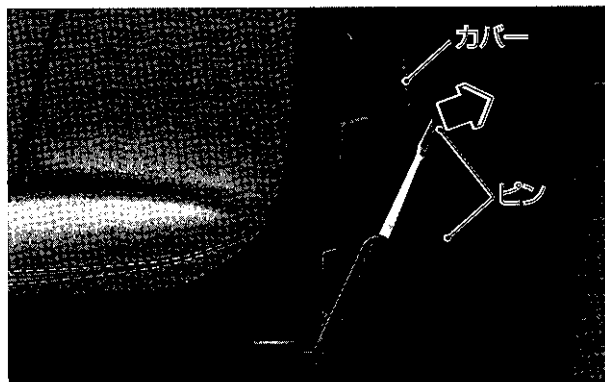
◇ホイールナットキーは車内の安全で取り出しやすい場所に保管してください。

タイヤを収納するとき：

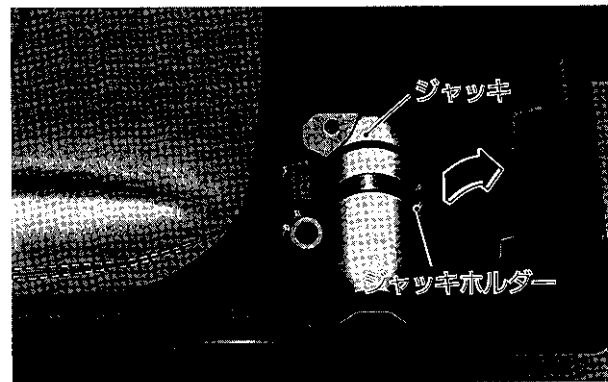
1 タイヤをタイヤホルダーにかけ、ナットをねじ込んで固定します。

2 プレートの凸部をタイヤホルダーの凹部に合わせ、プレートを取り付けます。
3 リングのロックを下に向けて、リングをプレートに被さるように取り付けます。
4 ホイールナットキーを押し込みながらまわし、リングをロックします。

注 意！

◆スペアタイヤの溝が摩耗限度になったら、ただちに新品と交換してください。
◆スペアタイヤが製造から6年以上経過している場合は、パンクなどの応急用として使用してください。
◆安全上の理由から、スペアタイヤが確実に固定されているかどうか定期的に点検してください。スペアタイヤは必ずタイヤホルダーに取り付け、タイヤカバーをかけてください。
◆スペアタイヤカバーのリングを取り付けるときは、必ずリングがプレートに被さっていることを確認してください。プレートが脱落するおそれがあります。
◆ホイールナットキーを紛失しないように注意してください。

ジャッキ

ジャッキは助手席の下に収納されています。

ジャッキを取り外すとき

1 マイナスドライバーなどで、カバーを止めるピンの凸部を取り外します。
2 ピンの凹部を抜き取り、カバーを外します。
3 ジャッキホルダーからジャッキを取り外します。

ジャッキを収納するとき

1 図のようにジャッキをジャッキホルダーに取り付けてから、カバーを被せます。
2 カバーにピンの凹部を取り付けてから、凸部をはめ込みます。

タイヤ交換

タイヤ交換は、必ず十分に安全を確保できる、地面が固く水平な場所で行なってください。

⚠警　告

●パンクしたときは、あわてててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。

●パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失うおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱し、火災が発生するおそれがあります。

●路上でタイヤ交換をするときは、車の後方に十分注意しながら停止表示板を置き、非常点滅灯を点滅させてください。

注　意！

◆ジャッキアップする前に人や荷物を車から降ろしてください。

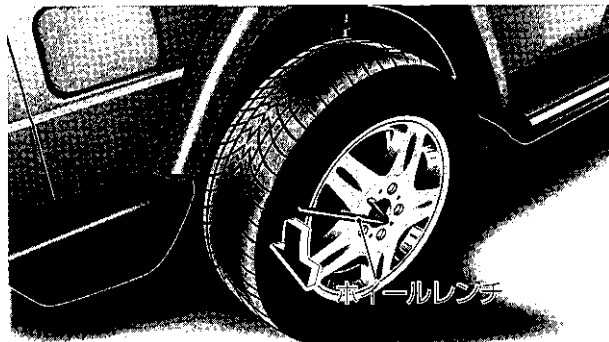
◆車速感応ドアロックを設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを0の位置にしてください。ホイールが回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

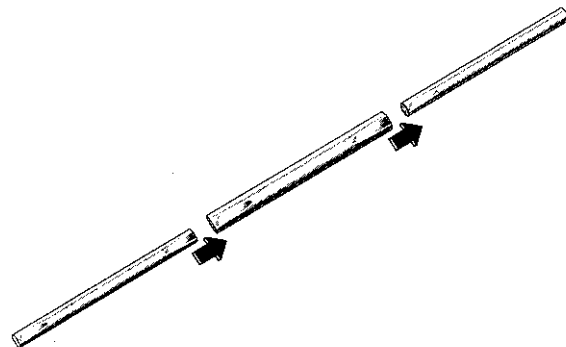
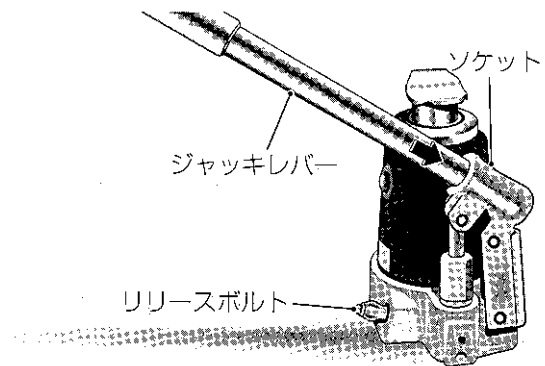
1 駐車ブレーキをかけます。
ジャッキアップしている間は、必ず駐車ブレーキをかけておきます。

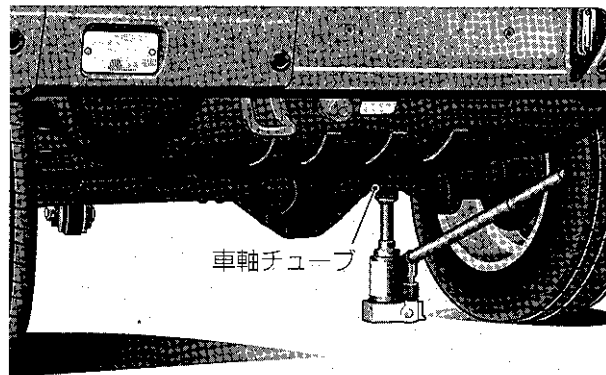
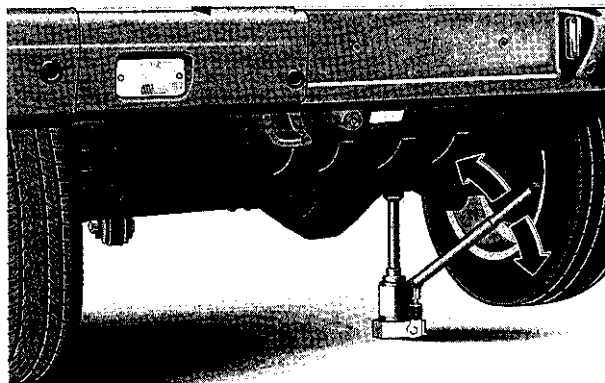
2 シフトレバーを P にします。

3 輪止めなどを利用して、車が動き出さないように固定します。対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両方のタイヤの下り側に輪止めをします。

知　識

◇輪止めは車に装備されていません。純正のタイヤストッパーか、適当な大きさの木片か石を上記の手順に従って必ず使用してください。

4 車載工具のホイールレンチを使用してホイールボルトを1回転ほどゆるめます。

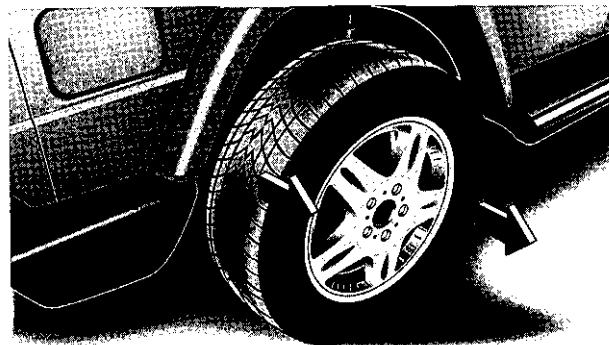
> **注　意！**
> ◆まだホイールボルトを外さないでください。

5 車載工具から3分割のジャッキレバーを取り出し1本に組み立てます。

6 助手席下からジャッキを取り出し(217ページ)、図のようにジャッキレバーをソケットの奥まで差し込み、右にまわして固定します。

7 ジャッキレバーを上下に動かし、ジャッキレバーが上昇するか確認してください。
もし上昇しない場合は、ジャッキレバーをリリースボルトに差し込み、時計回り(右)にまわしてから、再度、ジャッキレバーをソケットに差し込み、上昇するか確認してください。

8 ジャッキを車軸チューブの下に置きます。

9 ジャッキレバーを上下に動かし、タイヤが地面から離れるまでジャッキアップします。

⚠警　告

●車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に入ったり、手や足を入れないでください。ジャッキが外れると、挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。車載のジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使ってください。

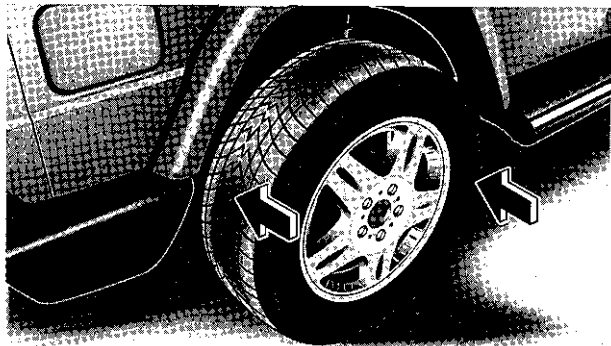
注　意！

◆車を持ち上げているときは、エンジンを始動したり、駐車ブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。

10 ホイールボルトを取り外して、タイヤを取り外します。

注　意！

◆ホイールボルトに泥や砂を付けないように注意してください。

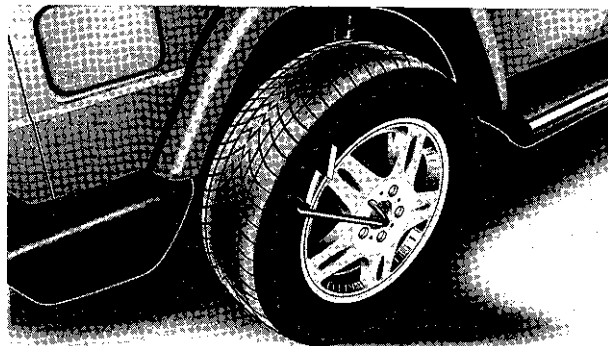
◆タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。

◆ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

11 スペアタイヤをホイールハブに挿入しホイールボルトを差し込み、ホイールの位置決めを行ないます。

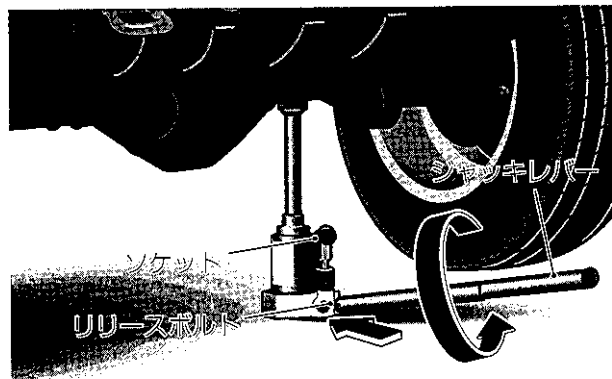
注　意！

◆ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。

◆ホイールハブが損傷しているときは、決して走行せず、ただちに指定サービス工場に連絡してください。

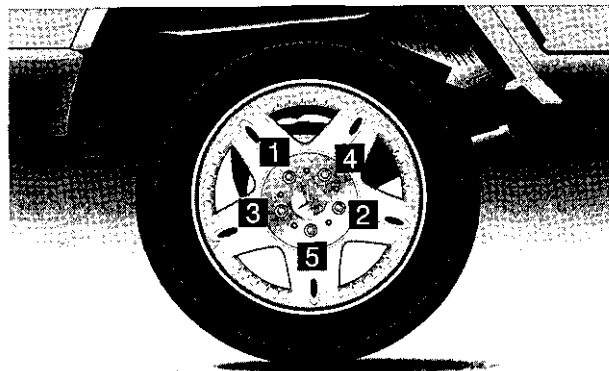
◆ホイール裏面とホイールハブの表面を掃除してください。

12 すべてのホイールボルトを差し込み、軽く締め付けます。

注　意！

◆ホイールボルトのネジ山には、決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

13 ジャッキレバーをソケットから外して、リリースボルトに取り付けます。

14 ジャッキレバーを反時計回りにゆっくりまわして車を下げ、ジャッキを外します。

注　意！

◆リリースボルトは、車を下げるときに、1～2回転だけ緩めてください。緩めすぎると内部から液が漏れるおそれがあります。

15 ホイールボルトを図の順序で何度かにわけて締め付けます。

ホイールボルト締め付けトルク：

- 13kg-m(130Nm)

タイヤ交換後はただちに指定サービス工場などで締め付けトルクを確認してください。

16 タイヤの空気圧を点検します。

17 外したタイヤ、ジャッキ、工具を収納します。

注　意！

◆ホイールレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。ホイールボルトなどを損傷するおそれがあります。

⚠警　告

●ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故につながるおそれがあります。
●タイヤの空気圧が低いままで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂するおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
●タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。
●どんな場合でも、タイヤの速度許容範囲を超えるような速度を出さないでください。許容範囲を超えた速度で走ると、タイヤがパンクして事故につながるおそれがあります。

注　意！

◆タイヤの空気圧を点検するときは、スペアタイヤの空気圧も点検してください。
◆タイヤに空気を入れてもすぐに空気圧が低下するようなときは、タイヤのパンク、ホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどを点検してください。
◆ジャッキ、工具などを使用した後は、必ず元の位置に収納してください。

知　識

◇タイヤが温まっているとき空気圧は、規定より約0.3kg/cm²ほど高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに調整してください。規定の空気圧は「燃料給油フラップの裏側」または整備手帳の別紙「点検整備項目」に記載されています。

オーバーヒートしたときは、以下のような症状があらわれます：

◇ボンネットから蒸気が出ている。
◇マルチファンクションディスプレイに“ﾚｲｷｬｸｽｲ ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼﾃｸﾀﾞｻｲ”と故障 / 警告メッセージが表示されたとき。

⚠警　告

●エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときはただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。エンジンルームの中に漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。
●水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

注　意！

◆オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。
◆オーバーヒートしたときは必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください：

1 ただちに安全な場所に車を停車します。
2 エンジンをアイドリング状態で冷却します。
エンジンファンが停止しているとき、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。
3 エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、エンジンファンなどを点検します。
4 冷却水が不足していたら補給します(241ページ)。

バッテリー

バッテリーはリアシート中央部のフロア下にあります。

※マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、故障 / 警告メッセージ(99ページ)をご覧ください。

⚠警　告

●バッテリーの液量が"MIN"マーク以下の状態で使用しないでください。バッテリー液が少ないとバッテリーの劣化が促進され、寿命が縮まったり、爆発する原因となります。ただちにバッテリー液を補充してください。

●バッテリーを接続するときは、決してバッテリーをのぞき込まないでください。爆発してけがをするおそれがあります。

●絶対に⊕と⊖を間違えて接続したり、⊕と⊖の端子を接触させないでください。爆発してけがをするおそれがあります。

●たばこなどの火気を近づけないでください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているため、爆発してけがをするおそれがあります。

●バッテリー液に触れないでください。バッテリー液は希硫酸で、体に付くとその部分が侵されます。万一、目に入ったときは、すぐに多量の水で5分以上洗眼し、医師の診断を受けてください。

注　意！

◆バッテリーの接続を外すときは、⊖側のバッテリーケーブルを先に外してください。また、バッテリーを接続するときは⊕を先に接続します。

◆バッテリーケーブルを外すときは、エンジンスイッチを0の位置にし、すべての電気装備のスイッチがオフになっていることを確認してください。

◆充電機で充電するときは、バッテリーからバッテリーケーブルを外してください。

◆エンジン回転中は、絶対にバッテリーケーブルをゆるめたり外さないでください。オルタネーターや他の電気装備を損傷するおそれがあります。

◆バッテリーケーブルは、ゆるまないよう確実に締め付けてください。

◆バッテリーからバッテリーケーブルを外すと、ラジオなどのメモリーが消去されます。各装置の取り扱いに従いリセットしてください。不明な点は指定サービス工場におたずねください。

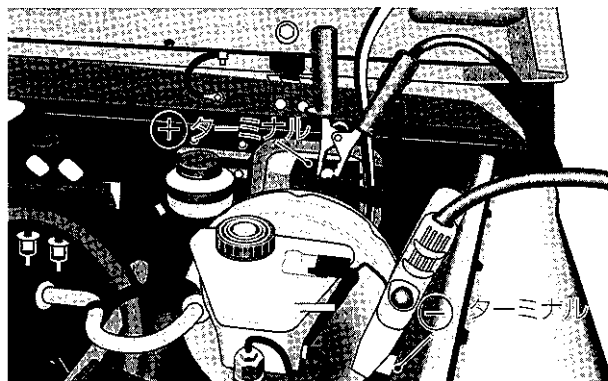
◆車を長期間にわたって使用しないときや、主に短距離の走行に使用するときは、バッテリーの点検を通常よりも多く行なってください。

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店で処分をお願いしてください。

バッテリーが上がったとき

以下のようなときはバッテリーが上がっています。
◇スターターがまわらない。まわっても回転が弱く、エンジンが始動しない。
◇ランプがいつもより暗い。

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使い他車のバッテリーを電源として始動することができます。容量の大きい太めのブースターケーブルを使用してください。

> ⚠ **警　告**
>
> **●作業を始める前に必ず以下の指示を読んでください。指示に従わないと、電装部品を損傷したり、バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。**

始動の方法：

1 電圧が12Vで、バッテリーの容量が同程度の正常な車を準備します。
2 両方の車のエンジンスイッチを0の位置にします。
3 バッテリーが上がった車の電気装備をすべて停止します。
4 バッテリーが上がった車のエンジンルームにある⊕ターミナルのカバーを開いてケーブルを接続し、正常な車のバッテリーの⊕ターミナルと接続します。
5 正常な車のエンジンを始動し、アイドリング回転にします。
6 正常な車のバッテリーの⊖ターミナルにケーブルを接続し、バッテリーが上がった車の⊖ターミナルと接続します。

7 バッテリーが上がった車のエンジンを始動します。

注　意！

◆電気回路を守るため、エンジンを始動したら、ヒーターやリアデフォガーなどの電気装備を作動させてください。ただし、ライトは点灯させないでください。

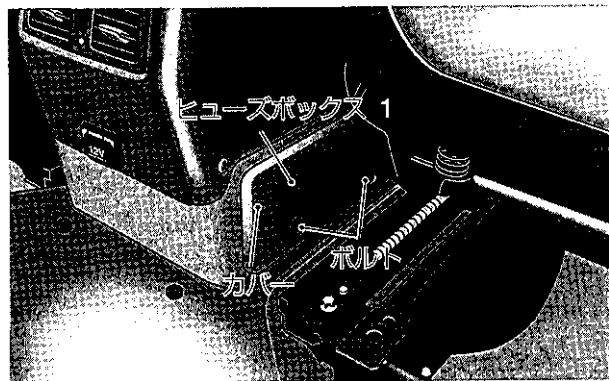
8 接続したときと逆の順序でケーブルを外します。
9 必要のない電気装備を停止します。

注　意！

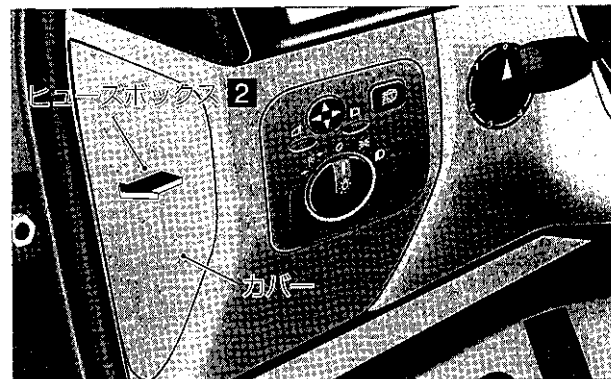
◆押しがけによる始動はできません。
◆エンジンが温まっているときは、ブースターケーブルによる始動を行なわないでください。また、何度も繰り返し始動しないでください。三元触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。
◆急速充電機などを使用してエンジンを始動しないでください。電気系統を損傷するおそれがあります。
◆ブースターケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように注意してください。

知　識

◇放電したバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときはブースターケーブルによる始動をする前に、お湯などで温めて(火気は絶対に近づけないでください)、バッテリー液を溶かしてください。

ヒューズが切れたとき

ランプ類が点灯しなかったり、電気系の装備が作動しないときは、ヒューズが切れている可能性があります。
ヒューズの交換は、指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

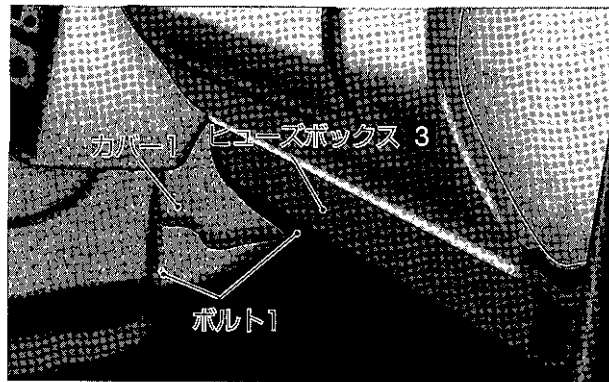
注　意！

◆電気系統の作業を行なうときは、バッテリーのマイナス端子を外してください。

ヒューズボックスの位置：
ヒューズボックスは3箇所にあります。

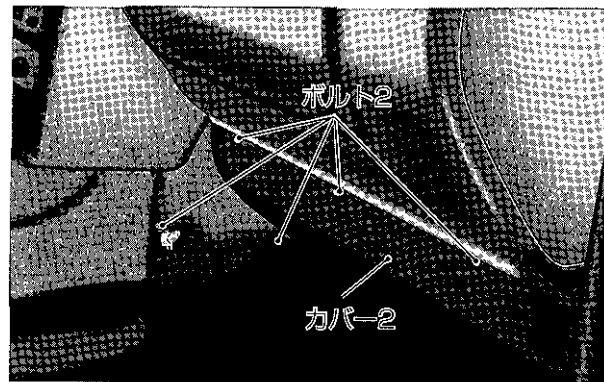
ヒューズボックス**1**は、センターコンソール右側後部にあります。助手席シートを最前部まで動かし、ボルトをゆるめ、カバーを取り外します。

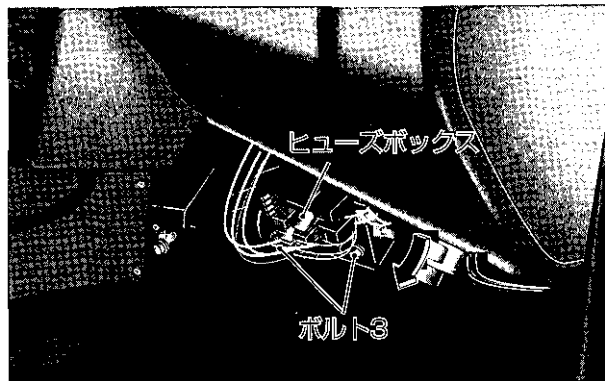
注　意！

◆ヒューズボックス**1**のヒューズの交換は指定サービス工場で行なってください。

ヒューズボックス**2**は、ライトスイッチの横にあります。
カバーを矢印の方向に取り外します。

ヒューズボックス**3**は、グローブボックス下部のカバー内にあります。

注　意！

◆ヒューズボックス**3**のヒューズの交換は指定サービス工場で行なってください。

ヒューズボックスを開くとき：

1 ボルト**1**をゆるめ、カバー**1**を取り外します。
2 ボルト**2**をゆるめ、カバー**2**を取り外します。

3 ヒューズボックスは、交換作業を容易にするため引き出すことができます。引き出すときはボルト3を外します。

ヒューズの交換：

1 エンジンスイッチを**0**の位置にします。
2 ヒューズプラーで、該当するヒューズを取り外します。
3 ヒューズが切れていたら同じ容量のヒューズと交換します。

注　意！

◆規定より大きい容量のヒューズを使用したり、ヒューズの改造、針金などによる代用をしないでください。火災が発生するおそれがあります。
◆ヒューズを交換してもまたすぐに切れたり、装置が作動しないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
◆ヒューズボックスの中には湿気が入らないようにしてください。
◆ヒューズが切れていないのに、ランプ類が点灯しなかったり、電気系の装備が作動しないときは、電球切れや故障が考えられます。速やかに指定サービス工場で点検を受けてください。

電球の交換

電球を交換するときは、規格に合った同容量の電球と交換してください。

注　意！

◆ハロゲンランプが熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。ハロゲンランプには圧力のかかったガスが封入されているので、破裂するおそれがあります。
◆ハロゲンランプ(ヘッドランプ、フォグランプ)を交換するときは、手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。ハロゲンランプは使用時に高温になるので、電球の表面に油などが付着すると電球が切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布でよく拭き取ってください。

マルチファンクションディスプレイの電球切れ警告表示：

電球が切れたときは、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージ(93ページ)が表示されます。速やかに電球を交換してください。
方向指示灯(サイドを除く)の電球切れのときは、マルチファンクションディスプレイの故障/警告メッセージ(93ページ)に加えて、方向指示表示灯(86ページ)の点滅と音の間隔が短くなります。

※電球(ランプ)一覧表は262ページをご覧ください。

車との上手なつきあいかた

寒冷時には、通常とは違った取り扱いが必要です。車を快適に使っていただくために、必ず以下の注意事項を守ってください。

寒くなる前には

◇冷却水の濃度を50～55%にしてください。
◇ウォッシャー液は必ず純正の冬用ウォッシャー液を使用してください。
◇燃料タンクの水抜きをしてください。燃料タンクに水分がたまると、凍結して故障の原因になることがあります。
◇バッテリーの点検を指定サービス工場で受けてください。

運転する前には

◇車に積もった雪や氷結を取り除いてください。ドアが凍結しているときは、お湯をかけて氷を溶かしてから開きます。かけた湯は凍結を防止するため十分に拭き取ってください。
◇お湯をかけるときは、キーシリンダーにかけないでください。凍結するとキーが差し込めなくなるおそれがあります。
◇足回りなどに氷塊が付着しているときは、部品を損傷させないように十分注意して取り除いてください。
◇雪や氷を取り除いてからワイパーを動かしてください。無理に動かすと、モーターやワイパーブレードを損傷するおそれがあります。
◇雪が付着した靴でペダルを操作しないでください。足元が滑ったり、ウインドウが曇りやすくなります。

駐車するときは

◇駐車ブレーキを使用しないでください。ブレーキが凍結するおそれがあります。セレクターレバーを P に入れ、輪止めをします。
◇エンジンの冷え過ぎを防ぐために、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて駐車してください。エンジンが冷えすぎると始動が困難になることがあります。
◇軒下や樹木の下に駐車しないでください。落雪で車を損傷するおそれがあります。
◇エンジンを毛布でおおったり、フロントグリルの内側に段ボールや新聞紙を挟まないでください。そのまま走行すると、故障や火災が発生するおそれがあります。

雪道を走行するときは

気温4℃以下で、雪道や凍結路を走行するときは、スノータイヤの装着をお勧めします。
安全な走行、操縦性を維持するため、必ず以下の注意事項を守ってください。
◇スノータイヤは4輪に装着してください。
◇4輪ともに構造やトレッドが同じスノータイヤを装着してください。
◇雪道や凍結路は非常に滑りやすく、タイヤの性能や駆動力が著しく低下するため、ステアリングとブレーキ操作が困難になります。速度を落とし、車間距離を十分に取ってください。
◇急加速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。
◇ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。前後の車に十分注意して、ときどきブレーキペダルを踏んで効き具合を確認してください。効きが悪いときは、効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏みながら低速で走行してください。

注　意！

◆回転方向が指定されているスノータイヤは、タイヤの側面に記された、回転方向の矢印にしたがって装着してください。
◆スノータイヤを装着しているとき、標準のスペアタイヤを使用すると、操縦性が変わりますので、注意して運転してください。
◆取り外したタイヤ / ホイールは乾燥した冷暗所で保管し、タイヤがオイルやグリス、ガソリンなどに触れないようにしてください。
◆スノータイヤのトレッド溝の深さが4mm以下になったときは、必ず新品と交換してください。

雪道で車が動けなくなったときは

排気管と車の周りから雪を取り除いてください。
車が雪に埋もれた状態でエンジンが回転していると、一酸化炭素が車内に入り込んで、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

スノータイヤを装着しても走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

スノーチェーンを装着したときは

安全な走行をするために、必ず以下の注意事項を守ってください。

◇スノーチェーンはダイムラー・クライスラー社の指定品を使用してください。取り扱いはスノーチェーンの説明書に従い、不明な点は指定サービス工場におたずねください。
◇スノーチェーンは4輪すべてに装着することをお勧めします。
◇スノーチェーンを2本だけ使用するときは、必ず後輪に装着してください。
◇スノーチェーン装着時は約30km/h以下の速度で走行してください。
◇路面に雪や凍結がなくなったときは、速やかにスノーチェーンを外してください。

冬期の手入れ

凍結防止剤を散布した道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類がまかれる地方では1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

雨の日の運転

◇晴れの日に比べると路面が滑りやすく、タイヤの性能や駆動力が低下します。速度を落とし、車間距離を十分に取ってください。
◇雨の降り始めの路面は特に滑りやすいため、慎重に運転してください。
◇急激なエンジンブレーキは避けてください。スリップして車のコントロールを失うおそれがあります。
◇クルーズコントロールは使用しないでください。車のコントロールを失うおそれがあります。
◇激しい雨の中を、長時間ブレーキを使用しないで走行した後にブレーキペダルを踏むと、ブレーキの効きが遅れたり、いつもより強く踏まなければならないことがあります。このようなときは、いつもより長めに車間距離を取り、効きが回復するまで、ブレーキペダルを繰り返し軽く踏んでください。
◇フロントウインドウの曇りを取るときは、エアコンディショナーのデフロスタースイッチ ⊡ を押してください(191ページ)。
◇リアウインドウの曇りを取るときは、リアデフォガースイッチ ⊡ を使用してください(191ページ)。

夏期の取扱い

◇夏になる前にエアコンディショナーの冷媒が不足していないか点検してください。
◇室内温度が高いときは、ウインドウを開けて熱気を逃がしてからエアコンディショナーを使用してください。
◇炎天下に駐車するときは、ボディに覆いをかけたり、ステアリングやシートにタオルなどをかけて、室内温度の上昇を抑えてください。
◇オーバーヒートを防ぐため、冷却水量の確認をこまめに行なってください(240ページ)。

点検整備

車の性能を十分に発揮させ、安全快適に運転していただくためには、指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

◇ダイムラー・クライスラー社の指示にそった点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

メンテナンスインジケーター

メーカー指定点検整備の時期を知らせる目安として、マルチファンクションディスプレイにメンテナンスインジケーター(108ページ)が表示されます。

◇1年、2年点検整備は、車検時を含め法律で定められ実施するものです。
次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。お確かめください。
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

◇車には整備手帳が備えてあります。実施された作業を整備手帳で確認してください。

日常点検を忘れずに

◇お客様の判断で日常的に行なっていただく点検です。日常点検は法律で義務づけられています。点検項目については別冊の整備手帳をご覧ください。

◇普段と違う音や臭いがするとき、車を停めていた場所に水やオイルの跡が残っているときなどは、指定サービス工場で早めに点検を受けてください。

市街地および苛酷な条件下での運転

◇発進や停止が多い市街地、山間部や路面状態の悪い道路、トレーラーけん引など、きびしい条件下で運転するときは、タイヤ、エアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を、お客様の判断で行なうことも必要です。
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

エンジンルームの点検

エンジンルームの点検をするときは以下の事項を厳守してください。

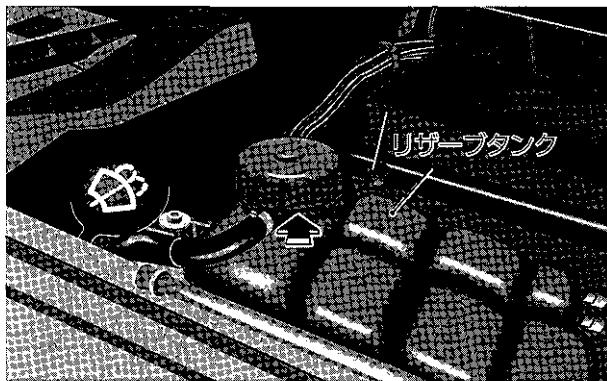
⚠警　告

●イグニッションシステムに手を触れないでください。高電圧を発生させるので感電するおそれがあります。

注　意！

◆エンジンが回転しているときは、回転部に触れないように十分注意してください。
◆エンジン停止後も、水温の高いときはファンが回転をつづけることがあります。
◆エンジンの熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。
◆ラジエーターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。
◆作業は安全な場所を選んで行なってください。
◆適切な工具を使用してください。
◆エンジンルーム内に部品や工具を置かないでください。
◆エンジンルームの手入れについては252ページをご覧ください。

環境保護のため、油脂類を廃棄するときは、指定サービス工場に相談してください。

冷却水の点検と補給

冷却水はリザーブタンクで点検と補給を行ないます。

点検するとき：
点検は水平な場所で行ないます。
冷却水が冷えている状態で、リザーブタンクのネック(矢印)まであれば適量です。水温が高いときは15mmほど高くなります。

※冷却水レベル警告が表示されたときは、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージ(92ページ)をご覧ください。

⚠警　告

●水温が高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。
●不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。不凍液が熱くなったエンジンに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注　意！

◆マルチファンクションディスプレイに冷却水温警告が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
◆冷却水の減りかたが著しいときは、指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

補給

冷却水が不足している場合は、冷却水が冷えているときにリザーブタンクに補給します。

1 リザーブタンクのキャップをゆっくり反時計回りにまわします。約1/2回転までまわして圧力を抜いてから外します。
2 レベルに注意して冷却水を補給します。
通常は軟水(水道水)に純正の不凍液を混ぜて使用します。
車を使用する地域(最低気温)によって濃度を変えます。

不凍液の濃度：

凍結温度	不凍液混合率
−37℃	約50%
−45℃	約55%

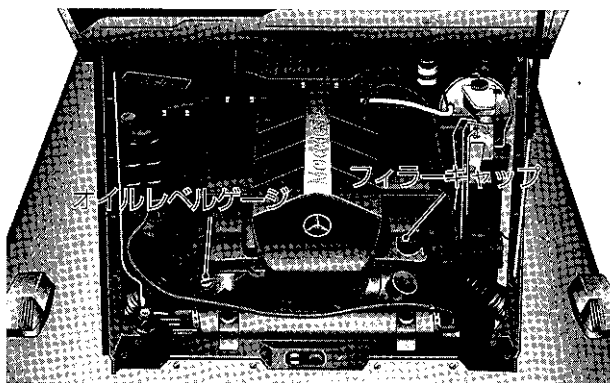
注　意！

◆冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。
- 濃度を50%(凍結温度−37℃)から55%(凍結温度−45℃)の間にしてください。
- 冷却性能が低下するので濃度を55%以上にしないでください。

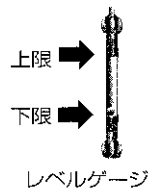
◆指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。
◆不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、速やかに水で洗い流してください。

冷却水の交換時期

冷却水は経時的に効果が劣化しますので整備手帳に従って定期的な交換が必要です。
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

エンジンオイルの点検と補給

G500L

オイルレベルゲージで点検する方法

1 車を水平な場所に停めます。
2 エンジンを回転させ、エンジンオイルを温めます。
3 エンジンを停止して、5分ほど待ちます。
4 オイルレベルゲージを抜き取り、付着しているオイルを拭き取ってから、再び差し込みます。
5 再度オイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイルのレベルと汚れ具合を点検します。付着したオイルのレベルがオイルレベルゲージの上限(max)と下限(min)の間にあれば正常です。

6 エンジンオイルレベルが下限以下のときは、フィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを補給します。

知　識

◇オイルレベルゲージの上限と下限の間は約2 ℓ です。

※マルチファンクションディスプレイにエンジンオイルレベル警告が表示されたときは、故障 / 警告メッセージ(96ページ)をご覧ください。

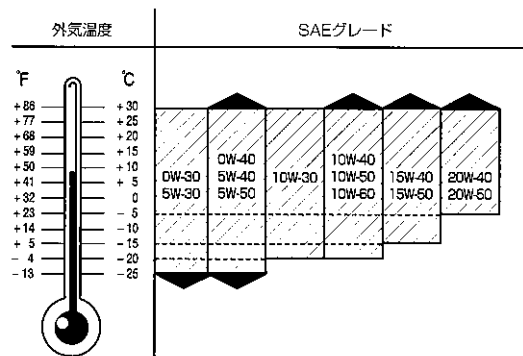
知　識

◇慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少多くなることがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

注　意！

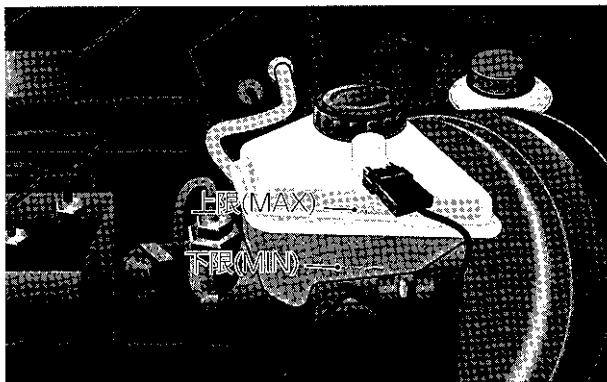
◆必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。
◆種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。
◆エンジンオイルがこぼれたときは完全に拭き取ってください。
◆エンジンオイル量はオイルレベルゲージの上限を超えないようにしてください。オイル量が多すぎると不具合の原因になることがあります。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。
グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選んでください。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

安全ドライブのために
安全装備
運転するまえに
運転するとき
室内快適装備
万一のとき
車との上手なつきあいかた

ブレーキ液の点検と補給

ブレーキ液リザーブタンクのレベルマークで点検します。ブレーキ液のレベルが下限(MIN)と上限(MAX)の間にあれば正常です。
補給するときは、指定のブレーキ液を使用してください。

※マルチファンクションディスプレイにブレーキオイル警告が表示されたときは、故障 / 警告メッセージ(89ページ)をご覧ください。

⚠警　告

- **必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混用すると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。**
- **ブレーキ液を補給するときは、上限(MAX)を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液が熱くなったエンジンに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。**

注　意！

◆ブレーキ液の減りかたが著しいときは、指定サービス工場で速やかに点検を受けてください。
◆ブレーキ液の補給や交換は、指定サービス工場で行なってください。
◆補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
◆補給はエンジンが冷えてから行なってください。排気系などにブレーキ液が付着すると、火災が発生するおそれがあります。
◆MAXを超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、速やかに水で洗い流してください。

ブレーキ液の交換

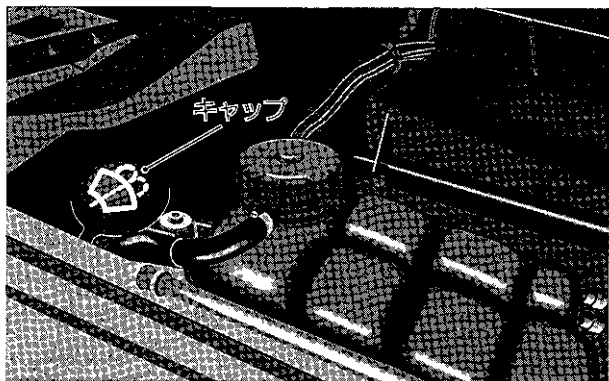
定期的な交換をお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

注　意！

◆ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。そのままで長期間使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

知　識

◇ベーパーロックとは：
長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏みつづけると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液の補充

ウォッシャー液リザーブタンクはエンジンルーム内にあり、ヘッドランプウォッシャーと共用です。補充はリザーブタンクのキャップを開いて行ないます。

⚠警　告

●ウォッシャー液はエンジンが熱くなっているときに補充しないでください。ウォッシャー液が熱くなったエンジンに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

※マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液警告が表示されたときは、故障／警告メッセージ(101ページ)をご覧ください。

ウォッシャー液

純正の専用ウォッシャー液を水に混ぜて使用します(259ページ)。

注　意！

◆ウォッシャー液は、リザーブタンクに補充する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

◆粗悪なウォッシャー液や石けん水などを使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

◆タンクが空のときウォッシャーを作動させると、モーターを損傷するおそれがあります。

知　識

◇ウォッシャー液には夏用(S)と冬用(W)の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ホイールとタイヤの点検

ホイールとタイヤは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

タイヤの点検

1 タイヤ接地部のたわみ状態(別冊「整備手帳」)を見て、空気圧が適当であるか点検します。
2 タイヤに大きな傷がないか、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないかを点検します。
3 タイヤが偏摩耗を起こしたり極端にすり減っていないか点検します。スリップサイン(別冊「整備手帳」参照)が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

⚠警　告

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン(別冊「整備手帳」)が現われたら速やかに交換してください。タイヤの溝が3mm以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、ホイールに適合した純正品のボルトだけを使用してください。純正品以外のボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故につながるおそれがあります。
- 構造の異なるタイヤ(例えばラジアル、バイアス、ベルテッドバイアスなど)を組み合わせて装着しないでください。操縦性に悪影響をおよぼし、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

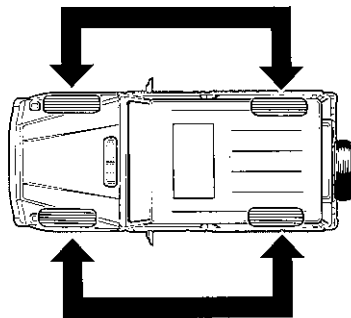
注　意！

◆タイヤのトレッドがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。
◆ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全走行に支障をきたすことがあります。
◆純正品または承認されている製品以外の製品を装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
◆１本だけ新品タイヤを装着するときは、前輪に装着してください。装着するタイヤは他のタイヤと同じ銘柄、同じ構造のものにしてください。
◆タイヤの空気圧を点検するときは、スペアタイヤの空気圧も点検してください。
◆ぬかるみを走行した後などで、ホイールがひどく汚れたときは、ホイールの内側をジェット水流などで洗い流してください。

知　識

◇新品タイヤを装着したときは、走行距離が約100kmを超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。
◇日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず行なってください。
◇タイヤが温まっているときの空気圧は冷えているときよりも、約0.3kg/cm²ほど高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに調整してください。規定の空気圧は260ページまたは整備手帳の別紙「点検整備項目」に記載されています。

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

タイヤローテーション

タイヤの摩耗度は走行距離や使用状況によって異なります。定期的に点検し摩耗の兆候がはっきりしてきたら、タイヤローテーション(前後タイヤの入れ替え)を行なってください。
タイヤローテーションは指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

注　意！

◆タイヤローテーションを行なった後は、ホイールボルトの締め付けトルク13kg-m(130Nm)を確認してください。
◆必ず純正のホイールボルトを使用してください。

知　識

◇タイヤローテーションを行なうと、タイヤの摩耗が均一化します。これによって車の安全性が高まり、タイヤの寿命を延ばすことができます。
◇タイヤローテーションを行なうときは、タイヤの回転方向を変えないように、前後の位置を入れ替えます。

車は定期的に手入れをすることで、美しい状態に保つことができます。純正の手入れ用品を用意しています。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

⚠警　告

●ケミカル用品を使用するときは、必ず使用説明に従ってください。また、車内を清掃するときはドアやウインドウを開いてください。中毒や火災が発生するおそれがあります。

●車の手入れにガソリンやシンナーを使用しないでください。中毒や火災が発生するおそれがあります。

傷を付けてしまったり、誤った手入れなどで錆が発生してしまったときは、指定サービス工場で補修することをお勧めします。

日常の手入れ

◇走行後は、付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。

◇月に一度は洗車をしてください。

◇飛び石による塗装面の傷は錆の原因となります。MBタッチアップペイントで早めに補修してください。

◇保管や駐車は、風通しのよい車庫や屋根のある場所をおすすめします。

◇泥、虫汚れ、鳥のふん、樹液、オイル、燃料、グリスなどが付着したときは、なるべく早く拭き取ってください。特に鳥のふんには塗装面を傷める性質があるため、できるだけ早く洗い流してください。

◇凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、なるべく早く下回りを洗車してください。

◇下回りを洗車するときは、必ずホイールハウス内側も洗ってください。

外装の手入れ

洗車

1 水にMBオートシャンプーを混ぜた洗浄液を用意し、車全体に吹き付けます。空気取り入れ口には吹き付ける量を少なめにし、ダクト内に洗浄液が溜まるのを避けてください。

2 スポンジやセーム革を使用して大量の水で洗い流します。

◇虫汚れは、洗車の前にMBインセクトリムーバーで落としてください。

◇タールの汚れは、MBタールリムーバーで落としてください。タールの汚れは乾くと落ちにくくなるので、早めに手入れをしてください。

◇車外ランプ類の汚れは、きれいな水か、水にMBオートシャンプーを混ぜた洗浄液で洗ってください。ヘッドランプ以外は樹脂製レンズが損傷しないよう、他の洗剤を使用したり、強い力で乾拭きをしないでください。

自動洗車機を使うとき：

◇ドアミラーを格納してください。

◇ブラシの傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

高圧洗車機を使うとき：

◇洗車ノズルをウインドウに近づけすぎないようにしてください。水圧が高いため、車内に水が入るおそれがあります。

塗装面

◇塗装面の手入れは、直射日光の当たる場所や、走行後ボンネットがエンジンの熱で熱くなっているときは行なわないでください。

◇塗装面の手入れには以下の純正の用品を使用してください。手入れ方法は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

MBペイントプロテクター
通常の手入れに使用します。塗装面を保護し、光沢を維持します。

MBペイントポリッシュ
車の汚れがひどいときに使用します。

MBペイントクリーナー
古くなった塗装や、変色した塗装に使用します。

MBタッチアップペイント(スティックタイプ)、
MBタッチアップペイント(スプレータイプ)塗装面の小さな傷の応急修理に使用します。

ホイール

1 ぬるま湯にMBオートシャンプーを入れてホイールを洗います。

2 特に落ちにくい汚れにはMBアルミホイールクリーナー＆保護剤を使用してください。

ウインドウ

◇MBガラスクリーナーで磨きます。汚れがひどいときはMBウインドウクリーナーを使用します。

ワイパーブレード

◇ワイパーブレードの汚れは、きれいな布にクリーナーを付けて拭き取ります。

◇ワイパーブレードは、拭き残しが出るようになったら、指定サービス工場で交換してください。

エンジンルーム内の手入れ

◇手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

◇エンジンルームには多くの電気系の装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

パークトロニックセンサーの手入れ

◇リアバンパーの4個のセンサーを洗浄するときは、きれいな水か、水にMBオートシャンプーを混ぜた洗浄液で洗ってください。純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きすると、センサーが故障するおそれがあります。

内装の手入れ

内装部品

◇プラスチック、ゴムなどの部分はMBオートシャンプー、MBプラスチッククリーナーで拭きます。これらの部分には他の洗剤、オイル、ワックスなどを使用しないでください。
◇ステアリング、セレクターレバー、メーターパネルなどの部分は、MBオートシャンプーまたは中性洗剤のぬるめの溶液を毛羽立ちの少ない布に付けて拭きます。これらの部分には絶対にコンパウンドなどを使用しないでください。
◇液体芳香剤をこぼさないようにしてください。変色やひび割れの原因になることがあります。

シートベルト

◇ぬるま湯または石けん水で洗います。
◇シートベルトには化学薬品を含む洗剤を使用しないでください。また、ドライヤーなどの使用、直射日光による乾燥、漂白や染色をしないでください。シートベルトの強度が低下し、事故のとき、十分な効果を発揮することができなくなるおそれがあります。

シートの手入れ

布張り

◇ブラシなどでほこりを落とします。
◇汚れがひどいときはドライシャンプーを使用します。しみ抜きはMBスポットリムーバーを使用します。

ベロア

◇湿気や熱によって毛足が寝てしまうと、その部分が汚れたように見えます。このような場合は湿らせたブラシで整えるか、濡れた布を当ててアイロンをかけます。ドライシャンプーも使用できます。
◇シートが湿気を帯びているときは、腰かけないでください。急いで乾かしたいときはドライヤーなども使用できます。

革

◇MBオートシャンプーを含ませた布で拭いてから、乾いた布で拭き取ります。このとき、生地の通気孔からクッションの内部に水分がしみ込まないように注意してください。
◇MBレザークリーナーを使用すると革が長持ちし、静電気の防止にも役立ちます。

人工皮革

◇MBオートシャンプー以外の製品を使用しないでください。また、オイルやワックス類も使用しないでください。

サービスデータ

純正部品

ダイムラー・クライスラー社では点検や修理に必要な部品を豊富に在庫しています。また、世界中どの地域にも部品を供給できるように体制を整えています。
メルセデス・ベンツの部品は厳格な基準で品質管理されています。点検や修理のときは必ず純正部品を使用してください。
純正部品は指定サービス工場に注文してください。

⚠警　告

●ブレーキなどの重要保安部品や走行装置などは純正部品を使用してください。事故やけがなどにつながるおそれがあります。

知　識

◇純正以外の部品を使用して不具合が生じたときは、保証を適用できないことがあります。

ダイムラー・クライスラー社は、資源を有効利用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

純正アクセサリー

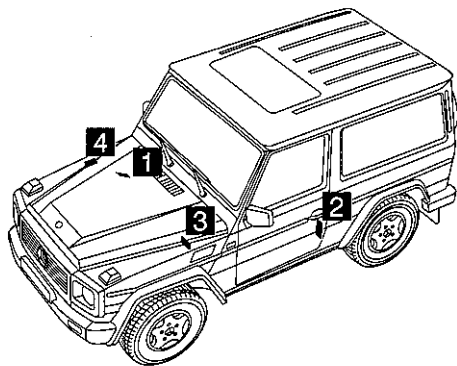
アクセサリーはダイムラー・クライスラー社またはダイムラー・クライスラー日本株式会社が指定する製品を使用してください。

注　意！

◆エアバッグ、シートベルトテンショナー、インストルメントパネル、センターコンソール周辺の修理やオーディオの取り付け、車の板金塗装などをすると、エアバッグやシートベルトテンショナーに悪影響をおよぼすおそれがあります。
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

◆無線機など、電気部品を取り付けるときは指定サービス工場に相談してください。取り付けかたが適切でないと、車の電子部品に悪影響をおよぼすおそれがあります。また、配線を誤ると火災や故障の原因になります。

◆ウインドウに吸盤を貼りつけないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号あるいはエンジン番号が必要になることがあります。車台番号やエンジン番号を知るためのプレート類は図の箇所に取り付けられています。

1 エンジン番号
エンジン右側後部

2 ビークルプレート
運転席側のセンターピラーに表示されています。

3 ボディプレート
ペイントのコードナンバーが表示されています。

4 車台番号
右側フロントホイールアーチ内のフレームに表示されています。

サービスデータ

必ずダイムラー・クライスラー社の純正品または指定品のみを使用してください。
詳しくは指定サービス工場にお問い合わせください。

注　意！

◆オートマチックトランスミッションオイルの交換や補給はしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。オイル漏れがあったり、何らかの異常を感じたとき、またはオイルレベルについては指定サービス工場で点検を受けてください。

	車　種	容　量	油　脂　類	備　考
エンジンオイル	全車	約8.0 ℓ (含、オイルフィルター)	承認オイル	―
オートマチック トランスミッションオイル	G320 G320L	約8.0 ℓ (工場注入時)	承認オイル	―
	G500L G55L AMG	約9.0 ℓ (工場注入時)		
パワーステリングオイル	全車	―	MBパワーステアリングオイル	―
フロントアクスル	全車	―	承認オイル	ハイポイドギアオイル SAE90、85W90
リアアクスル	全車	―	承認オイル	ハイポイドギアオイル SAE90、85W90
ブレーキ液	全車	―	MBブレーキ液	DOT 4
燃　料	全車	約96 ℓ	無鉛プレミアムガソリン	警告灯点灯時の残量 約20 ℓ

油脂類の正確な量はレベルゲージで確認してください。
記載の内容は本取扱説明書作成時のものです。予告なく変更される場合があります。

	車　種	容　量		備　考
冷却水	G320 G320L	約11.5ℓ	MB防錆 / 不凍液	水に不凍液を混ぜて使用します。濃度に注意してください。 (241ページ)
	G500L G55L AMG	約12.0ℓ		
ウォッシャー液	全車	約7.5ℓ	MBウインドウウォッシャー液 冬用 (W)　夏用 (S)	水にMBウインドウウォッシャー液を混ぜて使用します。濃度に注意してください。
バッテリー	全車	12V / 000Ah		リアシート足元のフロア下
エアコンディショナー	全車	R134a		R-12を使用しないこと

サービスデータ

車　種	タイヤ / スペアタイヤ	ホイール	オフセット
G320 G320L	265 / 70R16	軽合金7.5J×16	63mm
G500L	265 / 60R18	軽合金7.5J×18	63mm
G55L AMG	265 / 60R18	軽合金8.5J×18	48mm

※スノータイヤについては、指定サービス工場にお問い合わせください。

	タイヤ 空気圧 [2名乗車時：bar (kg/cm²)]		タイヤ 空気圧 [(5名乗車時：bar (kg/cm²)]	
	前輪	後輪	前輪	後輪
標準タイヤ	2.2	2.2	2.2	3.0
スペアタイヤ	3.0			

※記載の内容は本取扱説明書作成時のものです。予告なく変更される場合があります。

ヒューズ一覧<参考>

ヒューズボックス1（センターコンソール）：

1 ：未使用
2 ：未使用
3 7.5A：テレビ＊
4 20A ：燃料ポンプ
5 ：未使用
6 ：未使用
7 ：未使用
8 7.5A：盗難防止システム
9 20A ：盗難防止システム、リモートコントロール、ルームランプ、バニティミラー照明
自動防眩ミラー、レインセンサー、ステアリングルーフ
10 20A ：リアデフォガー
11 ：未使用
12 7.5A：トランスミッションセンサー
13 5A ：マルチコントロールバックレスト
14 15A ：リアウインドウウォッシャー
15 10A ：燃料給油フラップロック、タンクキャップリリース
16 5A ：未使用＊
17 20A ：マルチコントロールバックレスト、トレーラーランプ＊
18 20A ：トレーラーランプ＊
19 20A ：トレーラーパワーサプライ＊
20 7.5A：リアドアセントラルロッキング

ヒューズボックス2（ライトスイッチ横）：

21 30A ：リモートコントロール、ミラー調整、ドアミラーヒーター、フロントパワーウインドウ、リアパワーウインドウ、ステアリング調整
22 30A ：リモートコントロール、ミラー調整、ドアミラーヒーター、フロントパワーウインドウ
23 5A ：ルームランプ、リア読書灯
24 20A ：ウインドウデフォガー＊
25 30A ：シートヒーター
26 7.5A：乗降用ランプ、イルミネーテッドステップカバー
27 30A ：運転席シート調整、ステアリング調整
28 30A ：電源ソケット
29 ：未使用
30 40A ：エアコンディショナー、ブロワーモーター
31 20A ：スターター、ステアリングロック
32 30A ：リモートコントロール、リアパワーウインドウ
33 30A ：リモートコントロール、リアパワーウインドウ
34 7.5A：未使用
35 20A ：未使用
36 ：未使用
37 15A ：デファレンシャルロック
38 30A ：助手席シート調整
39 40A ：トランスファーケース
40 25A ：ABS
41 7.5A：エアコンディショナー、ブロワーモーター、ドアロックスイッチ、非常点滅灯、リアデフォガー
42 7.5A：エアバッグ警告灯、メーターパネル

A ：未使用
B ：ABS
C ：未使用
D ：ABS、ヒーターブースター＊
E ：未使用
F 20A ：リアシートヒーター
G 20A ：エンジンファン、スターター
H 20A ：エンジンファン、燃料ポンプ

ヒューズボックス3（グローブボックス下部）：

43A 15A:ホーン
43B 15A:ホーン
44 5A :未使用
45 7.5A:エアバッグコントロールユニット、エアバッグ警告灯
46 20A :ワイパー
47 15A :ライター、グローブボックスランプ
48 15A :イグニッションコイル、
49 7.5A:エアバッグコントロールユニット、エアバッグ警告灯
50 5A :スイッチ照明
51 7.5A:メーターパネル
52 15A :スターター
53 15A :エンジンエレクトロニクス
54 15A :エンジンエレクトロニクス
55 7.5A:トランスミッションエレクトロニクス
56 5A :デファレンシャルロック、パークトロニックシステム
57 5A :スターター
58 40A :未使用
59 50A :ABS
60 :未使用
61 :未使用
62 5A :ダイアグノーシスソケット、ヘッドランプ（下向き）
63 :ヘッドランプ（下向き）
64 10A :ラジオ
65 40A :セカンダリーエアインジェクション

＊は日本仕様には装備されていません。
(A463 545 00 00 2000-08-17)

※この仕様は取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

ヒューズ配置表はヒューズボックス2の中にあります。
仕様 / 装備などの違いにより一部仕様が異なることがあります。

電球(ランプ)一覧

電球(ランプ)		ワット数（規格）
ヘッドランプ	下向き	60W(H4)
	上向き	60W(H4)
フォグランプ		55W(H3)
方向指示灯	フロント	21W(黄色)
	サイド	4W(黄色)
	リア	21W(黄色)
バックランプ		21W
ブレーキ、テール(パーキング)ランプ		21W
フロントパーキングランプ / 車幅灯		4W
テール(パーキング)ランプ		5W
リアフォグランプ(右側のみ)		21W
ライセンスランプ		5W

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

A

S

対象モデル

G320

G320L

G500L

G55 AMG

※この取扱説明書の内容は、2001年3月現在のものです。